

第三十六條 公証人ハ自己及親族ノ爲メニ証書ヲ作ルコトヲ得ス其親族他人ノ代理人タルトキモ又同シ之ニ違ヒタル時ハ其証書ハ公正ノ効チ有セズ
第三十七條 公証人若シ囑託人ノ爲メ訴訟代人若クハ代言人ト爲リ又ハ爲リタルコトアルトキハ其訴訟事件ニ付証書ヲ作ルコトヲ得ス之ニ違ヒタルトキハ其証書ハ公正ノ効チ有セズ

第三十八條 公証人ハ自己親族立會人又ハ証人ノ爲メニ利益アル條件ヲ証書中ニ記スヘカラス若シ之ヲ記シタルトキハ其條件ハ無効トス

第三十九條 公証人ハ証書ノ原本ヲ保存ス可シ若シ之ヲ保存セズ又ハ亡失シタル場合ニ於テ第四十七條ノ手續ヲ爲サハルトキハ其証書ハ公正ノ効チ有セズ

第四十條 囑託人若シ代理人又ハ後見人ナルトキハ其委任狀又ハ其証書ノ寫ヲ原本ニ連續スヘシ其寫ニハ本書ト對照シ相違ナキ旨ヲ附記シ公証人並ニ關係人署名捺印シ其寫ト本書トニ對印スヘシ

第四十一條 証書ニ關係ノ書類ハ之ヲ原本ニ連續スルコトヲ得之ヲ連續シタルトキハ其旨ヲ原本ノ欄外又ハ末尾ニ附記シ公証人並關係人捺印ス可シ
第四十二條 原本ニハ証券印稅規則ニ定メタル印紙ヲ貼用ス可シ

第二節 正本及謄本
第四十三條 正本ハ數量ノ定リタル金錢其他換用物若クハ有價証券ノ支辨ニ限り權利者ノ請求ニ依リ之ヲ渡ス可シ之ニ違ヒタルトキハ正本ノ効チ有セズ

正式謄本及抄録正式謄本ハ權利者ノ請求ニ依リ之ヲ渡ス可シ

第四十四條 正本又ハ正式謄本ハ原本ト同時ニ又ハ原本ヲ作リタル後ニ於テ之ヲ作ルコトヲ得原本ト同時ニ作ルトキハ關係人ノ面前ニ於テシ原本ヲ作リタル後ニ作ルトキハ更ニ義務者ノ立會ヲ以テス可シ義務者出席セサルトキハ正本又ハ正式謄本ヲ求ムル者ヨリ管轄始審裁判所ニ出願シ其命令ニ依テ他ノ公証人一員又ハ裁判所ノ裁判官檢察官又ハ書記一員ノ立會ヲ以テ之ヲ作ル可シ之ニ違ヒタルトキハ其効チ有セズ
裁判所ノ命令ニ依テ正本又ハ正式謄本ヲ作リタルトキハ其末尾并ニ原本ノ末尾ニ其旨ヲ附記シ其命令書ハ之ヲ原本ニ連續ス可シ

第四十五條 正本又ハ正式謄本ヲ作ルトキハ第三十一條第三十三條第三十四條第三項及第三十五條ノ規定ニ依ル可シ

正本又ハ正式謄本ニハ權利者ノ氏名並ニ之ヲ作リタル年月日及場所ヲ記シ公証人並ニ義務者署名捺印ス可シ前條第一項ノ場合ニ於テハ公証人及他ノ公証人又ハ裁判所ノ官吏署名捺印ス可シ之ニ違ヒタルトキハ其効チ有セズ

第四十六條 正本又ハ正式謄本ヲ渡シタルトキハ原本ノ末尾ニ其旨ト年月日トヲ附記シ權利者ヲシテ署名捺印セシム可シ

第四十七條 正本又ハ正式謄本ハ原本ノ亡失シタルトキ管轄始審裁判所ノ認可ヲ經之ヲ原本トシテ保存ス可シ

第四十八條 數事件ヲ列記シ數人各自ニ關係ヲ異スル証書ハ權利者ノ請求ニ依リ其有用

庶務

ノ部分ヲ抄録シテ正本又ハ正式謄本ヲ作ルコトヲ得

正本又ハ正式謄本ヲ渡シタル者ニハ更ニ抄録正本又ハ抄録正式謄本ヲ渡スコカラス又抄録正本又ハ抄録正式謄本ヲ渡シタル者ニハ更ニ正本又ハ正式謄本ヲ渡スコカラス之ヲ渡スト雖モ其効チ有セス

第四十九條 正本又ハ正式謄本ハ管轄始審裁判所ノ命令アルニ非サレハ再度之ヲ渡スコトヲ得ス之ヲ渡スト雖モ其効チ有セス

再度以上正本又ハ正式謄本ヲ得ント欲スル者ハ其事由ヲ具シテ管轄始審裁判所ニ願出ツ可シ管轄始審裁判所ハ原本ヲ保存スル公證人ニ其正本又ハ正式謄本ヲ渡スコキコトヲ命スルコトアル可シ

其正本又ハ正式謄本ニハ幾度ノ正本又正式謄本ナルコトヲ末尾ニ附記シ公證人署名捺印ス可シ之ニ違ヒタルトキハ其効チ有セス

第五十條 抄録正本又ハ抄録正式謄本ハ總テ正本又ハ正式謄本ト同一ノ手續ニ依リ之ヲ作ル可シ其効力モ亦同シ

第五十一條 證書ノ謄本及其附屬書類ノ寫ハ關係人ノ求メニ應シ之ヲ渡スコシ

第五十二條 謄本ニハ原本ノ全文ヲ寫シ其末尾ニ謄本ト記シ公證人署名捺印スコシ

第五十三條 抄録謄本ニハ原本ノ年月日及囑託人ノ族籍住所職業氏名ヲ記シ末尾ニ抄録謄本ト記シ公證人署名捺印スコシ

第五十四條 管轄始審裁判所ノ命令ニ依リ關係外ノ者ニ謄本ヲ渡シタルトキハ其命令書

ヲ原本ニ連續シ末尾ニ命令書ヲ受ケタル旨並ニ年月日ヲ附記シ受取人ヲシテ署名捺印セシム可シ

第三節 見出帳

第五十五條 公證人ハ見出帳ヲ作り記入前管轄始審裁判所ニ差出シ綴目合目ニ其所長ノ官印ヲ受ク可シ

第五十六條 見出帳ニハ日々取扱ヒタル書類中ヨリ第三十一條及第三十三條ノ規定ニ從ヒ左ノ件々ヲ記入スコシ

第一 囑託人ノ住所氏名

第二 書類ノ番號種類

第三 書類ヲ取扱ヒタル年月日

第四節 兼任及書類ノ授受

第五十七條 公證人死去失踪免職辭職轉職又ハ他ノ役場ニ轉シテ直ニ後任者ノ命セラレサル場合又ハ停職ノ場合ニ於テハ管轄始審裁判所ハ近隣ノ公證人ニ命シテ其事務ヲ兼任セシム可シ

役場ヲ廢シタルトキハ書類ノ引繼ヲ近隣ノ公證人ニ命スコシ

第五十八條 前條ノ場合ニ於テ兼任者ナキトキ其他必要ト見認ムル場合ニ於テハ管轄始審裁判所ハ直ニ其役場ノ書類ニ封印ヲ爲スコシ

第五十九條 公證人免職辭職轉職又ハ他ノ役場ニ轉シタル場合ニ於テハ後任者又ハ兼任

者ハ前任者ト立會ヒ書類ノ提要目錄ヲ作り共ニ署名捺印シテ授受ス可シ死去失踪其他ノ事故ニ因リ引渡人ナキ場合ニ於テハ後任者又ハ兼任者ハ管轄始審裁判所ノ官吏ト立會ヒ提要目錄ヲ作り受取ル可シ

書類封印後ニ命セラレタル後任者又ハ兼任者ハ管轄始審裁判所ノ官吏ト立會ヒ封印ヲ解キ提要目錄ヲ作り受取可シ

後任者又ハ兼任者ハ提要目錄ヲ作りタル日ヨリ一月以内ニ其目錄ノ寫一通ヲ管轄始審裁判所ニ差出ス可シ

第六十條 公證人停職ノ場合ニ於テハ兼任者ハ第五十九條ノ手續ヲ爲スニ及ハス書類ノ保存ハ停職者之ヲ擔當ス可シ兼任者ハ停職者ノ役場ニ於テ其職務ヲ行フ可シ

第六十一條 兼任者引繼ノ書類ヲ更ニ他ノ公證人ニ引渡ストキハ其命ヲ受ケタル日ヨリ三日以内ニ自己ノ引繼ギタルトキノ目錄ニ依テ引渡ヲ爲シ其始末書ヲ作り受繼人ト共ニ署名捺印ス可シ

受繼人ハ始末書ヲ作りタル日ヨリ一月以内ニ其寫一通ヲ作り管轄始審裁判所ニ差出ス可シ

第六十二條 停職者復任スルトキハ管轄始審裁判所ヨリ兼任者ニ解任ヲ命スヘシ

第六十三條 前任者ノ作りタル原本ニ依テ後任者正本又ハ謄本ヲ渡ストキハ其受繼人タル旨ヲ附記スヘシ

本任者ノ作りタル原本ニ依テ兼任者正本又ハ謄本ヲ渡ストキハ兼任者タル旨ヲ附記ス

第四章 手数料及旅費日當

第六十四條 公證人ハ此章ニ定メタル程限ニ隨ヒ囑託人ヨリ手数料及旅費日當ヲ受クルコトヲ得

第六十五條 手数料ハ原本一枚ニ付キ貳拾五錢正本及謄本ハ一枚ニ付拾錢但一行二十字二十行ヲ以テ一枚トシ十行以上ハ一枚十行以下ハ半枚ヲ以テ算ス

第六十六條 囑託人ノ求メニ依リ先ツ證書ノ草案ヲ渡シ後其原本ヲ作りタルトキハ草案ノ手数料ヲ別ニ請求スルコトヲ得ス但其原本ヲ作ラサルトキハ原本手数料ノ半額ヲ受クルコトヲ得

第六十七條 公證人其役場ヨリ一里以外ノ地ニ往テ職務ヲ行フトキハ往返トモ旅費トシテ一里毎ニ貳拾錢ヲ受クルコトヲ得其職務ヲ行フ爲メ或ハ災變ノ爲メニ其場所又ハ途中ニ滞留スルトキハ日當七拾錢ヲ受クルコトヲ得

第六十八條 兼任者本任者ニ代リテ其職務ヲ行フトキハ其手数料ハ總テ兼任者之ヲ受クヘシ

第六十九條 手数料ノ外證券印紙並ニ郵紙ノ代價ハ囑託人ヨリ之ヲ受クルコトヲ得

第七十條 囑託人ノ求メアルトキハ手数料等ノ計算書ヲ與フヘシ

第七十一條 手数料等ニ係リ争ノ生シタルトキハ其金額ニ拘ハラヌ管轄始審裁判所ニ訴フ可シ

第五章 懲罰

第七十二條 公證人此規則ヲ犯シタルトキハ管轄始審裁判所ニ於テ第七十三條ヨリ第七十六條マテニ定メタル規定ニ依リ處分ス可シ

第七十三條 左ノ違犯ハ五拾錢以上一圓九十五錢以下ノ過料ニ處ス

第七十四條 左ノ違犯ハ五圓以上五圓以下ノ過料ニ處ス

第七十五條 左ノ違犯ハ五圓以上五圓以下ノ過料ニ處ス

第七十六條 左ノ違犯ハ五圓以上五圓以下ノ過料ニ處ス

第七十七條 左ノ違犯ハ五圓以上五圓以下ノ過料ニ處ス

第七十八條 左ノ違犯ハ五圓以上五圓以下ノ過料ニ處ス

第七十九條 左ノ違犯ハ五圓以上五圓以下ノ過料ニ處ス

第八十條 左ノ違犯ハ五圓以上五圓以下ノ過料ニ處ス

第八十一條 左ノ違犯ハ五圓以上五圓以下ノ過料ニ處ス

第八十二條 左ノ違犯ハ五圓以上五圓以下ノ過料ニ處ス

第八十三條 左ノ違犯ハ五圓以上五圓以下ノ過料ニ處ス

第八十四條 左ノ違犯ハ五圓以上五圓以下ノ過料ニ處ス

第八十五條 左ノ違犯ハ五圓以上五圓以下ノ過料ニ處ス

第八十六條 左ノ違犯ハ五圓以上五圓以下ノ過料ニ處ス

第八十七條 左ノ違犯ハ五圓以上五圓以下ノ過料ニ處ス

第五十三條ニ違ヒタル時

第五十四條ニ違ヒタル時

第五十五條ニ違ヒタル時

第五十九條ノ第四項ニ違ヒタル時

第六十一條ニ違ヒタル時

第六十三條ニ違ヒタル時

第七十四條 左ノ違犯ハ二圓以上五圓以下ノ過料ニ處ス

第七十三條ニ違ヒタル時

第七十四條ノ第一項ニ違ヒタル時

第七十五條ノ第二項ニ違ヒタル時

第七十八條ノ第二項ニ違ヒタル時

第七十九條ノ第一項又ハ第三項ニ違ヒタル時

第七十五條左ノ違犯ハ五圓以上三十圓以下ノ過料ニ處ス

第七十六條ニ違ヒタル時

第七十七條ニ違ヒタル時

第七十八條ニ違ヒタル時

第七十九條ノ第五ノ規定ニ違ヒタル時

第三十三條ニ違ヒタル時
 第三十四條ノ第二項又ハ第三項ニ違ヒタル時
 第三十六條ニ違ヒタル時
 第三十七條ニ違ヒタル時
 第三十八條ニ違ヒタル時
 第三十九條ニ違ヒタル時
 第七十六條 左ノ違犯ハ一月以上四月以下ノ停職ニ處ス
 第四條ノ第一項ニ違ヒタル時
 第十五條ニ違ヒタル時
 第十六條ニ違ヒタル時
 第十七條ニ違ヒタル時
 第七十七條 公證人前數條ニ掲ケタル懲罰處分ニ對シ不服アルトキハ管轄控訴院ニ抗告スルコトヲ得但抗告ハ其處分ノ執行ヲ停止スルノ効力ナキモノトス
 第七十八條 公證人停職ニ當ル所爲三度ニ及ヒタルトキハ司法大臣其職ヲ免ス
 第二十條ノ第一第二第三ニ記載シタル處分ヲ受ケ又ハ身許保證金ヲ差入レサルトキ亦前項ニ同シ
 第七十九條 公證人此規則ヲ犯シタルニ依リ他人ニ損害ヲ生セシメタルトキハ之ヲ賠償ス可シ

○公證人規則施行條例 明治十九年八月
 司法省令甲第二號
 第一條 公證人ハ一受持區ニ五名以下ヲ置クモノトス
 若シ公證人ノ員數不足スルトキハ受持區ニ依リテハ全ク之ヲ置カサルコトアル可シ
 第二條 公證人ハ其受持區内ニ於テ住居セント欲スル町村ヲ定メ其願書ヲ始審裁判所ニ差出シ控訴院ヲ經テ司法大臣ノ認可ヲ請フ可シ
 始審裁判所長及控訴院長ハ公證人ヨリ差出タル住居願ニ意見ヲ附シテ之ヲ司法大臣ニ送達ス可シ
 司法大臣ニ於テ公證人ヨリ願出タル住居ヲ認可セサルトキハ直チニ其住居ス可キ町村ヲ指定ス
 第三條 公證人既ニ住居ノ認可ヲ受ケタル後火災其他ノ事故アリテ他ニ轉居セントスルトキモ亦前條ノ手續ニ從フ可シ
 第四條 公證人ノ役場ニハ公證人某役場ト記セル表札ヲ掲クヘシ
 役場ニハ成可ク倉庫又ハ堅牢ナル建物ヲ以テ書類保存ノ所ト爲スヲ要ス書類ハ常に書籍ニ藏メ非常持退ノ準備ヲ爲シ置ク可シ
 第五條 公證人規則ニ從ヒ試験ヲ受ケテト欲スル者ハ試験願書ニ履歷書ヲ添ヘ試験期日ノ告示アリタルヨリ試験期日一箇月前マテニ試験ヲ行フ控訴院若クハ始審裁判所ニ差出ス可シ
 試験願書及履歷書ニハ本籍區長若クハ戸長ノ與書ヲ受ク可シ

庶務

第六條 試験ハ各所同時ニ之ヲ行フモノトス
第七條 試験委員ハ筆記試験ノ答案ヲ調査シ其合格不合格ヲ決定シタル後口述試験ヲ行フ可シ

筆記試験ニ合格セサル者ニ付テハ口述試験ヲ行ハス
第八條 試験問題答案ノ適否ハ試験委員ノ判断ニ決スルモノトス

試験ノ結果ハ筆記口述二種ノ総點ニ依リ之ヲ定ム可シ

第九條 試験委員ハ口述試験ノ大畧及試験全體ノ結果ヲ記録ニ記載ス可シ

第十條 試験ニ及第シタル者ニハ試験委員ノ連署シタル及第證書ヲ授與ス可シ

試験ヲ行フタル控訴院若クハ始審裁判所ハ試験及及第人名簿ヲ製シ之ニ及第者ノ住所族籍氏名年齢及ヒ及第ノ年月日ヲ登錄ス可シ

第十一條 試験委員ハ試験ニ關スル一切ノ書類ヲ其試験ヲ行フタル始審裁判所若クハ控訴院ノ長ニ差出ス可シ

始審裁判所ニ於テ試験ヲ行フタルトキハ其裁判所長ハ及第者ニ關スル一切ノ書類ニ意見ヲ附シテ控訴院ニ送致シ控訴院長モ亦意見ヲ附シテ司法大臣ニ差出ス可シ

控訴院ニ於テ試験ヲ行フタルトキハ前項ノ書類ニ控訴院長ノ意見ヲ附シテ司法大臣ニ差出ス可シ

第十二條 公証人マラント欲スル者ハ其願書ニ試験及第證書官記學位記卒業證書又ハ免許狀ノ寫及丁年者二名以上ニテ品行ヲ保証スル證書ヲ添ヘ之ヲ差出ス可シ

試験及第證書ヲ要セサル出願人ハ別ニ履歷書ヲ添ス可シ

第十三條 公証人願書ヲ受ケタル始審裁判所ハ裁判所長及上席檢事ハ出願人ノ身上ニ付品行ノ正否理財ノ整否等詳細ノ取調ヲ爲シ控訴院ニ送致シ控訴院長及檢事長モ亦意見ヲ附シテ之ヲ司法大臣ニ差出ス可シ

第十四條 公証人願書ヲ直チニ控訴院ニ差出タルトキハ控訴院長及檢事長ハ前條ノ取調ヲ爲シ且ツ意見ヲ附シ之ヲ司法大臣ニ差出ス可シ

第十五條 公証人願書ニハ其職務ヲ行ハント欲スル地ヲ明記スヘシ

第十六條 司法大臣公証人ヲ任スルトキハ辭令書ヲ其公証人ノ職務ヲ行フ可キ地ノ管轄控訴院及始審裁判所ヲ經テ本人ニ下付ス

控訴院及始審裁判所ニ於テハ公證人名簿ヲ備置キ公証人ニ任セラレタル者ノ住所族籍氏名年齢及任地ヲ記録ス可シ

第十七條 公証人ニ任セラレタル者ハ身元保証金トシテ現金及ハ相當ノ價格アル公債證書若クハ日本銀行株券ヲ管轄始審裁判所ニ納ム可シ

第十八條 公証人ノ納ム可キ身元保証金ノ額ハ左ノ如シ
東京及大坂 金五百圓

他ノ地方ニ於テハ 金四百圓

人口貳拾萬以上アル受持區 金四百圓

人口貳拾萬未滿拾萬以上アル受持區 金三百圓

庶務

金貳百圓

人口拾萬未滿ノル受持區
前項ノ金額ハ人口ニ増減アリト雖モ既ニ完納シタルモノハ之ヲ増減セス
第十九條 公証人ハ身元保証金ヲ管轄始審裁判所ニ完納セサル間ハ其職務ヲ行フコトヲ
得ズ

公証人任命ノ辭令書ヲ受取タルヨリ三十日以内ニ身元保証金ヲ完納セサルトキハ公証
人規則第七十八條第三項ニ依テ司法大臣其職ヲ免ス

第二十條 公証人ノ身元保証金ハ公証人規則第五章ニ定メアル過料其他賠償ノ抵保ニ充
ツルモノトス

第二十一條 過料賠償其他ノ事故ニ依リ身元保証金ノ全部又ハ一部ヲ減消シタルトキハ
管轄始審裁判所長ハ速ニ保証金ヲ補充ス可キ旨ヲ公証人ニ命ス可シ

公証人保証金ヲ補充スルマテ始審裁判所長ハ假ニ職務執行ノ停止ヲ命スルコトヲ得此
場合ニ於テハ速ニ其旨ヲ司法大臣ニ具申スヘシ

公証人保証金補充ノ命令ヲ受ケ六十日ヲ過キ之ヲ補充セサルトキハ始審裁判所長ハ控
訴院ヲ經テ司法大臣ニ具申シ免職ノ處分ヲ請フ可シ

第二十二條 公証人他ノ役場ニ轉スル場合ニ於テ其保証金ニ不足ヲ生スレハ之ヲ補充セ
シメ若シ餘分アレハ之ヲ還付ス可シ

第二十三條 公証人其職務ヲ罷メタルトキハ身元保証金ヲ還付ス可シ
第二十四條 公証人死去失踪シ又ハ停職ノ處分ヲ受ケタルトキハ管轄始審裁判所ハ控訴

院ヲ經由シ其旨ヲ司法大臣ニ具申ス可シ

停職者復任シタルトキモ亦前項ノ手續ニ從フ可シ

第二十五條 公証人死去失踪停職復任辭職免職又ハ轉職シタル時ハ始審裁判所及控訴院
ハ其旨ヲ公証人名簿ニ記入スヘシ

第二十六條 公証人規則ニ定メアル懲罰處分ハ民事裁判所之ヲ管理シ刑法及治罪法ノ例
ヲ用ヒス

第二十七條 公証人試験願書式履歷書式及公証人願書式ハ左ノ如シ

第一 公証人試験願書式

公証人試験願 料紙美濃紙

族籍 戶主嗣子又ハ二
三男兄弟ノ別

氏 名

年 齡

私儀公証人試験相受度此段奉願候也

現住所

氏 名 印

年 月 日

某控訴院長誰殿(又ハ某始審裁判所長誰殿)

前書ノ通族籍年齢等相違無之候也

本籍

務務

年月日

第二 履歷書式

履歷書 料紙美濃紙

族籍

氏名印

年 齡

一何年何月ヨリ何年何月迄府何某ニ就キ又ハ公私何學校何塾ニ於テ何學修業

一何年何月何々職業仕官進退賞罰等ニ關スル一切ノ件

一公証人規則第二十條ノ各項ニ相觸候儀一切無之候

年月日

氏名印

前書ノ通相違無之候也

本籍

年月日

區長又ハ戶長印

第三 公証人願書式

公証人願 料紙美濃紙

族籍 戶主嗣子又ハ二

三男兄弟ノ別

氏名

年 齡

私儀何府何國某治安裁判所管下公証人受持區ニ於テ公証人ノ職務ヲ行ヒ度志願ニ有之候ニ付御登用被下度試験及第証書官記學位記卒業証書免許狀ノ寫及ヒ品行保証書相添此段奉願候也

年月日

現住所 氏名印

司法大臣殿

又

私儀何府何國某治安裁判所管下及何府何國某治安裁判所管下「某始審裁判所又ハ某控訴院管下」ノ内何レノ公証人受持區ニ於テナリトモ御命令ニ從ヒ公証人ノ職務ヲ行ヒ度志願ニ有之候ニ付御登用被下度試験及第証書官記學位記卒業証書免許狀ノ寫及ヒ品行保証書相添此段奉願候也

前後ノ式ハ前式ニ同シ

○抗告手續明治十九年十一月

今般法律第一號第二號ヲ以テ登記法及ヒ公証人規則制定相成候ニ付其抗告手續左ノ通之

ナ定ム

抗告手續

第一條 登記官吏又ハ公証人ノ職務執行ニ關シ抗告ヲ爲ス者ハ抗告狀ヲ其登記官吏又ハ公証人ニ差出ヌ可シ

庶務

第二條 登記官吏又ハ公証人抗告狀ヲ受取リタルトキハ其翌日ヨリ三日以内ニ意見ヲ附シ且ツ關係書類ノ寫シヲ添ヘ抗告狀ヲ管轄始審裁判所ニ送致ス可シ

第三條 登記官吏又ハ公証人若シ前條ノ期限内ニ抗告狀ヲ管轄始審裁判所ニ送致セサルトキ又ハ急速ヲ要スル場合ニ於テハ抗告者ハ直ニ管轄始審裁判所ニ抗告狀ヲ差出スコトヲ得

始審裁判所ハ抗告ヲ告ケタル登記官吏又ハ公証人ヲシテ意見書ヲ差出サシメ及ヒ關係書類ヲ求ムルコトヲ得

第四條 登記官吏又ハ公証人其職務執行上ニ關シ抗告ヲ受ケタルトキハ其處分ヲ停止スヘシ

第五條 抗告狀ヲ受取タル管轄始審裁判所ハ書面ニ依リ判定ヲ爲ス可シ
始審裁判所ハ必要ナリト認ムル場合ニ於テハ抗告者其他關係人ニ書面ヲ以テ答辨セシムルコトヲ得

第六條 始審裁判所ハ抗告ノ判定書ヲ管轄治安裁判所ニ送致シ之ヲ登記官吏又ハ公証人及抗告者ニ送附セシム可シ
始審裁判所ニ於テ抗告ヲ正當ナリト判定シタルトキハ登記官吏又ハ公証人ハ其判定ニ依リ處分ヲ更正ス可シ

第七條 公証人懲罰處分ニ對シ不服アル者ハ其處分ノ翌日ヨリ起算シ七日内ニ其處分ヲ爲シタル管轄始審裁判所ニ抗告狀ヲ差出ス可シ

裁判所ハ其抗告ヲ正當ナリト認ムルトキハ速ニ其不服ノ點ヲ更正ス可シ若シ之ヲ正當ナラスト認ムルトキハ第二條ノ期限内ニ意見ヲ附シ關係書類ヲ添ヘ抗告狀ヲ管轄控訴院ニ送致ス可シ

第八條 公証人懲罰處分ニ對スル抗告ニ付テモ亦第三條ノ手續ニ依ルコトヲ得

第九條 公証人懲罰處分ニ對スル抗告狀ヲ受取タル控訴院ハ第五條ノ手續ニ從ヒ判定ヲ爲ス可シ

第十條 控訴院ハ其判定書ヲ處分ヲ爲シタル始審裁判所ニ送致シ之ヲ言渡サシム可シ
控訴院ニ於テ抗告ヲ正當ナリト判定シタルトキハ處分ヲ爲シタル始審裁判所ハ其判定ニ依リ處分ヲ更正スヘシ

第十一條 抗告ノ判定ニ對シテハ總テ上訴ヲ爲スヲ得サルモノトス

○登記所位置及管轄區域 明治十九年十二月
登記所ノ位置及管轄區域別表ノ通之ヲ定ム
司法省令甲第四號

(別表畧之)

○登記手續 明治十九年十二月
司法省令甲第五號

本年八月法律第一號ヲ以テ登記法制定ニ付キ明治二十年二月以後登記ヲ請フ者ハ左ノ手續ニ依ル可シ

第一條 登記ヲ請フ者ハ第一號書式ニ準シ登記ノ件目等ヲ記載シ實印ヲ押シタル名刺ヲ登記所ニ差出可シ

庶務

登記簿ノ謄本若クハ抜書又ハ登記簿ノ閲覧ヲ請フ者亦同シ

第二條 後見人ヨリ登記ヲ請フトキハ後見人タルノ証書ヲ登記所ニ差出ス可シ

代人ヲ以テ登記ヲ請フトキハ代理ノ委任狀ヲ付與シ之ヲ登記所ニ差出サシム可シ

第三條 初テ登記ヲ請フ者ハ第二號書式ニ準シ區長ノ証明シタル印鑑ヲ登記所ニ差出ス可シ

第四條 地所ニ付キ初テ登記ヲ請フ者ハ地券ヲ登記官ニ示ス可シ但現ニ質入中ノ地所ニ付テハ此限ニ在ラス

船舶ニ付テハ鑑札ヲ示ス可シ但船舶ニ釘付シタルモノハ此限ニ在ラス

第五條 建物ニ付キ登記ヲ請フトキハ其圖面ヲ登記所ニ差出ス可シ

建物ノ圖面ハ邸地ノ形狀、坪數、(段別)方位及ヒ建物ノ形狀、間尺、位置等ヲ記シ登記ヲ受ク可キ建物ノ圖ハ墨引墨字ト爲シ登記外ナル建物アルトキハ其圖ハ朱引朱字ト爲ス可シ

建物ノ圖面ニハ登記法第九條第十六條第十七條第十八條第十九條ノ場合ヲ除クノ外結約者雙方之ニ署名捺印ス可シ但同第十五條第二項ノ場合ニ於テハ親屬又ハ近隣戶主之ニ連署ス可シ

地所船舶ニ付キ圖面アルトキモ亦前項ニ定メタル署名捺印若クハ連署ヲ要ス

第六條 地所ヲ分割シテ賣買讓與シ又ハ質入書入ト爲ストキハ前條ニ準シ其圖面ヲ差出ス可シ

第七條 裁判執行上ノ驛賣若クハ入札ニ因リ地所建物船舶ノ所有權ヲ得タル者其登記ヲ

請ヒ又ハ地所建物船舶ニ關スル差押假差押差留假差留假處分及地所建物ノ收益差押ニ付キ記入若クハ取消ヲ請フニハ裁判所ヨリ其命令書ヲ受ケ之ヲ登記所ニ示ス可シ

裁判言渡ニ依リ登記、變更若クハ取消ヲ請フトキ亦前項ニ同シ

第八條 登記法第三十二條ニ依リ評價ヲ要スル時ハ登記所ノ命令ニ從ヒ登記料ヲ納ムル者ヨリ評價費用ノ見積金額ヲ豫納ス可シ

第九條 登記簿ノ証ヲ請フ者ハ第三號書式ニ準シ物件等ヲ記載セル願書ヲ登記所ニ差出ス可シ

第十條 登記ヲ受タル物件ノ全部若クハ一部毀壞燒失流亡等ニ依リテ消滅シタルトキハ

其物件ノ所有者ヨリ登記ヲ爲タル登記所ニ書面ヲ以テ其旨ヲ届出ツ可シ

但其物件質入書入又ハ差押差留等ニ係ルトキハ債主又ハ差押差留等ノ權利者ノ連印ヲ要ス地目變換ノ場合ニ於テモ亦前項ノ例ニ準シ届出ヲ爲ス可シ

第十一條 船舶ノ定繋所ヲ更改シタルトキハ原登記所ヨリ登記簿ノ謄本ヲ受ケ之ヲ轉入地ノ登記所ニ差出シ其登記ヲ請フ可シ

同一ノ登記所ニ屬スル町村ニ轉入シタル場合ニ於テハ其登記所ニ登記ノ變更ヲ請フ可シ

第一號書式 (用紙半紙半截)

住 所

庶務

地所
建物賣買(讓與)ニ付登記願
船舶

賣渡人 氏名 印

此代價 金何圓

住 所

此登記料金何圓何錢

買受人 氏名 印

又ハ
年 月 日

何々質入ニ付登記願

此貸借金何圓

又ハ

此登記料金何圓何錢

家督 遺産 相續ニ付登記願

此價格金何圓

又ハ
此登記料金何圓何錢

何々拂下ヲ得候ニ付登記願

此拂下代價金何圓何錢

又ハ

何々登記ノ謄本又ハ拔書下付願

又ハ

此手數料金何錢

又ハ

何々登記簿閱覽願

又ハ

此手數料金何錢

又ハ

登記取消又ハ變更願

又ハ

此手數料金何錢

又ハ

他者以上ノ例ニ從ヒ各別ニ認ム可シ

第二號書式

(印鑑用紙堅五寸横一寸但厚紙ヲ用フ可シ)

印鑑證明願

區役所
又ハ巨
長役場
ノ印

何國何郡何村何番地
何 某

庶務

右印鑑御證明被下度奉願候也

明治何年何月何日

何國何郡何村何番地

何 某印

某區長何某殿

右印鑑相違無之候也

某區長 何 某官印

明治何年何月何日

第三號書式甲

地所登記濟証下付願

何郡何町(村)字何番地

一田何段何畝步

地價金何圓

同郡同町(村)同字何番地

一畑何畝步

地價金何圓

右ノ地所今般何郡何町(村)何番地何某ヨリ讓受(買受)候ニ付地券書換願出度候間登記濟ノ證御下附被成下度此段奉願候也

年何月何日

何郡何町(村)何番地

何 某

某登記所御中

登記濟 某登記所印

明治何年何月何日

第三號書式乙

船舶登記濟証下付願

定製所何

第何號 (鑑札番號)

一西洋形船何々丸

檣 何本

長 何尺

幅 何尺

深 何尺

登簿噸數 何噸

公稱馬力 若干

漚機	何々
漚鐘	何々
端船	何々
何々	何々
何々	何々
又ハ	
定鑿所何	
第何號 (鑑札番號)	
一日本形船何々丸	
石數	何石積
長	何間
幅	何間
深	何間
端船	何艘
何々	何々
何々	何々

右ノ船舶今般何郡何町(村)何番地何某ヨリ買受(讓受)候ニ付鑑札書換願出度候間登記濟ノ證御下付被成下度此段奉願候也

年月日

某登記所御中

登記濟 某登記所印

明治何年何月何日

何郡何町(村)何番地

何 某

○登記事務取扱方 明治十九年十二月 司法省訓令第三十一號 裁判所 府縣

登記法第三條ニ基キ登記事務ハ治安裁判所判事及ヒ登記所々在ノ郡役所戸長役場ノ郡長戸長ヲシテ之ヲ取扱ハシム

但治安裁判所書記郡書記及戸長役場吏員ハ判事郡長戸長ノ命ヲ受テ事務ノ補助ヲ爲スコトヲ得

○登記法取扱規則 明治十九年十二月 司法省訓令第三十二號 裁判所 登記所

本年法律第一號ヲ以テ登記法制定ニ付登記法取扱規則左ノ通之ヲ定ム

第一章 登記所印章及ヒ登記簿

第一條 登記所ハ隸書ヲ以テ其署名ヲ刻シタル印章大小二顆ヲ調製シ其印影ヲ管轄始審裁判所ニ届ケ置ク可シ

第二條 登記簿ハ地所建物船舶ヲ分テ別冊ト爲ス可シ

登記簿ハ前項ノ外町村毎ニ冊ヲ分テ之ヲ設ク可シ但事件寡少ナル町村ニ付テハ數町村

庶務

ヲ合セ一冊ト爲スコトヲ得此場合ニ於テハ各町村毎ニ見出チ付ス可シ

第三條 登記簿ハ一用紙毎ニ登記物件ノ番號ヲ付シ且其一用紙ヲ表題（登記簿用紙中物件ノ欄ヲ設ケタル所ヲ云フ以下準之）及ヒ甲乙丙ノ三區ニ分チ仍ホ其表題及ヒ各區ヲ數欄ニ分ツモノトス

其表題ハ登記法第七條ノ一二三四ニ掲ケタル項目ヲ登記スルノ所トス

其甲區ハ所有權ノ特有即チ賣買讓與等ヲ登記スルノ所トス

其乙區ハ抵當即チ質入書入ヲ登記スルノ所トス

其丙區ハ執行上ノ抵當即チ登記法第九條ニ記載シタル諸件ヲ記入スルノ所トス

第四條 登記簿ハ登記所ノ請求ニ因リ始審裁判所長之ヲ渡ス者トス

登記所ハ凡一年間用フヘキ登記簿ノ冊數及ヒ各冊ノ枚數ヲ見積リ豫メ前項ノ請求ヲ爲ス可シ

第五條 登記簿ハ始審裁判所長其枚數ヲ表紙ノ裡面ニ記載シテ之ニ氏名ヲ署シ官印ヲ捺シ且每葉ニ契印ス可シ

第六條 町村ノ分合アリタル場合ニ於テハ登記所ハ其旨ヲ始審裁判所長ニ申告シ更ニ分合セシ町村ニ對スル登記簿ノ下付ヲ受ク可シ

前項ノ場合ニ於テ舊登記簿其他之ニ屬スル帳簿ハ現狀ノ儘之ヲ保存シ已ニ登記シアル事件ノ變更取消ハ其登記簿ニ登記ス可シ

第二章 登記手續

第七條 登記所ニ於テハ受付帳ヲ製シ置キ登記ノ出願若クハ請求等ノ順序ニ從ヒ之ニ其受付事件ヲ記載シ番號ヲ付ス可シ

第八條 登記官ハ受付番號ノ順序ニ從ヒ願人ヲ取調ヘ又ハ請求書等ヲ審査シ且登記簿ニ就キ本人ノ所有物件ナルコトヲ確認シ仍ホ質入書入又ハ差押差留等ノ記入ノ有無ヲ調査シ若シ是等ノ登記アルトキハ之ヲ本人ニ示シタル上登記ノ手續ヲ爲ス可シ登記官ハ登記ヲ爲ス前本人ノ印影ヲ檢シ區長ノ證明アル印鑑ト符合スルニ非レハ登記ヲ爲ス可カラズ

第九條 登記簿ニ未ダ登記セサル地所建物船舶ニ付キ初メテ登記ヲ爲ス場合ニ於テ治安裁判所及ヒ郡役所ニアル登記所ハ地券鑑札及ヒ所管ノ公簿並ニ登記法第四十條ニ記載スル證書ニ依リ戶長役場ニアル登記所ハ地券鑑札及ヒ所管ノ公簿並ニ其戶長役場ノ公簿若クハ登記法第四十條ニ記載スル證書ニ依リ物件ノ所有者ヲ確認シ其物件ニ故障ナキニ於テハ先ツ登記簿表題ノ部ニ其物件ヲ記載シ所有者ヲシテ之ニ認印セシメタル上各區ニ登記ノ手續ヲ爲ス可シ

第十條 抵當ヲ登記スル場合ニ於テ未ダ物件及ヒ所有者ノ登記アラサルトキハ前條ノ手續ヲ爲シタル上甲區中登記事由ノ欄内ニ書入若クハ質入ノ登記出願ニ付キ何々ノ證書（地券鑑札及ヒ登記法第四十條ニ記載セシ證書ヲ云フ及ヒ何々ノ公簿前條ノ公簿ヲ云フ）ニ依リ記載セシ旨ヲ記シ負債者即チ物件ノ所有者ヲシテ所有者ノ欄内ニ署名捺印セシメタル上乙區中ニ出願事件ノ登記ヲ爲ス可シ

執行上ノ抵當ヲ記入スル場合ニ於テ未タ所有者ノ登記アラサルトキハ登記官ニ於テ前條及ヒ本條前項ノ手續ヲ爲シ物件及ヒ所有者ノ氏名ヲ記載シ其側ニ認印シタル上丙區中ニ命令事件ノ記入ヲ爲ス可シ但後日其物件ニ關シ所有者ヨリ他ノ登記ヲ出願シタルトキハ所有者ヲシテ物件ニ認印シ及ヒ其氏名ノ下ニ捺印セシム可シ

第十一條 登記物件ノ番號ハ初メテ其物件ヲ記載スル毎ニ出願若クハ請求ノ順序ニ從ヒ之ヲ付スルモノトス但し其番號ハ町村毎ニ之ヲ區別シ仍ホ地所建物船舶ヲ區別シテ之ヲ付ス可シ

同時ニ登記ヲ求メ且ツ同一ノ所有者ニ屬スル同種類ノ物件ハ同町村内ニ在リテ且合録ノ爲メ混雜ヲ生スルノ憂ナキニ於テハ之ヲ同番號中ニ記載ス可シ若シ其物件多數ニシテ同番號中ニ記載スル能ハサルトキハ所有者ノ意見ヲ聽キ便宜分割シテ之ヲ次ノ番號中ニ記載スルコトヲ得

第十二條 一番號中ニ登記セシ數物件ヲ分テ又ハ一物件ヲ割テ賣買讓與スルトキハ表題部中取消ノ欄内ニ其要領及ヒ第何號ニ移シタルコトヲ記載シ分割シタル物件ハ未タ登記ヲ爲サ、ル用紙ニ記載シテ新番號ヲ付シ且第何號ヨリ移シタルコトヲ付記ス可シ其他ノ手續ハ通常ノ場合ニ同シ

前項ノ場合ニ於テ舊番號中分割セラレタル物件ハ之ヲ未抹ス可シ若シ一物件ヲ割キタルトキハ更ニ殘餘ノ現狀ヲ記載ス可シ
數番號ニ登記セシ物件ヲ合併シテ賣買讓與スルトキハ各番號中甲區登記事由ノ欄内ニ

其旨ヲ明記シテ登記ヲ爲ス可シ

第十三條 一番號中ノ物件ヲ分割シテ質入書入ト爲シ若クハ差押差留等ト爲ストキハ乙區若クハ丙區ノ抵當事由欄内ニ何々ノ物件ヲ質入書入若クハ差押差留等ト爲シタルコトヲ明記シテ登記ヲ爲ス可シ

數番號ニ屬スル物件ヲ合併シテ質入書入ト爲ストキハ各番號中乙區抵當事由ノ欄内ニ其旨ヲ明記シテ登記ヲ爲ス可シ

第十四條 質入書入ト爲リタル物件ヲ賣買讓與スルトキハ甲區登記事由欄内ニ買受人讓受人ニ於テ其質入書入中ニ係ルコトヲ了知セル旨ヲ明記シテ登記ヲ爲ス可シ

登記法第二十二條ノ場合ニ於テモ亦前項ノ例ニ準據ス可シ
第十五條 物件ヲ分割シテ賣買讓與スル爲メ第十二條ノ手續ヲ爲ス場合ニ於テ新ニ番號ヲ付スヘキ物件已ニ舊番號ノ物件ト共ニ質入書入ト爲リタルモノナルトキハ新番號ノ表題部中物件ヲ記載シタル側ニ第何號(舊番號ヲ云フ)ノ物件ト連帶シテ抵當物トナリタルモノナルコトヲ付記ス可シ

其抵當ヲ取消シタル場合ニ於テハ前項ノ付記ヲ未抹ス可シ
第十六條 質入書入ノ權ヲ賣買讓與シ(相續人ノ場合ヲ除ク)又ハ他人ニ於テ負債者ノ負債ヲ辨濟シテ債主ノ權ニ代ル等抵當權ノ他人ニ移リタル場合ニ於テ負債者承諾ノ上登記ヲ出願シタルトキハ之ヲ乙區變更ノ欄内ニ登記ス可シ
質入書入ノ債主負債者ト協議ノ上抵當物件ヲ引取り所有者ト爲リタル場合ニ於テハ乙

庶務

區抵當取消ノ欄内及ヒ甲區登記事由ノ欄内ニ其要旨ヲ登記ス可シ

第十七條 質入ヲ變更シテ書入ト爲シ書入ヲ變更シテ質入ト爲シ又ハ利息期限等ヲ變更シタル場合ニ於テハ之ヲ乙區變更ノ欄内ニ登記ス可シ

第十八條 登記法第十五條ノ場合ニ於テ登記ヲ爲ス可キ土地若シ華族世襲財産ナルトキハ地券及ヒ同第四十條ニ記載スル證書ニ依リ世襲財産タルコトヲ認メ其旨ヲ表題部中物件ノ側ニ記入ス可シ

第十九條 賣買讓與其他ノ方法ニ因リ曾テ地所建物船舶ノ所有權ヲ得タル者其所有權ノ登記ヲ出願スルトキハ第九條ノ例ニ準シ之ヲ登記ス可シ

第二十條 従前ノ公証簿ニ登記セシ書入質入ノ取消ヲ願出タルトキハ手数料ヲ徴收セス舊手續ニ依リ之ヲ終結ス可シ

若シ變更ノ登記ヲ願出タルトキハ第十條ノ例ニ準シ所有者及ヒ原契約ヲ登記シタル上乙區變更ノ欄内ニ其登記ヲ爲ス可シ此場合ニ於テハ變更ノ手数料ヲ徴收ス可キモノトス

第二十一條 登記ヲ受タル物件ノ全部若クハ一部毀壞燒失流亡等ニ依リテ消滅シ其旨ヲ届出タルトキハ表題部中取消ノ欄内ニ之ヲ登記シ其物件ハ朱抹ス可シ若シ殘餘アルトキハ第十二條第二項ノ例ニ準シ其現狀ヲ記載ス可シ

地目變換ヲ届出タルトキハ表題部中ニ記載シタル地目ヲ更正シ其旨ヲ付記ス可シ
前二項ノ場合ニ於テハ手数料ヲ徴收セサルモノトス

第二十二條 登記所ノ同管内ニ在リテ船舶ノ定繫所ヲ更改シ其登記ヲ請フ者アルトキハ轉入セシ町村ノ登記簿ニ其物件及ヒ所有者ヲ轉寫シ表題部中物件ヲ記載シタル側ニ某町村ヨリ轉入セシ旨ヲ付記シ若シ船舶既ニ抵當物トナリタルモノナルトキハ其旨ヲモ付記ス可シ轉出セシ町村ノ登記簿ニハ其表題部中取消ノ欄内ニ轉出ノ旨ヲ記載シテ其物件ハ朱抹ス可シ

若シ他ノ登記所ニ屬スル町村ニ轉入スルトキハ原登記所ヨリ登記簿謄本ニ其旨ヲ付記シ之ヲ本人ニ下付シテ轉入スル登記所ニ差出サシメ其登記所ハ其謄本ニ依リ登記ヲ爲シ登記簿ノ通知書ヲ原登記所ニ送致ス可ク原登記所ハ其通知ニ依リ取消ノ手續ヲ爲ス可シ

前二項ノ場合ニ於テハ登記法第三十條第一第二ノ規則ニ依リ變更及ヒ謄本ノ手数料ヲ徴收スルモノトス

第二十三條 登記簿ニ記載スル願人ノ氏名ハ本人ヲシテ自署セシメ其名下ニ捺印セシム可シ若シ自署スル能ハサルトキハ登記官代書シ其旨ヲ付記ス可シ

第二十四條 登記事件ニ附屬スル圖面アルトキハ登記簿表題部中ニ其旨ヲ記載シ其圖面ニ登記物件ノ番號ヲ記シ登記官之ニ認印シ帳簿ニ編入スヘシ

第二十五條 登記ノ爲メ差出タル契約書ニハ登記簿ノ上登記官之ニ登記物件ノ番號ヲ記載シ且ツ認印シテ本人ニ還付スヘシ

第二十六條 登記簿ノ一用紙中或ル欄内更ニ登記ヲ爲スヘキ餘白ナキニ至リタルトキハ

庶務

其登記簿中未タ登記ヲ爲サ、ル他ノ用紙ニ原番號ヲ轉寫シ之ニ其番號ノ第二ナルコトヲ付記シ原用紙番號ノ下ニハ第一ノ文字ヲ追加シ且第何冊何丁ニ續ク旨ヲ記載ス可シ第三以下ノ續ヲ設クルトキ亦此例ニ準ス

前項ノ場合ニ於テ新用紙ニハ原用紙ニ記載アル登記ノ順番ヲ繼續シテ之ヲ付ス可シ
第二十七條 登記簿ニ登記ヲ爲ス字體ハ楷書ヲ用ヒ鮮明ナルヲ要ス又金錢物品ノ員數及ヒ年月日ヲ記スルニハ必ス壹貳參拾ノ文字ヲ用フ可シ

登記ヲ爲ニハ之ヲ墨書ス可ク訂正若クハ插入等ヲ爲スニハ之ヲ朱書ス可シ
文字ハ之ヲ改竄ス可カラス若シ刪除スルトキハ讀待ヘキ爲メ字體ヲ存ス可シ
訂正插入削除等ヲ爲シタルトキハ本人ヲシテ之ニ認印セシム可シ

第二十八條 後見人若クハ代人ヨリ登記ヲ出願セシトキハ後見人タルノ證若クハ代理ノ委任狀ヲ差出サシメ之ヲ帳簿ニ編入ス可シ

前項ノ證書ヲ差出サ、ルトキハ登記ヲ爲ス可カラス

第二十九條 登記官自己ノ權利義務ヲ登記ス可キ場合ニ於テハ治安判事及ヒ郡長ハ書記
戸長ハ次府吏員ヲシテ代テ登記ヲ爲サシム可シ

第三章 帳簿

第三十條 登記所使用ノ帳簿ハ左ノ如シ

- 一 地所登記簿
- 二 建物登記簿

三 船舶登記簿

四 受付帳

五 登記見出帳(三種)

六 印鑑簿(區戸長ノ証明シタル印鑑ヲ插入シタルモノ)

七 謄本下付帳

八 登記済証下付帳

九 圖面綴込帳

十 請求書綴込帳(行政廳ノ登記請求書ヲ綴込タルモノ)

十一 登記願書綴込帳(登記法第十五條第二項ノ書面ヲ綴込タルモノ)

十二 證明書綴込帳(登記法第四十條ノ證書及ヒ印鑑證明書等ヲ綴込タルモノ)

十三 名刺綴込帳

十四 代理證書綴込帳

十五 届書綴込帳

第三十一條 登記簿ノ謄本若クハ拔書ヲ請フ者アルトキハ其用紙ニ謄寫シ謄本下付帳ト
割印シテ之ヲ下付ス可シ但手数料ヲ領收セサル前ニ謄本又ハ拔書ヲ下付スルコトヲ得
ス

第三十二條 謄本ハ登記簿一用紙ノ全部ヲ遺漏ナク謄寫シテ之ヲ作ル可シ
拔書ハ請求アル部分ノミ登記簿ヨリ摘寫シテ之ヲ作ル可シ

第三十三條 登記簿ノ證ヲ請フ者アルトキハ其願書ニ記載アル物件ヲ登記簿ト照査シタル上登記簿ノ旨ヲ朱記シ登記簿證下付帳ト割印シテ之ヲ下付ス可シ

第三十四條 登記見出帳ハ地所建物ニ付テハ地所ノ番號ニ依リ船舶ニ付テハ艦札ノ番號ニ依リ登記物件ノ番號ヲ付スル毎ニ各番號ヲ記入スルモノトス同番號ノ地所ニシテ數筆ニ分レタルモノアルトキハ地券面ノ符號ヲ番地ノ下ニ記載ス可ク同番地ニアル建物ニシテ棟ヲ異ニシタルトキハ建物ノ番號ヲ番地ノ下ニ記載シテ之ヲ區別ス可シ番號若クハ符合チ同フスル地所又ハ番地若クハ棟ヲ同フスル建物ヲ分割シテ賣買讓與質入書入ト爲ストキハ其各部ノ地所若クハ建物ニ子丑寅卯ノ符號ヲ付シテ之ヲ區別ス可シ前二項ノ區別ハ登記簿ニモ亦之ヲ記載ス可キモノトス

第三十五條 登記ニ關スル帳簿ハ常ニ書籍ニ藏メ其封緘ヲ嚴ニシ非常持退ノ準備ヲ爲シ勉テ紛亂毀損ヲ豫防ス可シ

登記ニ關スル帳簿ハ裁判所ノ命令アルニ非サレハ登記所外ニ出スコトヲ得ス

第三十六條 登記簿ノ閱覽ヲ請フ者アルトキハ官吏ノ職務ヲ以テ閱覽スルトキノ外吏員ノ面前ニ於テ之ヲ閱覽セシム可シ

第三十七條 登記所ニ於テハ毎月登記件數表ヲ調製シ翌月五日マテニ其地ヲ發シ管轄始審裁判所ニ送致ス可ク其裁判所ニ於テハ之ヲ取纏メ合計表ヲ付シ其月末マテニ其應シ發シ司法省ニ差出ス可シ

第四章

登記料手數料及ヒ評價費用

第三十八條 登記料ハ登記ヲ爲ス前之ヲ納メシム可シ登記事件ノ取消若クハ變更ノ登記ヲ請フ者ノ納ム可キ手數料ニ付テモ亦同シ

第三十九條 登記法第三十二條ニ依リ評價ヲ要スル場合ニ於テハ登記所ハ其費用ヲ見積リ登記料ヲ納ムル者ヨリ之ヲ豫納セシム可シ

第四十條 登記所ニ於テハ評價人ヲシテ速ニ物件ノ所在ニ就キ價格ヲ評定シ其評價書ヲ差出サシム可シ評價人中ノ一名意見ヲ異ニスルトキハ他ノ二名ノ意見ニ依リ價格ヲ定ム可ク若シ各自意見ヲ異ニスルトキハ更ニ評價人ヲ選定ス可シ

第四十一條 登記法第三十三條ニ依リ評價ノ費用ヲ本人ニ負擔セシム可キトキハ豫納金ヲ以テ之ヲ支辨シ殘額アルトキハ之ヲ還付ス可ク不足スルトキハ之ヲ納完スル迄登記ヲ爲ス可カラズ若シ登記所ニ於テ費用ヲ負擔ス可キトキハ豫納金ノ全額ヲ還付ス可シ

○登記料及手數料收納手續
明治十九年十二月
司法省訓令第三十四號
裁判所
登記所

登記料及手數料收納手續

第一條 登記料ハ第二部歳入科目ノ手數料ノ項中初行ヘ登記料及手數料ノ目ヲ設ケ整理スルモノトス

第二條 登記所ハ國庫金取扱所又ハ現金仕拂所ニ於テ登記料預リ證ニ押用スル印鑑ヲ徴シ置ク可シ

第三條 登記所ニ於テ登記料又ハ手數料ヲ上納セシムルニハ登記願人ヲシテ國庫金取扱

庶務

所若クハ現金仕拂所へ現金ヲ預ケ入レ其預リ証ヲ以テ登記所ニ差出サシム可シ

第四條 登記所ニ於テハ前條預リ証ノ証印ヲ檢シ收入簿ニ記入シタル上領收證ヲ登記願人ニ付與ス可シ但シ領收証及收入簿ハ左ノ雛形ニ準據スヘシ

第五條 治安裁判所ノ登記官ハ本年閏令第三號歲入歳出納規則第二十七條ニ據リ納付書ニ預リ證ヲ添ヘ更ニ國庫金取扱所若クハ現金仕拂所へ納付シ其領收ヲ証シタル納付書ハ遞付書ヲ以テ會計主務官へ送付報告ス會計主務官ハ大藏省令第四號歲入取扱順序第二十三條ニ依リ整理スルモノトス

第六條 郡役所戸長役場ニアル登記所ニ於テハ第五條ノ手續ニ依リ國庫金取扱所又ハ現金仕拂所ニ納付シ其領收ヲ証シタル納付書ハ一箇月毎ニ取纏メ翌月五日以内ニ其管轄始審裁判所ニ納付ス可シ

第七條 國庫金取扱所又ハ現金仕拂所ナキ地方ノ登記所ニ於テハ現金ヲ以テ收入シ十日毎ニ(金額五拾圓ニ充ツルトキハ其時々)取纏メ納付書ヲ添ヘ便宜ノ國庫金取扱所又ハ現金仕拂所へ納付シタル上前二條ノ手續ヲ爲ス可シ

第八條 始審裁判所ニ於テ郡區役所戸長役場ニアル登記所ヨリ送納ヲ受ケタルトキハ會計主務官ニ於テ登記件數表ト照合帳記ノ上大藏省令第四號歲入取扱順序第二十三條ニ據リ整理スルモノトス

表
明治何年何月

登記料及手数料收入簿

明治十九年十二月四日

司法省訓令第三十四號附屬雛形

某登記所

裏 說明

- 一 此雛形ニ「印ヲ付スルモノハ記入ノ一例ヲ示ス者ナリ用紙ハ半截半紙ヲ用フヘシ
- 一 ①印ハ登記所角印章②印ハ其長印章ニシテ③印ハ登記官ノ認印ナリ明治年月日トアルハ收入セシ日附ヲ記スヘシ
- 一 番號ハ此領收證ノ順ヲ追ヒ一號ヨリ起シ記載スヘシ尤會計年度ヲ以テ改ムヘシ
- 一 種類ノ欄内ニハ地所賣買家屋讓與等其收入ノ性質ヲ記スヘシ
- 一 乙雛形ハ領收證トシテ納人ニ渡シ甲雛形ハ登記料及手数料收入簿トシテ一箇月毎ニ表紙ヲ附シ一冊ニ綴リ登記所ニ備置シヘシ

形 類	種 類	「甲」	
		明 治 年 月 日	納 入 人 氏 名
「地所讓與」	金 何 圓	番 號	何 某
		第 號	

庶務

員金	號番	第
	號	納人
金「何圓」	氏名	何
		某
登記料及手数料		
右領收候也		
明治 年 月 日		
「某」登記所		

○登記簿調製手續 明治十九年十二月
司法省訓令第三十五號
 來ル明治二十年二月一日ヨリ登記法施行ニ付テハ登記簿等調製ノ儀ハ左ノ手續ニ依ル可

始審裁判所
 登記所

第一 登記簿、登記簿謄本、登記簿抜書及ヒ登記件數表ノ用紙ハ美濃紙ヲ用ヒ登記料及手数料領收証ノ用紙ハ半截ノ半紙ヲ用ヒ始審裁判所ニ於テ調製シ下渡ス可シ但登記簿及ヒ謄本ハ紙數三枚ヲ以テ一用紙ト爲スモノトス

第二 登記受付帳、登記見出帳、登記簿謄本下付帳、登記濟証下付帳、印鑑簿ノ用紙及ヒ圖面綴込帳其他帳簿ノ表紙ハ始審裁判所ヨリ之ヲ下渡ス可シ但治安裁判所ニ付テハ此限

ニ在ラス

第三 登記所ニ於テハ左ノ書式ニ準シ凡一箇年間ニ要スヘキ帳簿用紙及ヒ表紙ヲ豫算シ毎年十一月十五日マテニ始審裁判所ニ請求ス可シ但治安裁判所ニ付テハ書式中第五以下ノ記載ヲ要セサルモノトス

書式

- 一 登記簿 請求書 何冊
- 内
 - 何冊 紙數何枚
 - 何冊 紙數何枚
- 一 登記簿謄本用紙 何部
- 一 登記簿抜書用紙 何枚
- 一 登記件數表用紙 何枚
- 一 (登記料及手数料)領收証用紙 何枚
- 一 登記受付帳用紙 何枚
- 一 登記見出帳用紙 何枚
- 一 登記簿謄本下付帳用紙 何枚
- 一 登記濟証下付帳用紙 何枚

庶務

一印鑑簿用紙

一帳簿ノ表紙

右及請求候也

何枚
何枚

明治 年 月 日

某始審裁判所

御 中

某登記所

第四 前項ノ帳簿用紙及ヒ表紙ハ本年ニ限り明治二十年二月ヨリ同年十二月マテニ要ス
ヘキ分ヲ豫算シ本年十二月十五日マテニ其請求ヲ爲スヘシ

○登記手續第七條ノ命令書下附ヲ請フトキ心得方

明治十九年十二月

裁判所

登記法施行ニ付テハ本年當省令甲第五號第七條ニ依リ命令書ノ下付ヲ請フ者アル場合ニ
於テ之ヲ相當ナリトスル時ハ其請求者ニ命令書ヲ下付スル儀ト心得可シ

○登記所位置及管轄區域制定ニ付郡區町村ノ分合改稱アルトキ届方

明治十九年十二月

北海道廳

府縣(沖繩縣ヲ除ク)

本年當省令甲第四號ヲ以テ登記所位置及ヒ管轄區域制定候ニ付テハ自今郡區町村ノ分合
改稱アル時ハ其旨當省へ届出ツ可シ

○後見人職務權限

明治十六年七月

府 縣

後見人職務權限ノ義ニ付別紙ノ通太政官へ相伺御指令相成候條爲心得此旨相達候事

後見人職務權限ノ儀ニ付伺

後見人規則發布ノ義ハ目下急施ヲ要スル事項ニ付客年四月十三日上稟シタル旨趣モ有之
就テハ伺出ノ府縣へ追テ一般ノ法律制定相成マテ地方從來ノ慣習ニ依リ可取扱旨指令及
ヒ來候處爾後後見職務ノ權限伺出ル府縣夥多有之抑後見人ハ當初親族ニ於テ撰任シタル
モノナレド常ニ監察スヘキ方法モ無之ニ付規則制定マテ不動産買賣讓渡質書入等ニ限
リ其證書又ハ願書ニ親族連署ノ上ナラテハ戸長ニ於テ公証ヲ與ヘサル様相定メ其旨指令
及ヒ度右ハ未タ成規モ無之此旨相伺候也

明治十六年五月三十日

內務卿 山田 顯義

太政大臣 三條實美殿

伺之趣聞届候事

明治十六年七月三日

○後見人ヨリ地所建物船舶ノ登記ヲ請フトキ心得方

明治十九年十二月

裁判所

來ル明治二十年二月一日以後登記法施行ニ付後見人ヨリ地所建物船舶ノ登記ヲ請フトキ
ハ明治十六年七月十八日內務省達ノ通り其證書又ハ願書ニ親屬連署ノ上ナラテハ登記ヲ
爲サ、ル儀ト心得ヘシ

○身代限又ハ抵當物公賣ノ處分ヲ爲ス時又ハ其處分ヲ取消ス時登記所へ通
知方
明治二十年三月
司法省訓令第十二號
裁判所

庶務

五三七

裁判所ニ於テ身代限又ハ抵當物公賣ノ處分ヲ爲ス時ハ其地所建物船舶所在地ノ登記所ニ其旨ヲ通知スヘシ其處分ヲ取消ス時亦同シ

●農工商務

●勸業會勸業委員設置規則

明治十三年五月
太政官第十三號布達

- 各地方ノ便宜ニ從ヒ左ノ條項ニ照準シテ勸業諮問會并勸業委員ヲ設置スルコトヲ得
- 第一條 諮問會ハ各府縣勸業事務ニ付府知事縣令ノ諮問ニ備フルモノトス
- 第二條 諮問會員ハ府知事縣令ニ於テ管内農商工事ニ名望アル者ヲ撰テ之ニ充ツ其人員并處務ノ順序等總テ府知事縣令適宜之ヲ定ムヘシ
- 第三條 諮問會員ノ旅費日當ハ地方稅中勸業費ヲ以テ支辨スヘシ
- 第四條 勸業委員ハ區町村若クハ聯合區町村ニ於テ勸業ノ事ヲ擔任シ又ハ(區郡)長戸長ノ諮問ニ備フルモノトス
- 第五條 勸業委員ノ人員撰舉方法及處務ノ順序等ハ區町村會又ハ聯合區町村會ニ於テ之ヲ評定シ府知事縣令ノ裁可ヲ受クヘシ
- 第六條 區町村若クハ聯合區町村ニ於テ農業會商業會工業會又ハ農商工ヲ併セタル勸業會其他同業會ヲ設置スルトキハ勸業委員ヲシテ會員タラシムルコトヲ得
- 第七條 府知事縣令ニ於テ勸業委員ノ設置及第六條ノ各會設立ヲ要用ト認ムルトキハ誘導シテ之ヲ設置セシムルコトヲ得此場合ニハ農商務卿ニ稟議シテ認可ヲ請ク可シ
- 第八條 勸業委員ノ旅費日當及第六條ノ各會諸費ハ區町村及聯合區町村ノ協議費ヲ以テ支辨シ又ハ關係各業者ニ於テ協議支辨スルコトヲ得但有志者ヲ以テ組織スル者ハ此例

農工商務

ニ非ラス

第九條 農商務卿及主務ノ官署ハ各地方勸業上ノ件ニ付諮問會又ハ第六條各會ノ意見ヲ問フコトアルヘシ

諮問會又ハ第六條ノ各會ハ勸業上公益ノ件ニ付農商務卿及主務ノ官署ニ意見書又ハ報告書ヲ呈スルコトヲ得

○勸業會勸業委員設置心得 明治十六年七月 農商務省第八號

府縣へ達

本年(五月)第十三號布達相成候ニ就テハ左ノ條項爲心得相達候事

第一 諮問會ニ諮問スヘキ事項

一 海陸運漕ノ利害 道路港灣ノ開鑿修築ニ關スル事

二 溝渠用惡水疏通ニ關スル事

三 農商工水産山林鑛山ノ利害及改正保護ニ關スル事 十九年二月第四號達

四 農商工水産山林鑛山ニ關スル統計ノ事

第二 諮問會員ノ制限

會員ハ任期ニ定限ナク又其數ヲ限ラスト雖五拾名ヲ超ユヘカラス

縣會議員學務委員衛生委員戸長等ノ職務アルモノト雖農商工事ニ名望アルモノハ之ニ諮問會員ヲ兼務セシムルモ妨ナシ

農商務省官吏及農商工上等會員又府縣知事ノ許可ヲ得タル該府縣ノ官吏ハ會場ニ列シ

意見ヲ陳ルコトヲ得ヘシ但會員ノ數ニ加ヘス

第三 諮問會々頭

府縣知事之ヲ勤ムヘシ但書記官又ハ各課長ヲシテ代理セシムルコトヲ得

第四 諮問會說明委員及書記

府縣知事其屬官中ヨリ之ヲ命スヘシ

第五 諮問會開會ノ期節又ハ臨時開會ヲ要スヘキ場合

通常府縣會開會以前ヲ以テ通常諮問會開會ノ期節トシ其臨時開會ノ場合ハ府縣知事ノ見込ニ依ルヘシ

第六 諮問會則ノ要旨及諸説ノ採擇

會則ハ總テ談話ノ体ヲ用ヒ諸説ノ採擇ハ會頭ノ意見ニアルヘシ但場合ニヨリ會員ノ意見ヲ識別スヘキ爲メ起立ノ作用ニ依ルモ妨ナシ

第七 諮問會員ノ招集

會員ノ招集ハ府縣知事ノ達書ヲ以テシ通常開會ノ日數ハ概テ十五日以内臨時開會ノ日數ハ概テ七日以内トスヘシ

第八 諮問會費旅費日當ハ府縣會議員ノ旅費日當ニ超ヘサル額ヲ目途トシ府縣會議ニ附

スル等ハ總テ府縣會規則ノ成法ニ依ルヘシ

諮問會員ニ年手當ヲ給スルノ必用アルトキハ地方稅中勸業費ヲ以テ支辨スルコトヲ得 其他會ノ費用ハ府縣廳中費ヲ以テ支辨スヘシ

第九 勸業委員ノ擔任

農工商務

勸業委員ハ府知事縣令ノ裁可ヲ受ケタル處務順序ニ依リ諸持部内ノ農商工事ノ上進ヲ圖リ及府縣廳(區郡)役所ノ指揮スル處ノ事務並戸長ヨリ協議ノ事務ヲ處辨スヘシ

第十 (區郡)長戸長諮問ノ事項

諮問ノ事項ハ概テ第一ノ事項ニ依ルヘシ

諮問ハ勸業委員各人ニ諮問スヘキモノトス

第十一 勸業委員ノ選舉

勸業委員ハ每郡區役所管轄部内ニ四名以内トス但一部内四名ヲ以テ積算シ其總人員内ニ於テ甲乙部互ニ其人員ヲ増減スルハ妨ケナシ(十九年十二月訓 令第二十號更正)勸業委員ノ選舉ハ其要スヘキ人員ノ幾倍ヲ選舉セシメ府知事縣令之ヲ撰拔スルノ場合アルヘシ

第十二 農業會商業會工業勸業及同業會

各會ハ名稱チ一ニシテ檢束スルモノニ非ス譬ヘハ農業會中ニ農談會アリ商業會中ニ商法會議所アリ同業會中ニ單一種ノ同業會或ハ各種同業會ヲ聯合シタル同業會アルノ類トス

第十三 勸業委員ノ設置及各會設立ノ誘導

準則ヲ設ケテ諭達シ或ハ區郡長ニ指示スル等全一ニ施行セント圖ルコトアルトキハ稟議シテ認可ヲ請クヘシト雖モ有志者ヲ説諭奮起セシムル等ノ如キハ認可ヲ請クヘキ限リニ非ス

第十四 勸業委員費

勸業委員ニ月手當ヲ給スヘキ必要アルトキハ之ヲ區町村費ヨリ支辨シ或ハ府縣會ノ決議ヲ經テ全部若クハ其幾分ヲ地方稅中勸業費ヨリ支出スルコトヲ得其月手當額ハ一名金五圓以内トス但第十一項第一ノ總人員ニ對シ一名金五圓ヲ以テ積算シ其金額内ニ於テ互ニ増減スルハ妨ケナシ(十九年十二月訓 令第二十號更正)

勸業上ニ關シ勸業委員ヲ北海道廳府縣廳ヘ招喚スヘキ要用アルトキハ其旅費日當ハ地方稅勸業費ヨリ支給スヘシ(全上)

第十五 施行ノ后本省ヘ報告スヘキ件(十九年一月第一號達更正)

諮問會員ノ人名

開會筆記

勸業委員ノ人名

各會設置ノ位置及名稱

以上ニ關スル諸費用ノ豫算決定額

○商工會商法會議所ヨリ建議答申意見書報告書ヲ呈スルトキ騰本差出方

明治十九年八月 農商務省訓令第十二號

商工會若クハ商法會議所等ヨリ農商工業ノ件ニ付官署ニ對シ建議答申ヲ爲シ又ハ意見書若クハ報告書ヲ呈スルトキハ其都度直ニ騰本ヲ當省ヘ差出サスヘシ

但其廳ヨリ諮問チナストキハ其都度當省ヘ騰本差出スヘシ

農工商務

● 獸醫免許規則 明治十八年八月二十八號布告

獸醫免許規則別冊ノ通制定シ明治十九年七月一日ヨリ施行ス

獸醫免許規則

- 第一條 獸醫ハ獸醫學術ノ試験ヲ受ケ農商務卿ヨリ開業免狀ヲ得タル者トス
- 第二條 開業免狀ヲ得ントスル者ハ試験及第證書ヲ以テ地方廳ヲ經由シテ農商務省ニ願出ツヘシ
- 第三條 官立及府縣立ノ獸醫學校若クハ農學校ニ於テ獸醫學ノ卒業證書ヲ得タル者其證書ヲ以テ開業免狀ヲ得ントコトヲ願出ツルトキハ農商務卿ハ試験ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ
- 第四條 外國ノ獸醫學校若クハ農學校ニ於テ獸醫學ヲ卒業シタル者或ハ外國ニ於テ獸醫學ノ開業免狀ヲ得タル者其卒業證書又ハ開業證書ヲ以テ開業免狀ヲ得ントコトヲ願出ツルトキハ農商務卿ハ其證書ヲ審査シ試験ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ
- 第五條 獸醫ニ乏シキ地ニ於テハ府知事縣令ノ具狀ニヨリ農商務卿ハ獸醫學術ノ試験ヲ經サル者ト雖モ其履歷ニヨリ假開業免狀ヲ授與スルコトアルヘシ
- 第六條 開業免狀ヲ得ル者ハ免狀下付ノ節手數料金壹圓ヲ納ムヘシ
- 第七條 開業免狀ヲ得タル者ノ氏名本籍ハ農商務省ノ獸醫籍ニ登錄シ時々之ヲ公告スヘシ

第八條 開業免狀ヲ毀損亡失シ又ハ氏名本籍ノ變換ニヨリ免狀ノ書換ヲ願フ者ハ其事由ヲ記シ地方廳ヲ經由シテ農商務省ニ願出ツヘシ

第九條 開業免狀ノ書換ヲ願フ者ハ免狀下付ノ節手數料金貳拾五錢ヲ納ムヘシ

第十條 獸醫廢業又ハ死亡シタルトキハ地方廳ヲ經由シテ其開業免狀ヲ農商務省ニ返納スヘシ

第十一條 獸醫其業ニ關シ犯罪若クハ不正ノ行爲アルトキハ農商務卿其業ヲ停止若クハ禁止スルコトアルヘシ

但其事開業免狀ヲ得ルノ前ニ在リト雖モ本條ニ準シ處分スルコトアルヘシ

第十二條 前條ニ據リ獸醫業禁止ノ處分ヲ受ケタル者アルトキハ地方廳ニ於テ直チニ其開業免狀ヲ取上ケ之ヲ農商務省ニ返納スヘシ其停止ノ處分ニ係ルモノハ幾年月日間停業シタル旨ヲ開業免狀ニ裏書シ應印ヲ捺シテ之ヲ本人ニ下付スヘシ

第十三條 農商務卿ハ獸醫業禁止ノ處分ヲ爲シタル後ト雖モ本人ノ行狀ヲ調査シ特ニ其禁止ヲ解クコトアルヘシ

第十四條 官許ヲ得スシテ獸醫ノ業ヲ爲シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

○ 獸醫開業試驗規則 明治十八年八月

太政官第十七號布達

今般第二十八號ヲ以テ獸醫免許規則布告相成候ニ付獸醫開業試驗規則左ノ通相定メ明治十九年七月一日ヨリ施行ス

獸醫開業試驗規則

第一條 獸醫ヲ開業セントスル者ハ此規則ニ據リ試験ヲ受クヘシ

第二條 農商務卿ハ毎年二回獸醫開業ノ試験ヲ舉行スヘシ
但試験ヲ舉行スヘキ地方及ヒ試験期日ハ六箇月前ニ告示スヘシ

第三條 農商務卿ハ主事者及ヒ試験委員ヲ派遣シ試験一切ノ事ヲ監督整理セシムヘシ
但時宜ニ依リ地方官ニ委任シ其試験ヲ執行セシムルコトアルヘシ

第四條 農商務卿ハ獸醫學術開業試験ヲ舉行スル毎ニ官立公立獸醫學校又ハ農學校ニア
リテ獸醫學ヲ專修シタル者又ハ地方ニ於テ名望アル獸醫學者等ヲ選ヒ試験委員ヲ命ス
ルコトアルヘシ

第五條 獸醫學術試験科目ハ左ノ如シ
第一 家畜解剖學
第二 全 生理學
第三 全 藥物學
第四 全 內科學
第五 全 外科學

第六條 獸醫學術ノ試験ヲ受ケント欲スル者ハ其願書ニ修學ノ履歷書ヲ副ヘ毎年六月十
二月中地方廳ニ差出スヘシ地方廳ハ翌月十五日迄ニ其書類ヲ取纏メ農商務省ニ進達ス
ルモノトス

第七條 試験問題ハ試験主事者試験委員協議ノ上ニテ選定シ試験場ニ臨ミ受験人ヲシテ

筆答セシムルヘシ

但時宜ニヨリ口答セシムルコトアルヘシ

第八條 試験主事者ハ試験終ルノ後試験委員ト與ニ其成績ヲ評定シ及第シタル者ニハ及第證書ヲ與フヘシ

但及第證書ニハ主事者試験委員運署スヘシ

第九條 試験ニ落第シタル者ハ六箇月ヲ經ルニ非レハ再試験ヲ請フコトヲ得ス
右布達候事

○獸醫試験受験人心得 明治十八年八月

今般太政官第十七號ヲ以テ獸醫開業試験規則布達相成候ニ付受験人心得左ノ通相定候條
此旨告示候事

受験人心得

第一條 獸醫開業試験ハ當省ヨリ告示シタル試験舉行地ノ中各自便宜ノ地ニ於テ之ヲ受
クルコトヲ得ヘシ

第二條 獸醫開業試験ヲ受ケント欲スル者ハ本年第十七號布達獸醫開業試験規則第六條
ニ準據シ其願書ヲ居住ノ地方廳ヘ差出スヘシ

第三條 前條許可ノ指令ヲ受ケタル者ハ當省ヨリ告示シタル期限迄ニ試験舉行ノ地ニ着
シ宿所氏名ヲ其地方廳ヘ届出ヘシ

第四條 試験場ノ取締上不都合ト認ムヘキ所爲アル者ハ主事者ヨリ退場セシムルコトア

ルヘシ (願書式略之)

○假開業獸醫免許手續 明治十九年十二月

農商務省訓令第二十一號

北海道廳 府縣

明治十八年(八月)布告第二十八號 獸醫免許規則第五條ニ據リ假開業免狀ノ下付ヲ願出ル者アルトキハ左ノ假開業獸醫免許手續ニ據リ取扱フヘシ

假開業獸醫免許手續

第一條 獸醫ニ乏シキ地トハ開業獸醫ノ居住所ヨリ一日中ニ往復シ能ハサル土地ニ限ルヘシ

第二條 假開業免狀ヲ得ント欲スル者アルトキハ甲號書式ノ願書ニ履歷書ヲ添ヘ郡役所ヲ經テ地方廳ヘ差出サシムヘシ

第三條 假開業免狀ノ下付ヲ願出ル者アルトキハ北海道廳長官府縣知事ハ獸醫缺乏ノ土地ニ限リ區域ヲ定メ其地勢、廣狹、牛馬頭數等乙號書式ニ據リ詳細取調本人ノ願書及履歷書ヲ添ヘ具狀スヘシ

第四條 假開業獸醫ハ一區域ニ一人ヲ限ルヘシ

第五條 假開業獸醫營業ノ免許年限ハ滿二年以內トス

但免許期限ヲ經ルモ仍ホ獸醫ニ乏シキ場合ニ於テハ此手續ニ據リ更ニ假開業免狀ノ下付ヲ具申スルコトヲ得

第六條 假開業獸醫ハ免許區域外ニ出テ病畜ノ治療ヲ爲スヲ得スト雖モ其免許區域内ニ牽來リタル病畜ハ之ヲ治療セシムルコトヲ得

第七條 假開業獸醫ニシテ本免狀ヲ得タルトキハ地方廳ヲ經由シテ其假開業免狀ヲ當省ニ返納セシムヘシ

第八條 假開業獸醫免許年限中其区域内ニ於テ本免狀ヲ得タル獸醫ノ開業者アルトキハ北海道廳長官府縣知事ハ經例ノ上該假開業免狀ヲ返納セシムルコトヲ得

第九條 假開業獸醫ニシテ免狀ノ有効期限ヲ經過シタルトキハ地方廳ヲ經由シテ該免狀ヲ當省ニ返納セシムヘシ

第十條 假開業免狀下付ノ出願ニ係ル細則ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ムヘシ (甲乙號書式略ス)

●獸類傳染病豫防規則 明治十九年九月 農商務省第十一號

獸類傳染病豫防規則 左ノ通制定シ明治二十年一月一日ヨリ施行ス

明治九年(二月)內務省乙第二十號達其他獸類ノ傳染病ニ關スル從前ノ達類ハ本規則施行ノ日ヨリ總テ廢止ス

獸類傳染病豫防規則

第一條 此規則ニ稱スル獸類トハ牛馬羊豕ヲ謂ヒ傳染病トハ左ノ諸病ヲ謂フ

一 牛疫

二 炭疽熱

三 鼻疽及皮疽

四 傳染性胸膜肺炎

五 傳染性鵝口瘡

六 羊痘

第二條 獸類傳染病ニ罹リタルトキ若クハ其症候ノ疑アルトキハ所有者又ハ管理者ハ其患畜ト健畜トヲ隔離シ獸醫ヲシテ患畜及之ニ接近シタル獸類ヲ診察セシムヘシ

第三條 獸醫ハ獸類ヲ診察シ傳染病ト鑑定シタルトキハ所有者又ハ管理者ト連署シ直ニ警察署及戶長役場ニ届出ツヘシ

第四條 獸醫牛疫ト診斷シタルトキハ警察官吏及獸醫立會ノ上所有者又ハ管理者ニ於テ之ヲ撲殺スヘシ

第五條 第四條ノ場合ニ於テハ三人以上ノ評價ヲ以テ發病前ノ價格ヲ定メ所有者ニ左ノ手當金ヲ下付スヘシ

評價金二十五圓マテ 手當金評價十分ノ四

評價金五十圓マテ 同 十分ノ三

評價金百圓マテ 同 十分ノ二

評價金二百五十圓マテ 同 十分ノ一

評價金五百圓マテ 同 十五分ノ一

評價金千圓マテ 同 二十五分ノ一

第六條 獸醫傳染病蔓延ノ兆候アリト認ムルトキハ直ニ其旨ヲ警察署及戶長役場ニ届出ツヘシ

第七條 第三條ノ届ヲ受ケタル戶長役場ニ於テハ其旨ヲ患畜所在ノ近傍ヘ榜示スヘシ

第八條 傳染病畜ノ全癒又ハ斃死シタルトキ若クハ傳染病畜ヲ撲殺シタルトキハ其所有者又ハ管理者ハ獸醫ノ診斷書ヲ添ヘ直ニ警察署及戶長役場ニ届出ツヘシ

第九條 傳染病ニ罹リテ斃死シ又ハ傳染病ニ由リテ撲殺シタル獸類並ニ其排泄物及之ニ觸レタル飼料糞草等ハ警察官吏ノ指定シタル場所ニ於テ燒棄スルカ又ハ消毒法ヲ施シ深六尺以上ノ坑ヲ掘リテ埋没スヘシ

但埋没シタル場所ハ十二年ノ後ニアラサレハ發掘スルヲ得ス

第十條 傳染病畜及其排泄物ニ觸レタル物品若クハ看護者ハ勿論其患畜ノ在リシ場所ハ獸類ノ所有者又ハ管理者ニ於テ消毒法ヲ行フヘシ

第十一條 道路ニ於テ傳染病ニ罹リタル獸類若クハ其死體ハ警察官吏ノ指定シタル場所ニアラサレハ轉移スルヲ許サス

第十二條 傳染病ノ流行ニ際シ警視總監北海道廳長官府縣知事ハ獸類市場ノ開設及斃牛馬化成ニ關スル營業ヲ停止スルヲ得

但本條ノ場合ニ於テハ停止又ハ解停ノ都度其旨ヲ農商務大臣ニ届出ツヘシ

第十三條 第三條第六條第八條ノ届ヲ受ケタル戶長役場ハ郡區役所ヲ經警察署ハ直ニ所轄廳(警視廳北海道廳府縣廳ヲ云フ)ニ届出ツヘシ

第十四條 警視總監北海道廳長官府縣知事ハ第三條及第六條ニ該當スヘキ届ヲ得タルトキハ直ニ其旨ヲ管内ニ告示シ且近接ノ地方廳ニ報告スヘシ

但本條ノ報告ヲ得タル地方廳ハ直ニ其旨ヲ管内ニ告示スヘシ

第十五條 警視總監北海道廳長官府縣知事ハ第十三條ノ届ヲ得タルトキハ毎土曜日其旨ヲ農商務大臣ニ届出ツヘシ

第十六條 警視總監北海道廳長官府縣知事ハ第六條ニ該當スヘキ届ヲ得タルトキ及管下接近ノ地方ニ傳染病蔓延ノ兆候アリトノ報告ヲ得タルトキハ農商務大臣ノ允許ヲ得テ豫防線ヲ劃シ獸類ノ出入往來ヲ停止スルヲ得

第十七條 牛疫蔓延ノ際ニ限リ其患畜ニ接近シタル牛ハ假令健康ノモノタリトモ警視總監北海道廳長官府縣知事ニ於テ農商務大臣ノ允許ヲ經ダル後之ヲ撲殺セシムルヲ得

但本條ノ場合ニ於テハ第五條ノ手續ニ據リ評價金ノ全額ヲ下付スヘシ

第十八條 牛疫ヲ除クノ外傳染病ノ蔓延ノ際ニ於テハ警視總監北海道廳長官府縣知事ハ農商務大臣ノ允許ヲ得タル後其患畜ヲ撲殺セシムルヲ得

但本條ノ場合ニ於テハ第五條ノ手續ニ據リ手當金ヲ下付スヘシ

第十九條 此規則ニ違背シタル獸醫及獸類所有者又ハ管理者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

但刑法ニ正條アルモノハ此限ニアラス

○獸類傳染病流行ノ節臨時獸醫ヲ雇入ル、トキ手當金支給方

明治十九年十月 農商務省令第十五號
今般當省令第十一號獸類傳染病豫防規則發布ニ付臨時獸醫ヲ雇入ル、トキハ壹人壹箇月

金拾五圓以内ヲ目途トシ其勤務日數ニ應シ手當ヲ與フヘシ

○蠶種検査規則 明治十九年八月 農商務省令第九號

蠶種微粒子病(一名黑痣病)豫防ノ爲蠶種検査規則左ノ通相定メ原種ノ検査ハ明治二十年検査期ヨリ施行シ製絲用種ノ検査ハ同二十一年検査期ヨリ施行ス

蠶種検査規則

第一條 凡ソ蠶種ヲ製造シ又ハ蠶種ヲ販賣セントスル者ハ管轄廳ニ願出テ鑑札ヲ受クヘシ

第二條 蠶種ヲ製造スル者ハ此規則ニ從ヒ其検査ヲ受クヘシ

第三條 検査証印ナキ蠶種ハ販賣又ハ飼育スルコトヲ得ス

第四條 蠶種検査所ハ管轄廳ニ於テ管内便宜ノ地ニ之ヲ設置スヘシ

但地方ノ狀況ニ由リ巡廻検査ヲナスモ妨ナシ

第五條 蠶種検査員ハ管轄廳ニ於テ之ヲ命スヘシ

但検査ノ方法ハ別ニ訓令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 春蠶種ノ検査ハ毎年十月二日ヨリ始メ夏蠶種秋蠶種ノ検査期日ハ管轄廳ニ於テ適宜之ヲ定ムルモノトス

第七條 蠶種ヲ製造スル者ハ春蠶種ヲ掃立枚數及ヒ製造額ヲ毎年七月三十一日マテニ夏蠶種秋蠶種ノ掃立枚數及ヒ製造豫算額ヲ検査期日ヨリ三十日以前ニ管轄廳ニ届出ツヘシ

第八條 蠶種ニハ製造人ノ住所氏名又ハ會社若クハ組合ノ名稱ヲ記シ之ヲ原種（販賣用種）ノ製造ニ用ユルモノヲ云フ）ト製絲用種トニ區別シテ檢査所ニ差出スヘシ

第九條 病毒ノ歩合原種ニ於テハ百分ノ五以下製絲用種ニ於テハ百分ノ十五以下ノ者ニ檢査証印ヲ付シ其以上ニ及フモノニハ都テ廢棄証印ヲ付スルモノトス

第十條 廢棄証印アル蠶種ハ販賣又ハ飼育スルコトヲ得ス

第十一條 蠶種ヲ製造シ又ハ蠶種ヲ販賣スル者廢棄スルカ他ノ管轄地ニ寄留若クハ轉籍スルトキハ其旨ヲ管轄廳ニ届出テ鑑札ヲ返納スヘシ

第十二條 第一條第三條第十條ニ違ヒタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

●内國船難破及漂流物取扱規則 明治八年四月 第六十六號布告
内國船難破及漂流物取扱規則別冊ノ通相定候條本年六月一日ヨリ施行可致此旨布告候事 但本年同日ヨリ浦高札ハ廢シ候事

第一條 諸通船海上又ハ川筋ニ於テ難破沈沒其他ノ災厄ニ逢ヒ候節救助心得方及ヒ之ニ屬スル諸費用ノ立方ハ總テ左ノ箇條ニ從テ取扱フヘシ

第二條 各地浦方ニ於テ難破救助ノ爲メ其管轄ヨリ區長其他用掛リ等ノ内ヲ以テ適宜ニ浦役人ヲ申付置クヘシ

第三條 諸通船難風ノ爲ニ困難シ又ハ其他災厄ニ罹リ候節ハ最寄ノ者見附次第直ニ浦役

人ニ報知シ且ツ浦役人ヨリ指圖無之ニ速ニ助船ヲ出シ救助方精々盡力致スヘシ 但シ救助ノ者困難船ニ漕寄セ候節船長其他重立タル者ヨリ頼談無之内ハ獲ニ船中ノ物品ヲ積ミ移ス可カラズ

第四條 浦役人ハ難船ヲ見附或ハ其報知ヲ得ル時ハ速ニ其乗組人及ヒ船體積荷ヲ救助保安スルノ手立ヲ盡ス可シ若シ多人數ヲ要スル程ノ大難船ト見受テ候節ハ板木半鐘等打鳴シ人數ヲ呼聚メ且近隣ノ船持ニ申付船ヲ出サシム可シ

第五條 少人數ニテ救助シ得ヘキ時ハ勿論前條ノ如ク多人數ヲ要スル程ノ大難船ノ節モ浦役人ニ於テ諸事取締ヲ付ケ成丈ケ失費掛カラサル様篤ク注意致シ救助方行届候ハ、早速人數ヲ退散セシム可シ

第六條 保安シタル船具積荷其他ノ物品ハ最安全ニシテ且便利ノ場所ニ之ヲ置クヘシ尤小屋掛ヲ要シ番人ヲ差置クヘキ程ノ場合ニ於テハ夫々其手數ヲナシ諸事懇切ノ取扱ヲ致スヘシ

第七條 難破ニ逢ヒタル船長又ハ乗組ノ者ハ上陸次第直チニ電信郵便其他ノ急報ヲ以テ之ヲ船主又ハ荷主ニ報知ス可シ

第八條 難船物ヲ保安スル者ヘハ左ノ割合ヲ以テ保安料ヲ遣ハス可シ

第一 海面ニ漂流スル物品ハ其二十分一

第二 海中ニ沈沒スル物品ハ其十分一

第三 川面ニ漂流スル物品ハ其三十分一

第四 川底ニ沈没スル物品ハ其十五分一
 但其所持主ノ都合ニ因リ代價又ハ現物ニテモ妨ケナシ

第九條 浦役人ハ救助ノ爲メ集マリタル人数及ヒ救助ノ爲メニ出シタル小舟現ニ難船品
 ナ保安シ及ヒ是レニ就テ盡力シタル証跡顯然タラサルニ於テハ保安料及其他ノ賃錢等
 割渡ス可カラス

第十條 保安シタル物品又ハ船洋等ノ餘殘物又ハ沙入り水濡レ等ノ爲ニ腐敗スヘキ恐レ
 アルモノハ二名以上ノ浦役人及ヒ船長其他重立乗組ノ者二名以上合議ノ上其所ニ於テ
 之ヲ入札拂ヒニ爲ヌテ得可シ

但本條ノ場合ニ於テハ浦役人ニテ成ルヘシ丈ケ最寄ヘ廣告シ公ケノ場所ニ於テ入札
 人其他衆人ノ眼前ニテ之ヲ爲シ且其物品ノ目錄及ヒ買人ノ証書並ニ其附直段ノ第三
 番迄ヲ取置クヘシ

第十一條 保安物ヲ賣拂ヒタルトキハ其代價金高ノ内ヲ以テ左ニ掲載シタル諸費用ヲ其
 船主荷主ヨリ出サシム可シ

第一 保安料

第二 救助ノ節働人足賃及ヒ小舟賃

第三 保安物ノ爲ニ取設タル小屋掛ケ入費及ヒ番人ノ賃錢

第四 乗組ノ者怪我人有之節其療養入費

第五 同前ノ者溺死スルトキ其挿索入費

第六 同前ノ者溺死ノ節埋葬入費

若シ物品賣拂金高諸費ノ高ヨリ少キトキハ其金高限リ出サシメ不足ノ分及賣拂フヘキ
 モノモ之レナキトキハ第十五條ニ照準シテ處置スヘシ

第十二條 左ニ掲載シタル諸入費ハ之ヲ三分シ其二分ハ船主荷主ヨリ出サシメ其一分ハ
 之ヲ其管内民費トス可シ

第一 難船取扱中浦役人ノ日給

第二 浦方ニ於テ難破ノ爲ニ費シタル薪炭蠟燭及ヒ筆紙墨代

第三 浦方ヨリ管廳其外等ヘ發シタル電信郵便及飛脚賃

第四 救助人溺死シタル時其搜索入費

第五 同前ノ者死傷スル時治療埋葬入費

第十三條 難破ノ節浦方ヨリ乗組人ニ給セシ衣服食物其他ノ必用品代料又ハ歸郷旅費等
 ナ貸遣シタル時ハ証書取置キ第十九條ノ通精算書中ニ記載シ退テ本人ヨリ償却セシム
 可シ

第十四條 大難船ノ節諸費用割賦ノ儀ハ 船體皆破沈没乗組人ノ死去及積荷ノ大損害 現場
 ノ救助方ヲ除クノ外各船ノ處置ハ其管廳ニ申立テ其節出張官員ノ差圖ヲ受ク可シ尤モ
 小難船ノ處置ハ二名以上ノ浦役人及ヒ船長其他重立乗組ノ者二名以上合議ノ上之ヲ決
 スルヲ得可シ

第十五條 船體積荷ヲ併セテ悉皆沈没ニ至ルノ大難船ハ浦方ニ於テ其救助ノ爲ニ許多ノ

雜費相掛り候トモ船主荷主ヨリ之ヲ取立ルヲ得ス故ニ其差出スヘキ費用ノ分ハ官費ヲ以テ支給スヘキニ付費用明細帳ヲ作り浦役人船長連署押印シ管廳ヘ差出ス可シ

第十六條 危難ヲ冒シテ乗組人ノ必死ヲ救フ者又ハ救助ノ爲メ盡力シテ死傷ニ至ル者アルトキハ必ス管廳ヘ届出ヘシ其事實ノ輕重ニヨリ相當ノ賞譽或ハ手當金ヲ給ス可シ

第十七條 総テ浦役人及船長合議ノ上處置シタル時ハ事務ヲ詳細ニ記シタル証書ニ通テ作リ之レニ連署押印シ其一通ヲ船長ヘ渡シ他ノ一通ヲ浦役人ニテ保チ置クヘシ

第十八條 二名以上ノ浦役人合議ノ時ハ其内一名ハ必ス他村ヨリ出ス可シ

第十九條 難船救助ニ屬スル諸費用ハ二名ノ浦役人及船長其他重立乗組ノ者二名以上立會ノ上第十一條第十二條第十三條第十五條ニ照シテ夫々其費用ノ種類ヲ區別シ成ル可ク速カニ精算書ヲ作り之ニ難破明細書ヲ添テ管廳ニ差出シ其檢査ヲ受ク可シ

但精算取調ノ節ハ成丈ケ船主又ハ荷主ノ立會ヲ要ス可シ

第二十條 前條ノ精算書ハ管廳ニ於テ速ニ調査ヲ遂ケ不審ノ廉無之トキハ早速下ケ渡ス可シ然ル上浦役人ハ第十五條ニ記スル場合ヲ除クノ外船主荷主或ハ船長ヨリ夫々出金致サシムヘシ若シ其即時辨金相成難キ分ハ相當ノ日數ヲ猶豫ス可シ

但民費ノ分ハ其管廳ヨリ取立浦役人ヘ下渡ス可シ

第二十一條 洋中ニ於テ難破或ハ打荷等有之趣ヲ以テ浦証文ヲ願出ル時ハ二名以上ノ浦役人立會ノ上船長及ヒ乗組ノ者二名以上ヲ別々ニ取調ヘ其實跡アルカ又ハ航海日記アルモノハ之レニ照シ各々符合スル時ハ浦証文ヲ作り連署調印シテ之ヲ船長ニ付與シ寫

ヲ以テ管廳ニ届出スヘシ

但浦証文中左ノ箇條ヲ載ス可シ

- 第一 難破ニ逢タル場所其日及風波ノ模様
- 第二 破損ノ箇所
- 第三 打荷ノ種類箇數並他ノ積荷ノ種類
- 第四 船號及ヒ免狀ノ番號並船主船長ノ本貫苗字名乗組人數
- 第五 荷打シタル荷物主ノ苗字名本貫
- 第六 仕出シ地及ヒ仕向ケ地ノ港名
- 第七 乗組ノ内死傷有之トキハ其本貫苗字名年齢
- 第二十二條 軍艦其他ノ官有船困難候節ハ早速助船ヲ出シ精々盡力シテ救助ス可シ且其難破ノ大小ニ拘ハラズ其旨ヲ直ニ管廳ヘ報知ス可シ
- 第二十三條 前條ノ救助ニ屬スル諸費用ハ船將又ハ其筋ノ士官ヨリ直チニ受取ヘシト雖但總テ管轄ノ指揮ヲ受クヘシ
- 但第十一條ニ記載スル保安物ニ就テハ別段相當ノ手當ヲ與フ可シ
- 第二十四條 貢米及ヒ其他ノ官物ヲ積入候船難破ニ及ヒ候節現場救助ヲ除クノ外總テノ處置ハ管廳ヘ申立ノ上其指揮ヲ受ク可シ
- 但郵便物ヲ積込候船ハ其最寄郵便役所又ハ取扱所ヘ郵便行齋ヲ至急引渡ス可シ
- 第二十五條 難船取扱ノ間浦役人ノ日給ハ一日五十錢ヨリ多カラス十錢ヨリ少ナカラサ

ルモノトス

難破ノ節働人足賃及ヒ小舟賃ハ土地ノ異同ト勞役ノ難易ニ依リテ同シカラスト雖モ各管廳ニ於テ適宜見積リ豫カシメ其額ヲ定メ置ク可シ

第二十六條 船長及ヒ擔任ノ者怠慢ニヨリ難破沈没其他ノ損害ヲ生スル時ハ右損失ヲ其者ヨリ償却セシムヘシ若シ其災厄人智ノ前知ス可カラズ人カノ豫防ス可カラサルニ出ルコトヲ瞭然明證スル時ハ此限ニアラス

第二十七條 浦役人船長其他救助ノ者ト申合セ其保安シタル難船物ヲ沈没ト偽リ竊ニ賣買スル者ハ律ニ照シテ處分ス可シ

第二十八條 凡テ難船ノ節救助ニ託シテ積荷船具其他ノ物品ヲ竊盜或ハ掠奪スル者又ハ其竊盜掠奪ニ黨スル者或ハ其本犯ヲ陰匿スル者又ハ竊盜物ト知テ之ヲ賣買スル者ハ律ニ照シテ處分スヘシ

第二十九條 以下漂着ノ部 凡原因ノ知レサル難船漂着物及ヒ乗組人ナキハ漂着船ヲ見附ル者ハ之ヲ浦役人ニ報知ス可シ浦役人ハ其調書ヲ作り之ヲ其管廳ヘ届出可シ

第三十條 乗組人ナキ船ハ其漂着ノ月日船ノ大小破損ノ模様等ヲ精細ニ登記シ漂着物ハ其品名箇數等精細ニ書記ルシ其漂着近傍人民輻輳ノ地ノ揭示場及ヒ船改所ヘ六十日間張出ス可シ尤モ漂着物ノ代價二十圓以上ト思量シ或ハ二十圓以下タリモ必要ノ品柄ト思量スル時ハ其管廳ヨリ三府五港ノ管廳及ヒ税關ヘ報告シテ張出ヲナシ或ハ新聞紙ニ載セテ公告ス可シ

第三十一條 漂着物ノ持主知レタル時ハ左ノ區別ニ循ヒ處置ス可シ

第一 一ケ年以内ハ其見積代價ノ三分一ヲ取揚主ニ與ヘ其現品ハ持主ニ返還スル事但持主ノ情願ニヨリ現品賣拂ヒ其代金ニテ受取ルコトヲ得ヘシ

第二 一ケ年ヲ過クレハ之ヲ公賣シ其代價ヲ平分シ一半ハ其取揚主ニ與ヘ一半ハ官ニ收ムル事

但シ三ケ年以内ニ其持主知レタル時ハ官ニ收メシ部分ハ下戻ス可シ

第三十二條 乗組人無之漂着船ノ持主知レタル時ハ左ノ區別ニ循ヒ處置ス可シ

第一 一ケ年以内ハ其見積代價ノ三分一ヲ見附主ニ與ヘ其船ハ持主ニ返還スル事

但書ハ前條第一項ニ同シ
第二 一ケ年ヲ過クレハ之ヲ公賣シ代價ノ三分一ヲ見附主ニ與ヘ其餘ノ二分ハ官ニ收ムル事

但書ハ前條第二項ニ同シ

第三十三條 前二條ニ記スル場合ニ於テハ律例遺失物ノ條ト抵觸スルコトナカル可シ

第三十四條 凡漂着物ヲ保存シ及ヒ之ヲ公告スル等ノ事ニ付費用アルモノハ第十一條ニ照シ浦役人ノ與印シタル証書ヲ以テ代價ノ全部中ヨリ償却ス可シ

第三十五條 洋中ニ於テ難破イタル桅檣其他ノ船具ニ取附キ海岸ニ漂着致シ候者有之節ハ浦役人ヨリ一通リ取調ヘ相當ノ保護ヲ加ヘ置直チニ管廳ニ届出其指揮ヲ受ク可シ尤モ本人歸郷ノ旅費其他ノ手當等貸遣ハシ候節ハ第十三條ノ通り退テ本人ヨリ償却セシ

ム可シ

第三十六條 凡漂着物ヲ見附ケタル者之ヲ浦役人ニ報知スルコトナク其物品ヲ私カニ使
用シ又ハ之ヲ賣買スル者ハ第二十八條ニ照シ處分ス可シ

第三十七條 暴風雨等ニテ流失ノ材木ヲ取揚ケル時ハ此規則第二十九條以下ニ照準シ其
代價十分ノ一ニ過キササル取揚料ヲ遣スヘシ(十年第九號)
(布告改正)

第三十八條 前條ノ場合ニオイテ取揚ケタル材木巨大ニシテ領置ニ不便ナルモノハ官之
ヲ公賣シ其代價ヲ以テ現物ト看做シ材主ノ有無ニ從ヒ處分スヘシ(十一年第三十二號)
(號布告本條追加)

○浦役場及浦役人設置方 明治九年十二月 開拓使及沿海府縣へ達
從來浦役人ノ名稱有之候得共其事務ノ定限モ無之ニ付自今左ノ條款ニ從ヒ浦役場ヲ設置
シ浦役人ヲ命メヘシ此旨相達候事

第一條 浦役場ハ沿海大市及商船輻輳ノ地ニ於テハ便宜ノ場所ヲ撰テ之ヲ設置ス可シ

第二條 浦役場ハ當分ノ中區務所等ヲ以テ代用シ浦役人ハ區長若クハ戶長ニ兼勤申付書
記用掛等ヲシテ補助セシムヘシ

第三條 浦役人ハ其地繫泊ニ關スル庶務 警察事務稅關事務其他 及ヒ難破船取扱難破浦證
文付與等ノ事ヲ掌ラシムヘシ 主管アル事務ヲ除キ

第四條 浦役場設置ノ地名ハ明治十年三月三十一日限リ内務省ニ報告シ以後毎年十二月
中ニ其廢置變換等ヲ同省へ報告スヘシ

●地理

●日本坑法 明治六年七月 第二百五十九號布告

今般鑛山其他諸坑業ノ規則別冊之通改定候ニ付テハ凡坑物ニ關係ノ事件ハ工部省ニ於テ
總管セシメ候條自今金屬其外諸坑物營業ノ儀都テ同省へ可申立候此旨布告候事

第一章 日本坑法

第一節 坑物

第一 正理ヲ以テ論スルトキハ凡無機物タル者ハ 生活ノ機ナ 都テ坑業ノ部分ニ屬ス此無
機物品質ニ類ニ分ル即第一類ハ有鑛質第二類ハ無鑛質タリ凡諸金屬ノ天然本質ヲ以テ

出ル者或ハ他ノ物質ト合化シテ出ル者ハ右第一類ニ屬ス燃質物山鹽隣酸石炭美石及玉
璞ノ類ハ右第二類ニ屬ス 本條舉ケル所ノ有鑛質ノ無鑛質トモ總テ之ヲ

第二 前ニ掲記セシ物類凡日本國中ニ於テ發見スル者ハ都テ日本政府ノ所有ニシテ獨リ
政府ノミコレヲ採用スル分義ナリ

第三 築石土砂粘土其他建築耕作處用ノ諸物品ハ都テ地主タル者ノ所有トスヘシ

第四 日本ノ民籍タル者ニ非サレハ試堀ヲ作シ坑區ヲ借リ坑物ヲ採製スル事業ノ本主或
ハ組合人トナルコトヲ得ス 坑産ノ割合及損益ニ關係ス 若シコレヲ犯ス者ハ其業ニ屬ス
ル所有物ヲ官ニ沒入シテ其業ヲ禁止スヘシ

第二章

試堀

地理

第五 試掘ヲ作サント欲スル者ハ工部省ニ願出許可ヲ得テ之ヲ行フベシ試掘ヲ行フ爲ニ
 必用之地面他人ニ屬セハ其價金ヲ對談處分ス可シ
 地主ニシテ自ラ試掘ヲ企ル者ハ衆ニ超テ許可ヲ得ヘキ分義アリトス然レモ自ラ試掘ノ
 資本無クシテ他人ノ舉ヲ拒ミ或ハ不當ノ價金ヲ貪ラハ工部省或ハ地方官ニシテ正價ヲ
 裁決シテ其地ヲ買上クヘシ
 第六 試掘ニテ坑物發見スルトキハ直ニ見本ヲ添テ工部省ニ届出ツ可シ且試掘中ハ一月
 七月兩度毎ニ前六ヶ月間ノ行業日數及土數並産鑛量ヲ開報ス可シ
 凡産鑛ハ借區券ヲ第十款得ル後ニ非サレハ恣ニ賣却スルヲ得ス若シ之ニ背カハ其全價
 ヲ沒収ス可シ
 第七 試掘ハ都テ一年間ヲ以テ期限トス若延期ヲ願出ルニ實ニ未メ開坑ヲ決スルコトヲ
 得サル事理判然タラハ之ヲ許可スルコトアルヘシ
 第八 試掘人廢業スルトキハ第二十七款廢坑則ノ如クスヘシ
 此時ニ産鑛ハ工部省ノ許可ヲ得テ賣却シ第三十一款ノ坑物稅ヲ納ム可シ
 試掘人損失ニ因テ廢業スル事實判然タルニ於テハ坑物稅ヲ免スルコト有ルヘシ
 第三章 借區開坑
 第九 開坑スル者ハ先ツ坑區ヲ得ヘシ坑區ノ廣狹ハ其適實ナル起業ノ目途ニ應シテ之ヲ
 得セムヘシ
 但石炭坑ノ借區ハ壹萬坪以上ニ限ルヘシ

有鑛質坑ヲ開クモノハ必ス製鑛ノ業ヲ兼ヌヘシ
 凡借區開坑ハ工部省ニ願出ヘシ此願書ニ其得ント欲スル坑區ノ測量圖ヲ添テ出ス可シ
 試掘ヲ經テ借區願出ル者ハ其坑區中別ニ地主有リト雖モ之ヲ拒ムヲ得ス尤其處分ハ借
 區券ヲ得ルノ後第二十二款ノ如クナルヘシ
 第十 願出ノ借區ハ工部省官員之ヲ驗測シ標石ヲ植テ境界ヲ職別スヘシ
 巡回官員歸報ノ後許可スヘキハ工部全權ノ証印ヲ以テ借區券ヲ附與スヘシ
 第十一 凡借區ハ通常十五年間ヲ以テ定期トス之ヲ終ルニ至テ繼年期ハ新ニ願出ツヘシ
 第四章 通洞
 第十二 通洞ハ坑道ハ縱横ニ小坑ヲ穿ツヲ通常トス別ニ探鑛疏水運輸等
 我カ借區中ニ非スト雖モ之ヲ企ルコトヲ得ヘシ此時ハ願書ニ目論見明細圖ヲ添テ工部
 省ヘ出スヘシ
 若シ通洞他人ノ借區ニ亘涉スヘキハ豫メ其借區人ニモ報知スヘシ
 通洞ハ高九尺幅六尺ヨリ減スヘカラス是ヨリ少ナルハ通洞トセス
 第十三 願出之通洞ハ工部省官員實地勘踏歸報ノ後許可スヘキハ工部全權ノ証印ヲ以テ
 免狀ヲ附與ス可シ免狀ヲ得ルノ後若シ目論見圖ニ違ヒ方向ヲ轉シ或ハ距離ヲ延縮セン
 ト欲セハ更ニ工部省ヘ願出許可ヲ得テ之ヲ行フ可シ
 第十四 借區人何レモ自ラ通洞ヲ開クヘキ資本有ニ非サレハ我區中マリト雖モ他人ノ舉
 ヲ拒ムヘカラス

通洞保全ノ爲ニ其周圍ノ土石ヲ外ヨリ厚サ一間半以内ニ掘入ルヘカラス然レ其跡ニ自己ノ入費ヲ以テ支柱ヲ構造シ崩潰ノ患無カラシムル者ハ此限ニ非ラス是ハ坑物ヲ得土石ヲ掘出ス時ノ如キ是也

第十五 通洞ニ因テ諸借區人便利ヲ得ルコトアラハ通洞發起人ニ其謝金ヲ出スヘシ若シ之ニ就テ對談穩當ナラスハ工部省ヨリ處斷スヘシ
通洞ヲ開ク者ハ借區人未定之所ニ於テハ通洞ノ周圍内ヨリ出ルメケノ鑽石ヲ取ルコトヲ得ヘシ他人ノ借區中ニ於テハ此鑽石ノ一半ヲ借區人ニ歸スヘシ

第五章 坑業

第十六 都テ坑業ニ付テハ坑物ヲ坑中支柱ノ爲ニ存ス可キ所ノ外ハ成丈坑利ヲ遺スコトナク取出スヘシ此法ヲ犯シ其他都テ坑ノ利用ヲ害スルモノハ其輕重ニ隨テ罰金ヲ徵ス可シ

第十七 試掘開坑或ハ通洞等ヲ企ルニハ舍屋鐵道河流及道路ノ如キ其害ヲ受ヘキ場所ハ度ヲ計テ之ヲ避ケ殊ニ城堡ハ七十間以内ノ地ヲ避クヘシ
凡ソ場所ノ主タル者應諾スルニ非スシテ此ヲ犯ス者有レハ城堡ハ其律ニ任シ餘ハ其損害ヲ償復スル一倍ノ費額ヲ取テ本費ハ其主ニ附與スヘシ

第十八 凡初發許可ヲ得シ坑物ノ外ニ別種ノ坑物ヲ見出ス者ハ速ニ工部省ニ報知スヘシ之ヲ背ク者ハ其坑物又ハ代價ヲ取揚クヘシ

如此類ノ借區稅ハ第三十一條ニ照準シ高價ナル方ノ例ヲ以テ納ムヘシ

第十九 開坑人ハ歲々一月七月兩度毎ニ前六ヶ月間ニ產出セシ坑物量其賣出高並代價及行業日數工數ヲ具記シテ工部省ニ報知スヘシ

有鑛質ハ坑產量並製出量且製出セシ混淆物二種以上ノ金屬ヲ含有スルハ其試驗ノ割合ヲモ具記シテ賣出高以下總テ前ノ如クスヘシ

右數量不正或ハ開報違期罰金五拾圓トス若シ賣出高並代價ヲ減書スル者ハ其減書セシ高ノ三倍ヲ徵收スヘシ

第二十 通例開坑又ハ廢礦ヲ採製スルニモ一年間ノ事業ハ地面五百坪ノ下ニ就テ壯健ナル一夫三百日ヲ以テ成セル程ノ工數ヨリ減スヘカラス若シ之ニ背ク者實ニ百方免レ難ク妨碍判然タルニ有ラスンハ其業ヲ禁止スヘシ

第二十一 坑業人ハ互ニ隣坑ノ風通シヲ便利ニスヘシ且甲區ヨリ乙區ノ地中ニ水道ヲ通シ地上ニ要路ヲ通センコトヲ求ムルニ於テハ不當ノ償金ヲ貪ル可ラス若相對シ以テ決ヒスンハ工部省ヨリ處斷スヘシ

右掘通シニ付テ出ル礦石ハ其所ノ借區人ニ屬スヘシ

第二十二 凡借區人ハ區上ニ於テ藏庫詰所作事場洗礦所鑛路所通路等其他坑業ニ必要ナル地面ハ地主タル者ニ豫メ償金ヲ辨ス可シ若シ異論決セスンハ工部省或ハ地方官ニテ正價ヲ裁決シ其地ヲ買取ル可シ

第二十三 總テ坑區ヨリ隣區ニ患害損傷ヲ被ラシムルトキハ之ヲ償フヘシ若シ償金決セ

スハ工部省ヨリ裁決スヘシ

第二十四 凡借區人其坑業ヲ年限期中他人ニ讓渡ス如キハ前以テ雙方ヨリ工部省ニ願出許可ヲ請フヘシ若シ之ニ背ク者ハ其業ヲ禁止スヘシ

第二十五 凡借區年限終リ又ハ法ニ背ヒテ其業ヲ禁止セラレ或ハ自ラ廢業スルニ至ル者有レハ都テ其借區ハ政府ニ還復シ其事業ニ就テ如何ナル負債アリト雖モ總テ其坑山ニハ關係セサル者トス此時ニ當テ地中ノ結構ハ坑山ニ屬シテ政府ノ有タルヘシ地上ノ營造ハ其主ノ取去ルニ任スト雖モ其趾ノ地面ハ完全ニ修復ヲナスヘシ

第二十六 坑業人ハ其坑山地方ノ住民同様トス因テ其地方官ノ諸法命ヲ遵守ス可シ

第六章 廢業

第二十七 坑業ヲ廢セント欲スル者ハ堅坑ノ口ヲ掩ヒ又柵圍ヒスヘシ工部省ヨリ其堅坑ヲ當然ニ堅固ニセシヤ且坑内ノ營繕完全存在スルヤヲ檢査スヘシ若シ疎漏アラハ工部省ニ於テ是ヲ繕治ス可キ費額ノ一倍ヲ徵收スヘシ

第二十八 工部省ヨリ疏水ヲ命スルニ背キテ其事ヲ行ハス之カ爲ニ坑中廢没スルニ至ル者ハ其業ヲ禁止ス

第七章 製鑛所建築

第二十九 凡開坑ハ坑山外ノ場所ニテ有鑛質物ヲ製出セン爲ニ建築スヘキモノアラハ先工部省ノ許可ヲ請フ可シ

第三十 已ニ製煉セシ鑛物ヲ精製シ荒銅ヲ丁銅掉銅ニ作り山吹スル職業ノ者ハ起業ヲ工部省ニ製煉セシ鑛物ヲ精製シ荒銅ヲ丁銅掉銅ニ作り山吹スル職業ノ者ハ起業ヲ工部

八年一月
第二號布
告ヲ以テ
坑物稅收
納ヲ廢止
ス

省ニ報知シ六ヶ月毎ニ元鑛量并製出品量等ヲ具記シ工部省ニ開報スヘシ

第八章 稅納

第三十一 鐵ヲ除クノ外有鑛質物ヲ採取スル坑區ハ面積五百坪毎ニ一ヶ年金一圓ツ、借區稅トシテ毎年一月ニ其年一ヶ年分ヲ前納スヘシ借區稅ハ地租、鐵及無鑛質ノ諸物品ヲ採取スル坑區ハ面積五百坪ニ付前條ノ半高ヲ納ムヘシ即金五拾錢トス

但意納者ハ借區券ヲ取揚クヘシ

廢鑛ヲ採取スル坑區ハ面積千坪ニ付常例ノ稅額ヲ納ム可シ

開坑區面積五百坪廢鑛區面積千坪トニ足ラサルモノハ總テ右面積ノ比例ニ隨テ納ムヘシ

借區初年ノ區稅ハ月割ヲ以テ借區ノ券下付ノ節前納スヘシ

前書借區稅ノ外ニ採製セシ金屬及諸坑物ニ就テ代價百分ノ三ヨリ百分ノ二十迄ヲ坑物稅トシテ毎歲一月七月兩度ニ工部省ニ納ムヘシ

但稅額ノ儀ハ其坑業ノ盛衰ニ隨ヒ工部省ヨリ命スヘシ

第三十二 試掘開坑或ハ通洞等ニ付テ前後諸條款ニ記セル稅或ハ罰金償金等ヲ納メサルトキ其業ニ屬スル所ノ運移スヘキモノ殘テス工部省ヨリ入札拂ニシテ代價ノ中ヨリ不納高ヲ引去リ其殘金ハ之ヲ本人ニ還付スヘシ

第三十三 凡坑法ノ意旨ニ戾ル過失アル者ハ輕重ニ隨テ罰金ヲ命スヘシ若シ事業疎略ニシテ人命ヲ失ハ、國律ヲ以テ論處ス可シ

右章款ニ記載セル方法ハ明治六年九月一日ヨリ施行スヘシ從前ノ法則及舊習等若シ此

地理

法ニ矛盾スル者ハ都テ廢停タル可シ

坑法附示

坑業及製鑛ノ業ヲ舉行スル者西洋ノ學術及工作ヲ用ヒンカ爲メ一定ノ給料ヲ以テ外國
技術家ヲ雇入ル、カ如キハ我坑産損益及所有物ニ關係スル事無キニ因テ坑法第四款ノ
禁ニ觸レズ然レモ之ヲ雇入ル、以前其職業給料及年限ヲ分明ニ記載シ其案紙ヲ工部省
ニ送呈シテ結約ノ許可ヲ可請候事

●國土保安林斫伐採鑛等停止方明治十七年二月
太政官第三號布達

明治十五年二月第三號布達左ノ通改正ス

民有森林ノ中水源ヲ養ヒ土砂ヲ止メ又ハ風潮ヲ防キ積雪ヲ支ルノ類國土保安ニ關係アル
箇所ニシテ慢ニ其樹木ヲ斫伐シ鑛物土石ヲ掘採セハ他ニ障害ヲ及スコト不勘ニ付是等ノ
箇所ハ實地ノ景狀ニヨリ其事業ヲ停止セシムルコトアルヘシ

○國土保安林斫伐採鑛處分方明治十七年三月
農商務省第三號
府縣沖繩縣ヘ達
ヲ除ク

明治十七年二月第三號ヲ以テ明治十五年二月第三號布達改正之儀布達相成候ニ付テハ明治十
五年二月當省第三號達左之通改正候條此旨相達候事

民有森林ノ内水源涵養土砂并止風潮除積雪止等ノ如キ國土保安ニ關係アル箇所ニ於テ
樹木ヲ斫伐シ鑛物土石ヲ掘採セントスルモノアルトキハ其都度實地ノ景狀ヲ檢査シ處
分方可伺出

●土石堀取規則明治十年十月內務省
甲第二十一號布達

日本坑法第一章第三款ニ屬スル土石堀取規則ノ儀ニ付昨九年當省甲第三號ヲ以テ相達置
候通り土石料ノ儀ハ是迄百分ノ一ヨリ二十迄ノ處自今更ニ百分ノ一ト定メ開坑願書式共
別紙ノ通更正候條此旨布達候事

土石堀取規則

此規則ハ日本坑法第一章第三款所屬ノ土石、硯石、砥石、版石、石盤、石灰石、築石、碑石、
粘土ノ類ニ限り之ヲ施行スヘシ

第一條 官有地ノ土石ヲ開坑試堀セント欲スルトキハ別紙書式ニ照シ繪圖面ヲ副ヘ地方
廳ヲ經テ當省ヘ願出ヘシ

第二條 官有地ノ開坑ハ土石料トシテ一ヶ年堀出シタル坑物代價即チ山元賣拂直段ノ百
分ノ一ヲ上納スヘシ

第三條 凡ソ石ハ一尺立方ヲ以テ一切トシ切以下ハ分厘ヲ以テ之ヲ算シ土砂ハ六尺立方
ヲ以テ一坪トシ坪以下ハ合勺ヲ以テ之ヲ算フルモノトス
(書式略之)

●坑物引當トシ外國人ヨリ金子借入又ハ先キ賣條約相成ラ
ス

明治七年十一月
第四百四十四號布告

坑物ノ儀ハ明治六年第二百五十九號布告日本坑法ニ掲載之通政府之所有物タルハ勿論ニ

付假令開坑ノ許可ヲ受候共其坑中將來開發ノ品ヲ引當ニ致シ外國人ヨリ金子借入又ハ先
キ賣條約等ノ儀ハ不相成候條此旨布告候事

●諸坑業稼人身代限處分ヲ受タル節處分濟マテ稼業相成ラ

明治九年四月
第四十九號布告

諸坑業稼ノ者身代限リ處分ヲ受ケ候節ハ右處分相濟候迄稼業不相成候條此旨布告候事

○諸坑業稼人身代限處分受タルキ試堀借區証券返納方
太政官第四十九號身代限リ處分ヲ受候者處分中坑業稼方不相成旨御布告ニ付右處分ヲ受
候者ハ當省ヨリ下渡置候試堀借區假證券返納可致此旨布達候事

但身代限リ處分濟之上猶再稼致度者ハ坑法ニ照準更ニ可願出候事

○諸鑛業ハ外國人雇入方
明治六年七月
工部省第二號達

諸鑛業稼方ニ付外國技術方雇入ノ儀ハ重大ノ事件ニ候然處條約ノ疎漏ヨリシテ往々後害
ヲ生シ候儀不少因テ受負稼稼ノ者共再後外國人雇入候節ハ其管轄廳ニ於テ事實檢査之上
本人願書ヘ條約草案原文譯文トモ相副管轄廳ヨリ外務工部兩省長官連名當ニテ當省ヘ差
出候ハ、取調候上外務省ニ打合兩省免許書一同可相渡候猶雇入免許ヲ受雙方調印之節外
國人ヨリ坑産并動産不動産ニ關係不致技術而已專任ト致候儀証書差出サセ候條前以其雇
入ヘキ外國人ヘ示談致シ置願書差出可申候此段爲心得兼テ相達候也
但免許ノ上ハ條約書原文寫譯文トモ兩省ヘ可差出候事

○諸鑛業ハ外國人雇入出願方
明治六年八月
工部省第五號達

諸鑛業ニ付外國技術方雇入願出候者間々不案内ヨリ鑛山學科ニ通セサル者雇入候向モ有
之其事業ノ損益ニ係リ候而已ナラス終ニ鑛業ノ防害ト相成事ニ候其他外國人雇入之儀者
辛未六月御布令之趣モ有之候處右雇入既ニ約定書ヘ調印ノ後願出候向モ有之心得違ノ事
ニ候依之爾後外國技術方雇入候者ハ先當省鑛山寮ニ打合ノ上右ノ履歷明細書相添願出候
ハ、更ニ鑛山寮ニ於テ其者ノ學術并免狀ノ檢査ヲ遂ケ其任ニ當リ候者ハ雇入可差許ニ付
條約草案差出可申當省許可無之以前ハ假令假條約ヲ取結申問敷候且鑛山開業候テ
其實本資金無之密ニ外國人等ヘ借金ノ引當ニ相稼セ候者モ有之由是亦壬申三月御布令モ
有之以テノ外ノ事ニ付本資金無之者ハ稼方不差許候條稼稼人身元本資精細取調戸長調印ノ
上其管轄廳添書ヲ以テ可願出候其外請負稼人其質鑛業ヲ他人ニ讓渡内々收稅致候者モ有
之由相聞不届ノ至ニ候間嚴重取糺不取締無之様可致注意此旨相達候事
但本文心得違ノ者有之ニ於テハ兼テ稼方差許置候者ト雖モ右鑛山引上可申候間其旨兼
テ相心得候様可申達候事

○借區鑛業工程表差出方
明治六年十二月
工部省第十七號達

今般借區鑛業明細表確定ニ付別紙雛形書式ノ通坑業人ヨリ工程取調差出サセ可申候就テ
ハ右表式共鑛山寮及同寮各出張所 陸中國鹿角郡小坂 羽後國秋田郡大葛 出雲國意宇郡
築後國三 相備置候間最寄稼人共願出候ハ、相當ノ代價ヲ以拂下可申候尤各府縣ニ於テ
池郡三池 便宜ニヨリ翻刻ノ上管下稼人ヘ相當ノ代價ヲ以テ拂下候儀可爲勝手此旨相達候事

地理

(表式略之)

借區坑業明細表書式凡例

借區人借區年限中ハ毎年一月ト七月ノ兩度ニ前六ヶ月ノ間ノ坑業ヲ借區坑業明細表ニ詳記シテ鑛山寮ニ開報スヘシ因テ借區人ノタメニ其書式凡例ヲ左ニ揭示ス

(借區)トハ坑物ヲ掘出スヘキ場區ヲ政府ヨリ借受クルコトヲ云フ此場區ヲ坑區ト云フ

(坑業)トハ坑物ヲ採製スル爲ニ行フトコロノ事業ヲ云フ

(開業)トハ坑物ヲ掘採ル事業ヲ始ムルコトヲ云フ

(明細表)チ二様ニ別ツ第一號ハ製煉ノ業ヲ兼テタルモノ、表トシ第二號ハ製煉ヲ兼テサルモノ、表トス

但凡テ製煉チナスヘキモノハ有鑛質物トス然レトモ無鑛質物ト雖トモ石油山鹽ノ如キ製煉ノ業ヲ兼テタル者ハ皆第一號ノ表ヲ用ユヘシ

府	何府又ハ何縣	國	何國	郡	何郡	村	何村	字	何字	何々々
縣	何府又ハ何縣	郡	何國	何郡	村	何村	字	何字	何々々	
坑名	何坑	金坑銀坑又ハ石炭坑ノ類								
借區坪數	何千何百何十何分	開業	明治何年何月何日	借區	何府縣管下何國郡村	又ハ	何府縣士族苗字名			
年號	明治何年	數	一月ヨリ三月迄	數	一月ヨリ六月迄					
			三ヶ月分精算		三ヶ月分精算					

但字ニテ所以上ハ何ヶ所ニテモ割書ニ記スヘシ

府縣國郡以下ノ野内都テ上ノ例ニ照準シテ記載スヘシ

但一月ヨリ六月迄ノ表ニハ月數上段チ一月ヨリ三月迄ノ分トス月數下段チ四月ヨリ六月迄ノ分トス○七月ヨリ十二月迄ノ表ニハ上段チ七月ヨリ九月迄ノ分下段チ十月ヨリ十二月迄ノ分トス尤借區ノ初年末年ノ如キ行業三ヶ月ニ滿タサル者ハ其月數ヲケテ記載スヘシ○且ツ此橫線野圍ニハ表面越髙堀出髙 其外各種ノ勘定高チ右三ヶ月ツ、ニ精算シテ記載スヘシ

(合計)此橫線野圍ニハ表面(堀出髙)其外各種ノ野内ニ記セス月數上段下段ノ勘定高チ三ヶ月ツ、ニ合算シテ記載スヘシ

但越髙殘高ハ合計ニ及ハス

- (坑品)トハ有鑛質物無鑛質物ト論セス總テ坑中ヨリ堀出ス所ノ物品ヲ云フ
- (製品)トハ坑中ヨリ堀出シタル物品ヲ製煉シテ金銀其他ノ金屬又ハ製成ノ石油山鹽等トナリタル者ヲ云フ
- (越髙)トハ前月殘高ノ本月ニ越シ來ルモノヲ云フ
- (堀出髙)トハ借區ノ面坪内ヨリ堀出シタル三ヶ月間ノ坑品高チ云フ
- (坑製煉髙)トハ前月ヨリノ越髙ト三ヶ月間ノ堀出髙ノ内ヨリ諸金屬又ハ石油山鹽等ヲ製出センカダメ製煉ニ向ケタル坑品高チ云フ
- (坑殘髙)トハ越髙ト堀出髙トノ内ヨリ未ダ製煉セスシテ残りタル坑品高チ云フ

地理

(製出來高) トハ抗品ノ既ニ製煉チ經テ製成シタル三ヶ月間ノ出來高チ云フ

品	何貫何百目	製品之内二種以上ノ金屬アリテマトヘハ金銀銅ナレハ其品種量目
銀	何貫何百目	
銅	何、何、何、	チ一種ツ、上ノ圖例ノ如ク記載スヘシ若混濁物ナレハ其高チ記シ含有物ノ見込ヲ試驗ノ

量ニ隨ヒテ朱書スヘシ

賣高製高品譯ノ書式之ニ同シ

(代價) トハ製品越高ト出來高ノ内チ賣販シタル總代價チ云フ

但シ賣販スル所ノ製品二種以上ナレハ其品種代價チ一種ツ、内譯ニ記載スヘシ

(製煉高) トハ製品越高ト出來高トノ内ヨリ未ダ賣販スル能ハスシテ残りタル高チ云フ

(行業日數) トハ抗品掘出ト製煉トノ事業チ行ヒタル總日數チ云フ

但行業ノ休日ハ算入セサルヘシ

(内掘出行業日數) トハ掘出ノミノ事業チ行ヒタル日數チ云フ

(製煉行業日數) 并ニ工數入費ノ内譯之ニ準ス

(工數) トハ抗品掘出ト製煉トノ爲メニ使用シタル入夫ノ總工數チ云フ

(入費) トハ抗品掘出ト製煉トノ爲メニ消費ノ總金高チ云フ

但第二號表面製煉チ兼チサル抗物ノ賣高代價以下宜シク上ノ例ニ準シテ知ルヘシ

(抗區稅) トハ抗區面積ノ坪數廣狹ニ隨ヒテ納ムル税金チ云フ

(抗物稅) トハ製出シタル抗品又ハ製煉ニ及ハサル抗物ノ販賣代價多寡ニ隨ヒテ納ムル税金チ云フ

借區開坑讓渡出願方 明治七年三月 工部省第八號布達

借區開坑許可之礦場甲ヨリ乙ヘ讓渡之儀抗法第二十四條之通甲乙雙方ヨリ願書差出當省ニ於テ調査不都合無之聞届候分ハ更ニ証券可下渡候條讓渡人所持之証券ハ願書一同可差出此旨布達候事

但讓受之年限ハ最初借區差許候年ヨリ殘年數ト相心得可申候事

○試掘礦場ヨリ抗物發見届方 明治七年十二月 工部省第三十號布達

試掘礦場ヨリ抗物發見スル時ハ抗法第二章第六款ニ照準直ニ見本可差出等ノ處未ダ不差出者モ有之不都合ニ付左ノ條目ニ照準シ早々爲差出猶試掘チ不經シテ借區開坑候者モ同様爲差出候様可致此旨布達候事

但以來モ本文同様可相心得候事

一有鐵質無鐵質ニ不係礦石類ハ方三寸ヨリ大ナラサルモノノ塊砂金ハ成丈大粒チ撰ミ

目方壹匁ヨリ三匁迄砂鑛ノ類ハ字毎ニ目方十匁石油山鹽等ハ字一箇所ニ付ニ合チ限リ

每種上中下三品差出スヘシ結晶物ハ大小ニ不關產出ノマ、差出スヘキ事

但結晶物ノ價格アルモノ並ニ砂金ハ相當ノ代價下渡候事

一礦物類ハ每種必產出ノ地名並掘採人ノ名前書チ添エヘシ

○諸鐵山試掘並借區開坑數箇所許可ノ分讓渡廢業分區出願方

理地

明治七年十二月
工部省第三十一號布達

諸鑛山試堀并借區開坑等証券一枚ヲ以テ數箇所致許可候礦場ノ内借區開坑或ハ讓渡廢業分區等出願ノ節ハ本年當省第八號布達ノ通願人所持ノ証券願書一同可差出此旨布達候事但試堀礦場字一箇所ノ内幾坪借區開坑讓渡廢業等願出殘リ幾部分猶引續致試堀候分ハ其譯詳細ニ書加ヘ可願出其分ニ限リ証券差出ニ不及候事

○鑛業需用ノ爲メ地所拜借出願方
明治八年一月
內務省乙第三號達

諸鑛山借區開坑試堀ノ儀ハ工部省ニテ處分シ鑛業需用ノ爲メ土地貸渡ノ儀ハ當省ニテ處分候等ニ付已來坑口水枝道路新設木石置場土砂棄場詰所作事場洗鑛所鑛鑛所等必需ノ場所借用ノ儀ハ工部省ニテ開坑試堀許可ノ上地名坪數等取調繪圖面等相添當省ヘ可伺出尤從前營業致居候分ハ官地拜借ノ有無取調可申出此旨相達候事

但借區坪數ハ鑛坑内面ノ儀ニ付需用ノ土地ト混同不致様可相心得事

○諸坑山試堀中坑業日數工數並出鑛量等屆方
明治八年二月
工部省第二號布達

諸坑山試堀中ハ坑業日數工數並出鑛量等坑法第六章ニ照準可届出且試堀滿期ニ至リ候者ハ借區或ハ廢業延期等可願出之處間ニハ遲延ノ向有之不都合候條各地方官ニ於テ篤ト調査テ遂都テ坑法ニ違背無之候様注意可致此旨布達候事

但本文借區或ハ廢業ノ延期等出願之節ハ証券相添ヘ可差出候事

○借區稅上納區分
明治八年三月
工部省第十號布達

諸鑛場借區稅初年ノ儀ハ月割ヲ以テ可納旨坑法第八章第三十一款ニ有之候處中ニハ初月

ノ立方區々ニ相成不都合ニ候右ハ券面記載ノ月ヲ以テ初月ト可相心得且本年一月ヨリ坑物稅當分廢止セラレ候得共昨七年十二月迄ニ借區許可ヲ受テ堀出ノ坑物同年中未タ賣販不致分ハ都テ前年ノ越高ニ候間追テ賣販候上賣高及代價ヲ明細表野中ヘ譯書致シ其代價百分ノ五鑛山寮ヘ上納可致此旨布達候事
但從前請負稼之者未タ借區許可ヲ得サル向モ昨七年十二月迄ハ舊貫稅ヲ以テ來ル五月三十一日限リ上納可致候事

○一鑛山數人分區試堀並借區開坑ノ節出願方
明治八年十二月
工部省第二十六號布達

諸坑業人一鑛山ヲ數人各自ニ分區營業候者双方坑區ノ中間ニ相當ノ距離線無之候テハ都合ニ付自今試堀並借區開坑共雙方坑區ノ中間ニ拾間以上ノ距離相立可願出且現今彼此接續ノ坑區ハ更ニ右ノ距離取調圖面相添双方ヨリ減區可願出此旨布達候事

但右間地ニ於テ採鑛セサルヲ得サル節ハ双方借區人示談ノ上連名ヲ以テ增借區開坑可願出事

○鑛山鐵道燈臺電信等ニ係ル會社設立出願アルトキ伺出方
明治九年六月
太政官第六十六號達

鑛山鐵道燈臺電信等ニ係ル會社設立出願候節ハ自今工部省ヘ可伺出此旨相達候事

○諸鑛山試堀並借區開坑等廢業願屆方
明治九年十月
工部省第四號達

諸鑛山試堀并借區開坑等廢業願ノ儀是迄當省ヘ差出ノ上許可致來候處自今縣官ニ於テ日本坑法第六章第二十七款ノ通廢坑跡危害無之候様手當方行届候見込ノ分ハ直ニ聞届其段

證券相添可届出此旨相達候事

○諸鑛山試堀並借區開坑廢業届方 明治九年十二月 工部省第五號達

本年第四號ヲ以テ相達置候諸鑛山試堀並借區開坑廢業等届方ノ儀人民出願ノ月日記載不致向間々有之不都合ニ付以來右月日記載可届出此旨相達候事

○諸鑛山借區稅徵收方 明治十一年十一月 工部省無號達

諸鑛山借區稅之儀從前坑業明細表ニ據リ一ケ年分ヲ四割ニ計算シ收納致來候處今後ハ更ニ坑法ニ照準前一ケ年分ヲ翌年一月一纏ノ計算ヲ以テ上納可致尤明細表ヘハ一ケ年ノ高金ヲ右合計ノ郵内ニ記入可差出此旨相達候事

但從前ノ振合ヲ以テ既ニ收納致置候分ハ本年限

○砂金砂鐵坑業明細表差出方 明治十三年三月 工部省第六號布達

昨十二年第十四號ヲ以テ砂金砂鐵試堀借區開坑ノ名稱相廢候ニ付テハ該稼業者ヨリ從前差出來候行業明細表之儀左之雛形ニ照準取調可差出此旨布達候事

(雛形略之)

○借區廢業者收稅區分 明治十五年八月 工部省無號達

借區廢業者納稅ノ儀從前本人出願ノ月迄徵收致來候處先般借區稅前納相成候ニ付テハ以來徵收期限前ニ於テ廢業出願ノ分ハ收稅ニ不及儀ト可相心得此旨相達候事

○坑業明細表へ番号記入差出方 明治十六年十一月 工部省第三號達

坑業明細表差出候節自今試堀借區ハ證券番号又採取爐稼ハ許可ノ節願書へ記載番号記入

致シ差出候様可取計此旨相達候事

○借區開坑出願ノ節測量圖差出方 明治十六年十一月 工部省第四號達

借區開坑出願ノ節坑法第三章第九款第二項ノ規則不了解ヨリ認方粗漏ノ圖面差出候向モ有之不都合ニ付以來別紙雛形ニ照準測量圖ヲ調製差出候様可取計此旨更ニ相達候事

(雛形略之)

○諸坑業廢業届期限 明治十七年三月 工部省第一號達

諸坑場稼人廢業届ノ儀ハ開届ノ日ヨリ十五日以内ニ取調當省へ可届出且此分ニ限リ坑業明細表全時ニ可差出儀ト可相心得此旨布達候事

但証券引上坑業禁止ノ者モ本文同様可相心得候事

○諸坑業廢業禁止休業者明細表調製差出方 明治十七年三月 工部省第五號告示

諸坑場稼人廢業願出又ハ証券引上坑業禁止ノ者假令休業タリモ六年當省第十七號及十三年第六號達書式ニ據リ其月迄ノ明細表調製其際可差出此旨告示候事

但分區廢業ハ此限リニ非ラス

○借區圖面調製方 明治十七年四月 工部省第三號達

諸鑛山從來ノ借區圖中斜面ヲ以テ坪數ヲ計算候モノモ有之加之製圖疎漏ニシテ實地ニ符合セサルモノ不少不都合ニ付客歲十一月當省第四號達借區圖面雛形ニ照準千二百分一即壹間五厘ノ割ヲ以テ平面積ノ借區圖ヲ調製シ來ル六月三十日限り無遺漏差出候様坑業者へ可相達此旨相達候事

地理

但圖面改正ノ上坪數ニ増減ヲ生ズルトキハ速ニ増減借借區出願候様可致候事

○諸鑛山試掘借借區開坑出願者身元調査方 明治十七年五月 工部省第五号達

諸鑛山試掘并借借區開坑等今後出願ノ者ハ其身元篤ト取調ヘ無資力ノ分ハ勿論身元不儘ニ

シテ將來確實ノ坑業ヲ相營ヘキ見込無之分ハ以來許否伺出ニ不及候條其應限リ願書却下可致此段相達候事

○增借借區出願方 明治十八年五月 工部省第十八号告示

從前鑛場ノ增借借區ヲ許可スルトキハ新ニ証券ヲ下付シ來候處自今原證券ニ其坪數ヲ加書

シ下附ス可シ候條增借借區ヲ願出ル者ハ願書ニ原證券并ニ原借借區增借借區別シタル一紙ノ

測量圖ヲ相添差出スヘシ從前增借借區ノ許可ヲ得タル者ハ此際更ニ右手續ヲナスヘシ

但增借借區稅初年ハ証券裏書ノ月ヨリ起算上納スヘシ又增借借區ハ原借借區ノ期限ニ終ルモノト心得可シ

右告示候事

○借借區連帶稼人中除名出願アルトキ殘坑業人身元調査方 明治十八年六月 工部省第三号達

諸鑛山借借區連帶稼人ノ中除名出願候者有之候節ハ殘坑業人身元ノ義十七年 五月當省第五号達ニ照シ取調伺出ヘシ此旨相達候事

○試掘借借區人相續讓渡讓受ノ節証券訂正方 明治十八年十二月 工部省第三十八号告示

從來鑛山試掘借借區人相續又ハ讓渡讓受出願ノ節更ニ証券下渡候處自今券面訂正裏書下渡

スヘシ

○借借區稅息納及無故休業并試掘期限經過ノ者証券引揚方

明治十九年二月 農商務省令第三号達

鑛山借借區稅息納者及滿一ヶ年以上無故休業ノモノ坑業禁止ノ儀並ニ試掘期限經過ノモノ

証券引揚ケノ儀ハ已來伺出ニ不及其應限處分シ証券引揚返納ノ節其事由具申スヘシ

○証券引揚處分ヲ受ケタルモノハ同一村内ニ試掘借借區ヲ許サス

明治十九年三月 農商務省令第四号

鑛山借借區稅息納又ハ一ヶ年以上休業及ヒ試掘期限經過ノ爲メ証券引揚ケ處分ヲ受ケタル

モノニハ同一村内ニ於テ新ニ試掘又ハ借借區ヲ許可セズ

○借借區稅徵收後廢坑減坪ニ屬スル既納稅金下戻サス 明治十九年四月 農商務省令第五号

鑛山借借區稅徵收後廢坑又ハ減坪ニ屬スル既納稅金ハ下戻サ、サルモノトス

○借借區坪數更正稅金増減生ズルトキ徵收方 明治十九年四月 農商務省令第六号

明治十七年四月工部省第三号達ニ據リ鑛山借借區圖面調製坪數更正ノ爲メ其稅金ニ増減ヲ

生ズルトキ納期以前更正濟ノ分ハ更正坪數ニ據テ徵收シ其已後ニ係ル分ハ翌年納稅ノ節

ヨリ改正スルモノトス

○部分木仕付條例 明治十一年三月 內務省甲第四号布達

植林之儀ハ最モ方今ノ急務ニ付今般部分木仕付條例別紙之通施行候條其趣旨ヲ體認從事候様可致此旨布達候事

地理

部分木仕付條例

- 第一條 樹木ナキ官有ノ山野官ニ於テ差支無之時ハ人民ノ願ニヨリ之ヲ貸渡シ地味ニ適當セル木種ヲ植挿セシメ其幾分ヲ官納シ自ラ其幾分ヲ収メシムル之ヲ名ケテ部分木ト云
- 但官林伐木跡ト雖且從前部分ノ慣行有之箇所ハ本文ニ準スルヲ得ヘシ
- 第二條 第一條ノ趣旨ヲ以テ官地ヲ拜借セント欲スルモノハ先ツ該所ノ反別ヲ側量シ地味ノ適否ヲ審査シ別紙第一號書式ニ照ラシ地方廳ニ願出ヘシ
- 第三條 前條ノ場合ニ於テハ地方廳ニ於テ官吏ヲ派遣シ巡視點檢事實相違ナキトキハ之ヲ聞届ケ別紙第二號書式ニ倣ヒ貸地券狀ヲ下ケ渡スヘシ
- 第四條 樹木部分ノ方法ハ運輸ノ便否地味ノ善惡人民希望ノ原簿ニヨリ二官八民（假令ハ百本ノ立木ナレハ二十本ヲ官收シ八十本ハ人民ニ付與スルヲ云フ）以上實際適宜ニ之ヲ區分スヘシ 同年甲第二十號布達ヲ以テヨリ五官五民迄
- 第五條 第四條ニ掲クル所ノ部分方法ハ成木ノ上立木ノ儘分配スルアリ又ハ伐木ノ節官民ニ於テ各評價人ヲ出シ總計金額ヲ豫算シ金員ヲ以テ配賦スルアリ共ニ官民協議ノ上適宜ニ之ヲ定ムルモノトス
- 但不得已事故アツテ官ニ於テ該地入用ノ節ハ相當代價ヲ以テ其民有ニ當レル樹木ヲ買上クヘシ
- 第六條 地方廳ニ於テハ臺帳ヲ製シ毎年人民ハ貸渡シタル地所反別（植付補付）木種員數

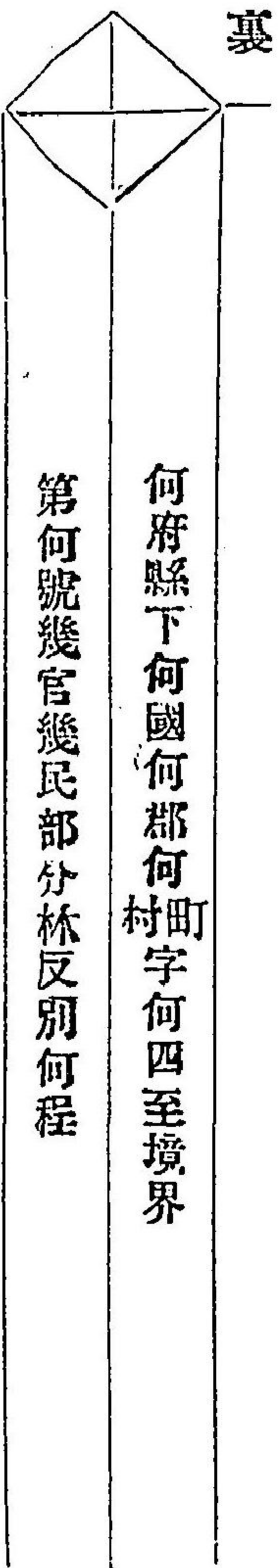
及ヒ拜借人ノ住所姓名共詳細取調前年十二月迄ノ分翌年一月限リ内務省地理局ニ届出ヘシ

第七條 官ハ地所ノ貸渡料ヲ取立サルヘシ借人ハ植挿養護ヲ擔任スルモノトス

第八條 植挿ノ後樹木成育スルニ隨ヒ手入伐木セント欲スルキハ前以テ地方廳ニ願出ツヘシ地方廳ニ於テ實地點檢不都合ナキモノハ是ヲ許可シ其除ノ樹木ハ悉ク仕立主ニ下付スヘシ而シテ臺帳ニ就キ其伐セシ木數ヲ削除シ其翌年一月限リ遺漏ナク内務省地理局ニ届出ツヘシ

但十五年以後ニ至リ拔材スル木品ハ最初ノ約束ニ基キ各之ヲ配賦スヘシ

第九條 地所拜借願濟ノ上ハ四至境界ヲ正シ四隅ヘ左ノ通仕立主ヲシテ標木ヲ建設セシムヘシ



第十條 仕立主ノ都合ニヨリ其部分木仕付ノ權ヲ他ニ讓渡サント欲スルキハ其事實ヲ詳細シ地方官ニ願出ツヘシ地方廳ニ於テハ實際不都合ナキモノト認ムルトキハ證券ニ裏

書シテ下渡シ退テ内務省地理局へ届出ツヘシ

但本文ノ樹木ヲ質入書入セント欲スルトキハ明治七年第六號公布ノ手續ニ準據シ所轄戸長ノ檢認ヲ受クヘシ

第十一條 借地反別ハ豫メ其制限ヲ定メスト雖モ其植栽見込ノ員數ニ對照シ相當ノ總積ヲ貸付スルモノトス

但植立員數ノ都合ニヨリ廣大ノ地積ヲ要シ一時植挿ヲ爲シ得サル場合ニ於テハ三ヶ年以内ノ期限ヲ以テ追次其植繼ヲ許スヘシ然レモ三ヶ年ヲ過キ猶其植挿未了ノ地ハ寬ニ返附セシムヘシ

第十二條 一時植立并追次植繼ニ拘ラス實地植立濟ノ上ハ其旨地方廳ニ届出之レカ檢査ヲ受クヘシ

(願書式及證券雛形略之)

○部分木仕付心得 明治十一年六月

本年三月當省甲第四號ヲ以テ部分木仕付條例及布達置候處右ニ照準出願ノ者ハ別紙ノ條件

相心得不都合ノ儀無之様可致此旨布達候事

一部分木仕付條例ニ準シ官地拜借許可濟ノ後條例第十條ノ手續ヲナサス竊ニ其地ヲ他人ニ貸シ又ハ質入書入ヲ爲スモノ

一同斷許可濟ノ日ヨリ滿一ヶ年ヲ過キテ植挿セサルモノ

但條例第十一條但書ノ場合ハ本文ト抵觸スルコトナシ

一同斷一ヶ年以内ト雖モ主願ノ樹木ヲ植挿セズ他事ニ使用セルモノ
一 植樹ノ爲メ甲ノ地ヲ拜借シ置乙ノ地ニ苗床ヲ設ケ實植苗植等ヲナシ他日生育ヲ待テ甲地ニ移植スヘキコトノ著明ナルトキト雖モ最初許可ノ日ヨリ滿三ヶ年ニ至リ猶甲地ニ移植セサルモノ

右條々ノ所爲アルモノハ直ニ其地并地上ニ附着セルモノヲ取上ケ最初貸渡許可ノ日ヨリ而後ノ借地料ニ當ル金額ヲ徵收シ且其者等(第一條ノ所爲ニ依リ其地ヲ借り又ハ書入質入ニ取リタル者モ亦同シ)へ再此條例ニ由リ官地ヲ貸渡スヲ許サス

●道路敷地貸渡住居ヲ許サス 明治八年十二月 府縣へ達

從來ノ因襲ヲ以テ是迄道路ノ敷地ヲ貸渡住居差許置候分モ有之候處自今往來障害ノ有無ニ拘ハラス新々ニ貸渡候儀難相成候條爲心得此旨相達候事

●道路河川變換ニ際シ舊道舊川敷無代價下渡

一般便宜ノ爲メ道路河川ヲ變換スルニ際シ民費ヲ以テ民有地ヲ新道新川敷ト爲シ舊道舊河敷不用ニ屬シ土功着手者其地ヲ請求スル時ハ右舊道舊河敷ハ新道新川敷ノ代地トシテ悉皆無代價ニテ可下渡此旨相達候事

但官林内ニアル舊道舊川敷ハ此限ニアラス(十六年乙第四十五號ヲ以テ但書追加)

●官用地貸渡方 明治十六年三月 府縣へ達

内務省乙第十二號

官用地ハ貸渡サ、ル制規ノ處木材運漕ニ際シ不測ノ天災ヲ被ラントスル掛念有之場合ニ當リ不得己人民ヨリ官材貯場ノ間地ヲ借用セント出願スルトキハ其現場ノ都合ヨリ一時應變ノ執計ヲ以テ相當ノ期限及料金ヲ以テ所用應ヨリ貸渡シ可相成儀モ有之候條此旨可相心得但其料金ハ成規ノ通大藏省へ上納スヘシ
右相違候事

●官有ノ川敷溝敷寄洲川沼地拂下貸下ヲ許サス

明治十八年十二月 府縣へ達
内務省甲第三十六號

官有ノ川敷溝敷寄洲川沼地等ハ自今拂下又ハ貸下ヲ爲スコトヲ許サス從前既ニ貸下ケタルモノハ當期ヲ限り返地セシム可シ但物揚場等公益上ニ使用スルモノ及熟田畑ハ貸下ケルコトヲ得ルト雖臣治水ニ防害アル構造ヲ爲シ又ハ樹竹ヲ栽培セシム可ラサル儀ト心得可シ此旨相違候事

●官有地貸下拂下方 明治十八年六月 府縣
内務省甲第二十一號

官有地拂下并ニ貸下ノ義左之通相定メ明治九年(三月)内務省乙第三十四號達ハ廢止ス此旨相違候事
一凡ソ官有地ヲ年賦月賦又ハ延納ニテ拂下タルモノ其代金未完納中ハ抵當トシテ其地券ヲ官廳へ差出サシムヘシ若シ之ヲ差出サ、ルモノハ地所拂下ノ効ヲ失フモノトス
一凡ソ官有地ノ拂下代金ヲ期限ノ通上納セサルモノハ其拂下ヲ取消スヘシ此場合ニ於テ

既納ノ代金アルモノハ之ヲ下戻シ地所ハ現形ノ儘返上セシメ之カ爲メ金利賠償等ヲ下付スルコトナカルヘシ

一凡ソ官有地ノ借地料ヲ期限ノ通上納セサルモノハ其貸下ヲ取消スヘシ此場合ニ於テハ假令如何ナル勞費アルモ其償下付スルコトナカルヘシ

一凡ソ官有地借用ノ許可ヲ得タル者ハ其當初出願ノ目的ニ隨テ之ヲ使用スルコトヲ得ルト雖モ他人へ書入又質入ヲ爲スコトヲ得サル者トス但轉貸ハ官ノ許可ヲ得ルニ於テハ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ

●免許料手數料鑛山借區稅取扱順序 明治十九年五月 農商務省訓令第五號

北海道廳 府縣

當省所管免許料手數料鑛山借區稅取扱順序左ノ通相定メ明治十九年度ヨリ施行ス但從前諸達ノ内此順序ニ抵觸スルモノハ廢止ス

免許料手數料鑛山借區稅取扱順序

第一條 免許料手數料鑛山借區稅ハ北海道廳府縣廳ニ於テ之ヲ徵收スルモノトス但取扱順序ハ明治十九年(三月)大藏省令第四號歲入取扱順序ニ據ル

第二條 各年度ノ豫算ハ左ノ書式ニ據リ明細書ヲ調製シ前年度五月五日迄ニ其地ヲ發シ當省へ差出スヘシ

第三條 前條豫算ノ認可ヲ得タルトキハ歲入取扱順序第十七號書式ニ據リ月額豫算表ヲ

調製シ七日以内ニ之ヲ當省ヘ差出スヘシ

第四條 收入金年度編入方ハ明治十七年(十二月)大藏省第九十號達ニ據ル

第五條 報告書ハ左ノ期日迄ニ其地ヲ發シ當省ヘ差出スヘシ

歲入報告書

翌月五日

會計年度内徴收未済報告書 翌年度四月五日

出納閉鎖前不納報告書 翌年度十二月十日

○免許料手数料借區稅徵收方 明治十九年十月 農商務省訓令第十六號

第二部歲入ノ内當省所管免許料手数料礦山借區稅徵收方ハ歲入取扱順序第十六條以下ニ

準擬シ其應ヨリ納額告知書ヲ發シ納人ヲシテ直ニ現金ヲ金庫ニ納付セシムヘシ

官有地諸收入金徵收規程 明治十九年八月 農商務省訓令第十三號

明治十八年九月農商務省第三十九號達官有地諸收入金徵收規程相應シ更ニ左ノ通相定メ

明治十九年度ヨリ施行ス

但本規程ハ從前期限中ノモノニモ總テ適用スルモノトス

官有地諸收入金徵收規程

第一條 年ヲ以テ定メタル借地料土石堀採料諸產物拂下代ノ如キハ總テ其年ノ七月ニ於テ徴收ス但七月一日以後新ニ許可シタルモノハ初年分ニ限リ翌年一月ニ於テ徴收シ六月三十日以前滿期トナルモノハ期限ノ月ニ於テ徴收ス借地及土石堀採ノ一月ニ於テ許

可シタルモノ及十二月ニ於テ滿期トナルモノハ全年分ヲ徴收シ二月以後許可シタルモノ及十一月以前滿期トナルモノハ月割ヲ以テ徴收ス諸產物拂下代ハ許可ノ月ニ拘ハラズ總テ全年分ヲ徴收ス

第二條 月ヲ以テ定メタル借地料ノ如キハ總テ許可シタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ徴收ス十五日前新ニ許可シタルモノハ全月分ヲ徴收シ十六日以後ニ許可シタルモノハ半月分ヲ徴收ス

第三條 日ヲ以テ定メタル借地料ノ如キハ總テ許可シタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ徴收ス

第四條 臨時拂下代ハ總テ許可シタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ徴收ス

第五條 年ヲ以テ定メタル借地又ハ土石堀採ヲ官ノ都合ニヨリ取消シタルトキハ其月ヨリ料金ヲ徴收セス借地又ハ堀採ヲ人民ノ都合ニヨリ取消シタルトキハ其月ノ料金ハ之ヲ徴收ス

第六條 月ヲ以テ定メタル借地ヲ官ノ都合ニヨリ取消シタルトキハ其達ノ日十五日前ナレハ其月ノ料金ヲ徴收セス十六日以後ナレハ其月ノ料金半額ヲ徴收ス借地ヲ人民ノ都合ニヨリ取消シタルトキハ其指令ノ日十五日以前ナレハ其月ノ料金半額ヲ徴收シ十六日以後ナレハ其月ノ料金全額ヲ徴收ス

第七條 日ヲ以テ定メタル借地ノ取消ハ官民孰レノ都合ニヨルモ其達又ハ指令ノ日ヨリ其料金ヲ徴收セス

第八條 年ヲ以テ定メタル諸產物ノ拂下ヲ取消シタルトキハ其達又ハ指令ノ日物品ノ探取前ナレハ其年ノ代金ヲ徵收セズ探取後ナレハ探取シタル物品ニ應シ其代金ヲ徵收ス
第九條 第五條以下ノ場合ニ於テ既納金アルトキハ其過金ヲ返付シ既納金ナキトキハ達又ハ指令ノ日ヨリ三十日以内ニ之ヲ徵收ス

第十條 外國人ヨリ徵收スル者ハ總テ其定約ニ據ル

第十一條 此規程ヨリ徵收シタル料金又ハ代金ハ總テ其徵收シタル時ノ年度ニ編入ス

●諸貸付金徵收取扱順序 明治十九年五月 農商務省訓令第四號 北海道廳 府縣

當省諸貸付金返納取扱方ノ儀十九年以降左ノ通心得ヘシ

諸貸付金徵收取扱順序

第一條 當省貸下金ノ徵收ハ明治十九年四月大藏省訓令第五號諸貸付金整理順序ニ準據スルモノトス

第二條 諸貸付金ヲ徵收スルニ付テハ豫テ定ムル處ノ返納期限ニ先立マテ各廳ニ於テ隨時納額告知書ヲ發スヘシ

第三條 整理順序第四條第五條第六條ノ處分ニ係ルモノハ其時々當省ヘ伺出ヘシ

第四條 毎月納濟ノ金額ハ整理順序第十二條第三項第四項ニ掲クル報告書及仕譯書ヲ調製シ翌月十日迄ニ當省ヘ送附スヘシ其第一項第二項第五項ニ係ル調書ハ差出スニ及ハス

●土木

●國道線幅員 明治十八年一月 太政官第一號布達

今般國道ノ等級ヲ廢シ其幅員ハ道敷四間以上並木敷濕拔敷ヲ合セテ三間以上總テ七間ヨリ狭少ナラサルモノトス

但國道線路ハ內務卿ヨリ告示スヘシ

●鎮守府ニ達スル道路及鎮守府ト鎮臺ト拘聯スル道路國道

ニ編入

明治二十年七月 勅令第二十八號

東京ヨリ鎮守府ニ達スル道路及鎮守府ト鎮臺ト拘聯スル道路ハ自今國道ニ編入ス

○國道表 明治十八年二月 內務省告示第六號

本年一月 太政官第一号ヲ以テ國道之儀布達相成候ニ付該線路別表之通相定候條此旨告示候事

別表

國道表

凡例

- 一線路中前號路線ト相通用スヘキ者(例ヘハ第二號 東京ヨリ大坂港 中其神奈川驛迄ハ第一號 東京ヨリ橫濱港ト同線ナル如キ類)ハ之ヲ略シ其番號ヲ記ス
- 一號ニ達スル路線ト同線ナル如キ類(例ヘハ第二號 東京ヨリ大坂港 中一路線甲ヨリ乙ニ達スル中間ニ位スル府縣廳及鎮臺等)ハ第二號ニ達スル路線

土木

靜岡縣ハ靜岡縣廳、大坂ハ大坂府廳及大坂鎮臺、所在地ノ如キ者ハ其包括シタル路線ニ讓リ別ニ之ヲ標出セス

各府縣各鎮臺ヲ拘聯スルモノモ之ニ準ス
 (國道表略之)

○國縣道築造標準 明治十九年八月 內務省訓令第十三號 北海道廳 府縣沖繩縣
 國縣道ノ新設又ハ變換ニ係ルモノハ自今左ニ掲ル所ノ標準ニ從ヒ其築造保存方法等取調差出ス可シ

但在來ノ道路ト雖モ可成此標準ニ據リ漸次改良ヲ加フル儀ト心得ヘシ

第一章 築造計畫

- 第一條 國道縣道ヲ新築若クハ改築スルトキハ左ノ圖面及書類ヲ調製スヘシ
 - 一 實測平面圖 縮尺六千分一
 - 二 實測縱断面圖 縮尺長六千分一
 - 三 實測橫断面圖 同高二百分一
 - 四 橋梁隧道暗渠等ノ圖 縮尺適宜
 - 五 堀割及盛土土坪計算書
 - 六 一位代價表
 - 七 工費計算書
 - 八 計畫說明書

- 第二條 實測平面圖ニハ國界、郡界、村界、地名、字、宿驛、市街、村落、人家、山脈、丘陵、水流、沼澤、森林、原野、荒蕪地、耕地、橋梁、堤塘等其外地形ヲ顯ハスニ必要ナルモノハ之ヲ詳記スヘシ又高六尺毎ニ計畫路線近傍地ノ高低線ヲ記入シ計畫路線ハ赤線ヲ以テ記シ其丁杭并直線ノ長及方向、曲線ノ長及半徑等ヲ詳記スヘシ
- 第三條 實測縱断面圖ニハ計畫路線中心地面ノ高低、計畫路線ノ高低、計畫路線ノ丁杭及水平距離、各高低線間ノ水平距離、計畫路線ノ勾配、堀割及盛土部分ノ高低及長、水平路線及阪路ノ水平距離、隧道及橋梁ノ長及高、其他國郡、村界、市街、村落、地名、字、水流、溝渠、等都テ參照ニ必要ナルモノヲ詳記スヘシ
- 第四條 實測橫断面圖ハ計畫路線長三丁毎ニ之ヲ製シ其他高低甚シキ箇所ハ其橫断面圖ヲ製シ土坪計算ノ用ニ供スヘシ
- 第五條 橋梁ハ平面圖(橋梁前後河川ノ景況ヲ記スヘシ)側面圖其他構造ヲ顯ハスニ必要ナル圖面及橋梁ヲ架設スヘキ箇所ノ河川橫断面圖ヲ調製スヘシ
- 第六條 隧道暗渠溝渠等ハ其構造ヲ顯ハスニ必要ナル圖面ヲ調製スヘシ
- 第七條 堀割及盛土土坪計算書ニハ橫断面ノ番號、幅、高、平積、距離、立積、ヲ記シ之ヲ表ニ製シ其計算法ヲ明瞭ニスヘシ
- 第八條 一位代價表ハ堀割、盛土、溝渠、石垣等其他各種共各其一位トナスヘキモノ(假令ハ堀割盛土ハ立積一坪ヲ一位トナシ野面石垣ハ平積一坪ヲ一位トナスノ類)ヲ選ミ其一位ニ付テ必要ナル築品人夫等ノ員數及代價賃金ヲ算シ一位ノ代價ヲ記スヘシ

土木

第九條 工費計算書ニハ各種工事共各部分毎ニ其一位ヲ以テ算出シタル總數ニ一位ノ代價ヲ乘シ其計ヲ記スヘシ但橋梁、隧道、暗渠、其他諸雜費ハ別ニ部分ケテ爲シテ其工費ノ計算内譯ヲ記スヘシ

第十條 計畫說明書ニハ新道開設若シハ路線變更ノ必要アル理由、路線撰定ニ付テ地形、氣候、土質等ヲ酌量シタル理由并築造費及保存費ノ多寡運搬ノ便否ヲ比較シタル說明其他橋梁隧道等ニ付テ其構造ノ說明及強力ノ計算并其構造法選定ノ理由等ヲ詳記シ及橋梁、溝渠、暗渠等ノ計算ハ水流最高水ノ面積及流量ヲ記スヘシ

第二章 路面ノ築造

第十一條 道路ノ表面ハ割石ヲ以テ築造スヘシ其馬車ノ通行頻繁ナラス搭載荷物重量ナラサル者ハ砂利ヲ以テ築造スルヲ得但其築造法ハ概テ割石道路ト同一ナルヘシ

第十二條 割石ノ厚ハ道路ノ中央ニ於テ五寸以上トナシ夫ヨリ兩端ニ向ヒ漸次減却三寸以上ト爲スヘシ

第十三條 横斷路面ノ形狀ハ橢圓形トス其勾配ハ平均三十分一トスヘシ

第十四條 下水ノ深サト其底敷ノ幅トハ各一尺五寸チ下ルヘカラス

第十五條 車道中央ノ高サハ下水ノ最高水面ヨリ一尺以上タルヘシ

第十六條 割石敷設ノ方法ハ先ツローラル或ハ峭木ニテ地盤ヲ堅ムルノ後割石一層ヲ敷キ其上ニ割石ト能ク密着スヘキ石屑又ハ砂利ヲ散布シ之ヲ堅メ然ル後再ヒ割石ヲ敷キ前同様ノ石屑若クハ砂利ヲ其上ニ散布シテ更ラニローラル或ハ峭木ニテ堅メ法式ノ如ク

シ仕上ルモノトス

第十七條 割石ハ能ク塞ニ堪ヘ且硬キモノニシテ混合物ナク多角ナルモノヲ撰用スヘシ

第十八條 割石ノ寸法ハ凡ソ一寸五分ヨリ大ナラサルヘク八分ヨリ小ナラサルヘシ

第十九條 散布スヘキ石屑若クハ砂利ノ割合ハ割石立積ノ三十分一ヨリ多カラザルヘシ

第二十條 割石敷設ノ後ハ密着固結ニ至ル迄間斷ナク修治ヲ加フヘシ

第三章 勾配及屈曲

第二十一條 道路ノ勾配ハ成ル可ク左ノ割合ヲ超ヘサラシムヘシ

第一項 國道 勾配三十分一 即長延一間ニ付二寸

第二項 縣道 勾配二十五分一 即長延壹間ニ付二寸四分

第三十二條 曲線ノ半徑ハ已ムヲ得ヌシテ減縮スル場合ト雖モ路線中心ノ半徑六間チ下ル可カラス

第二十三條 曲線ノ半徑拾間以下ノ者ト阪路ノ勾配四十分一以上ノ者トチ同所ニ兩存セシムヘカラス

第二十四條 曲線ノ半徑二十間以下ノ者ヲ背向直接セシメス必ス兩曲線ノ間ニ一ノ直線ヲ置クヘシ

第四章 堀割及盛土

第二十五條 堀割若クハ盛土ノ傾斜面ハ植草細工若クハ野面石垣等ヲ設ケテ之カ破損像

防ヲ爲スヘシ

第二十六條 堀割傾斜面ノ勾配ハ其地質ニ從テ適宜ニ之ヲ定ムヘシ

第二十七條 盛土傾斜面ノ勾配ハ一割二分ヨリ下ルヘカラス

第二十八條 堀割及盛土ノ傾斜面ニ勾配ノ減少ヲ要スルカ若クハ其地質善良ナラサルトキハ基礎石垣ヲ築造スヘシ

第五章 橋梁暗渠及隧道

第二十九條 橋梁ノ構造ハ橋面平積一坪ニ付四百貫目ノ重量ヲ橋上滿面ニ積載シ得ルモノトナス可シ

第三十條 長五間以下ノ橋梁ハ其幅ヲ(欄干ノ中心ヨリ中心ニ至ル)道路ノ幅員ト同一ニスヘシ長五間以上ノ橋梁ハ其幅ヲ(左右欄干内法)三間以上トナスヘシ

第三十一條 道路ヲ横斷スル小流ニシテ架橋ヲ要セザル者ハ必ス暗渠ヲ設テ之ヲ通スヘシ

第三十二條 隧道ノ幅員ハ濕拔ヲ除キ幅三間以上タルヘシ

第三十三條 隧道内ノ路線ハ必ス適宜ノ勾配ヲ與ヘ下水ノ流通ヲ充分ナラシムヘシ

第三十四條 隧道内ノ高サハ路面ヨリ十五尺以上タルヘシ

第三十五條 隧道暗黒ニシテ危險ナル者ハ必ス返照燈ヲ點スヘシ

第六章 並木

第三十六條 並木ハ地方ノ形狀ニ依リ主トシテ雪ヲ防キ日光ヲ覆ヒ若クハ風ヲ防クノ目

的ヲ以テ植付クヘシ其種類ハ成長速ニシテ且行人若クハ道路ニ障害ナキ者ヲ撰用スヘシ

第三十七條 並木線ハ必ス路線ニ並行ナラシムヘシ

第三十八條 並木ハ下水ノ上縁ヨリ二尺以上ノ距離ニ於テ植付ヘシ

第七章 保存及修繕

第三十九條 道路ハ平生注意シテ破損ヲ豫防シ若シ小破アルトキハ速ニ修繕ヲ加ヘ大破ニ至ラサラシムヘシ

第四十條 割石道路ノ破損ハ路面ノ泥濘及ヒ粉細ノ土砂ヨリ生スルカ故ニ道路ヲ保存スルハ主トシテ之ヲ掃除スヘシ

第四十一條 路面ニ少シク凹所ヲ生シタルトキハ直チニ其凹所アル部分ヲ少シク掘起シ然ル後割石ト石屑若クハ軟質ナル砂利トヲ適宜ニ散布シローラル或ハ蝸木ヲ以テ之ヲ堅メ且其修繕ノ部分ト修繕ヲ加ヘサル部分トノ結合シ易キヲ務ムヘシ

第四十二條 前條ノ修繕ハ一方ヨリ順次ニ着手セヌシテ必ス凹所ノ最モ甚キ部分ヨリ先ニスヘシ

第四十三條 路面ノ一方ニ修繕ヲ加フルトキハ馬車ハ好テ他ノ一方ヲ通行スヘキカ故ニ之レカ爲メ其一方ノ破損ヲ來スノ患アリ又一時ニ路面ノ全幅ヲ修繕スルトキハ通行ノ馬車多クハ同轍ニ由ルヘキカ故ニ其修繕シタル部分ノ未ダ固結セサル前ニ於テ破損ヲ生スルノ患アリ故ニ一時ニ廣キ面積ノ修繕ニ着手スヘカラス且馬車ノ通行偏倚セサル

土木

様修繕スヘキ箇所ヲ區分スヘシ

第四十四條 修繕ハ路面ノ濕氣ヲ含ミタル時ニ於テ施工シ若シ降雨ナキトキハ適宜水ヲ注テ施工スヘシ

第四十五條 保存及修繕ヲシテ完全ナラシムルニハ第一管守人ヲ置キ平素技術者ノ指揮ヲ受ケ之レカ保存ニ從事セシム可シ第二保存及修繕ニ使用スヘキ器具築品人夫等ヲ常ニ各所ニ配置シ使用ニ便ナラシムヘシ

第四十六條 砂利道路修繕ノ方法ハ概テ割石道路ト異ナルコトナシ但其保存ニハ一層注意ヲ加フヘシ

○官廳ノ工事ヲ受負人夫死傷者官役工事死傷者當規則ニ準據相成ラス

明治二十年七月

山形縣

內務省訓令第五三九號

官廳ノ工事ヲ受負者ニ命シ經營セシムルニ際シ人夫中死傷等之節明治八年第五十四號公達官役工事死傷手當規則ニ準據シ處分爲致候向モ有之候處自今適用相成ラス右訓令ス

●兵事

●徵兵令 明治十六年十二月 第四十六號布告

第一章 總則

第一條 全國ノ男子年齡滿十七歲ヨリ滿四十歲迄ノ者ハ總テ兵役ニ服スヘキモノトス

第二條 兵役ハ陸軍海軍共ニ常備兵役後備兵役及ヒ國民兵役トス

第三條 常備兵役ハ別チテ現役及ヒ豫備役トス其現役ハ三箇年ニシテ年齡滿二十歲ニ至リタル者之ニ服シ其豫備役ハ四箇年ニシテ現役ヲ終リタル者之ニ服ス

第四條 後備兵役ハ五箇年ニシテ常備兵役ヲ終リタル者之ニ服ス

第五條 國民兵役ハ年齡滿十七歲ヨリ滿四十歲迄ノ者ニシテ常備兵役及ヒ後備兵役中ニ在ラザル者之ニ服ス

第六條 各兵役ノ期限已ニ滿ルト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習或ハ觀兵ノ舉アルトキ若クハ航海中或ハ外國駐劄中ハ其期ヲ延スコトアル可シ

第七條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ兵役ニ服スルコトヲ許サス

第二章 服役

第八條 陸軍現役兵ハ毎年所要ノ人員ニ應シ壯丁ノ身材藝能職業ニ從ヒ步兵騎兵砲兵工兵輜重兵及ヒ雜卒職工ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ

海軍現役兵ハ海軍所要ノ人員ニ應シ沿海地方及ヒ島嶼ノ人民ヲ調査シ海軍ニ適スル職

業ニ從ヒ水兵火夫職工等ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ但海軍志願兵徵募規則ニ依リ就役スル者ハ本令ノ限ニ在ラス

警備隊ヲ置キタル島嶼ノ壯丁悉皆之ヲ警備隊ニ充テ該地内ニ於テ服從セシム但在營時問ハ一箇年以内トス(十九年十一月勅令第七十三號ヲ以テ追加)

第九條 陸軍雜卒ノ現役期限ハ其職務ニ因リ之ヲ短縮スルコトアル可シ但常備兵役ノ全期ハ之ヲ減スルコトナシ

第十條 年齢二十歳ニ滿ヌスト雖モ滿十七歳以上ノ者ハ現役ヲ志スルコトヲ得

第十一條 年齢滿十七歳以上滿二十七歳以下ニシテ官立府縣立學校願小學校及ヒ文部大臣ニ於テ認メタル之ト同等ノ學校ノ卒業證書ヲ所持シ服役中食料被服等ノ費用ヲ自辨スル者ハ願ニ因リ一箇年間陸軍現役ニ服セシム(全上小學校ヲ除ク)

其技藝ニ熟達スル者ハ若干月ニシテ歸休ヲ命スルコトアル可シ但常備兵役ノ全期ハ之ヲ減スルコトナシ

第十二條 現役中殊ニ技藝ニ熟シ行狀方正ナル者及ヒ官立公立學校小學校及ヒ文部大臣ニ於テ認メタル之ト同等ノ學校ノ步兵操練科卒業證書ヲ所持スル者ハ其期末ヲ終ラスト雖モ歸休ヲ命スルコトアル可シ(全上)

第十三條 豫備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集シ常備隊ヲ充實シ又補充隊ニ編製ス

平常ニ在テハ技藝復習ノ爲メ毎年一度六十日以内之ヲ召集シ又兵員實查ノ爲メ毎年一度點呼ヲ爲ス但海軍豫備兵ハ技藝復習ノ爲メ召集スルコトナシ

第十四條 後備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ豫備兵ニ次テ之ヲ召集シ常備兵ノ後援ト爲ス平常ニ在テ其技藝復習ノ爲メ召集シ及ヒ兵員實查ノ爲メニ點呼ヲ爲スコト豫備兵ニ同シ

第十五條 國民兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ後備兵ヲ召集シ仍ホ兵員ヲ要スルトキニ限リ之ヲ召集シ隊伍ニ編制シテ軍役に充ツ

第三章

免除及ヒ猶豫

第十六條 兵役ヲ免除スルハ癱疾又ハ不具等ニシテ徵兵檢査規則ニ照シ兵役ニ堪ヘサル者ニ限ル

第十七條 左ニ掲グル者ハ徵集ヲ猶豫ス但シ其年補充員不足スル時又ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキハ之ヲ徵集ス

第一項 兄弟同時ニ徵集ニ應メル者ノ内一人及ヒ現役兵ノ兄或ハ弟一人

第二項 現役中死没又ハ公務ノ爲メ負傷シ若クハ疾病ニ罹リ免役シタル者ノ兄或ハ弟一人

第三項 戸主年齢滿六十歳以上ノ者ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第四項 戸主癱疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサル者ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第五項 戸主

第十八條 左ニ掲グル者ハ其事故ノ存スル間徵集ヲ猶豫ス

兵事

- 第一項 教正ノ職ニ在ル者
- 第二項 官立府縣立學校小學校及ヒ文部大臣ニ於テ認マル之ト同等ノ學校ノ卒業證書ヲ所持スル者ニシテ官立公立學校教員タル者(全上)
- 第三項 官立大學校及ヒ之ニ準スル官立學校本科生徒
- 第四項 陸海軍生徒海軍工夫
- 第五項 身幹未ダ定尺ニ滿タサル者
- 第六項 疾病中或ハ病後ノ故ヲ以テ未ダ勞役ニ堪ヘサル者
- 第七項 學術修業ノ爲メ外國ニ寄留スル者
- 第八項 禁錮以上ニ該ル可キ刑事被告人ト爲リ裁判未決ノ者
- 第九項 公權停止中ノ者
- 第十九條 官立府縣立學校小學校及ヒ文部大臣ニ於テ認マル之ト同等ノ學校ニ於テ修業一箇年以上ノ課程ヲ卒リタル生徒ハ六箇年以内徵集ヲ猶豫ス(全上)
- 第二十條 左ニ掲グル者ハ豫備兵ニ在ルト後備兵ニ在ルトヲ問ハス復習點呼ノ爲メ召集スルコトナシ但戰時若クハ事變ニ際シテハ太政官ノ決裁ヲ經テ召集スルコトアル可シ
- 第一項 官吏判任以上及ヒ戸長
- 第二項 教導職試補ヲ除ク
- 第三項 官立公立學校教員
- 第四項 府縣會議員

- 第五項 官立府縣立醫學校ノ卒業證書ヲ所持シテ醫術開業ノ者
- 第二十一條 官省院廳府縣ニ於テ餘人ヲ以テ代フ可カラサル技術ノ職ヲ奉スル者ハ太政官ノ決裁ニ依テ徵集ヲ猶豫スルコトアル可シ
- 第二十二條 左ニ掲グル者ハ第十七條ニ照シテ徵集ヲ猶豫スルノ限ニ在ラス
- 第一項 附籍戸主及ヒ附籍戸主ノ嗣子或ハ承祖ノ孫
- 第二項 廢疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ嗣子承祖ノ孫若クハ相續人ヲ罷メ更ニ定メタル嗣子承祖ノ孫
- 第三項 年齡六十歲未滿ノ戸主廢疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ戸主ヲ罷メ年齡六十歲以上ノ者ニシテ其跡ヲ繼キタル戸主ノ嗣子或ハ承祖ノ孫
- 第四項 分家シ或ハ絶家若クハ廢家ヲ再興シタル戸主及ヒ其戸主ノ嗣子或ハ承祖ノ孫
- 第五項 嗣子承祖ノ孫失踪シテ五ヶ年ヲ經サル者ノ跡ニ定メタル嗣子承祖ノ孫
- 第六項 第二項第三項第四項ニ當ル嗣子或ハ承祖ノ孫ニシテ戸主廢疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ戸主ヲ罷メ其跡ヲ繼キタル戸主
- 第七項 年齡六十歲未滿ノ者廢疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ戸主ヲ罷メ其跡ヲ繼キタル戸主

第八項 嗣子承祖ノ孫又ハ相續人癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ戸主ノ死亡跡若クハ戸主ヲ罷メタル跡ヲ繼カス他ノ者ニシテ其跡ヲ繼キタル戸主

第九項 戸主失踪シテ五箇年ヲ經サル者ノ跡ヲ繼キタル戸主

第二十三條 第十八條第一項第二項第三項第四項陸海軍生徒除ク第十九條第二十一條ニ當ル者ト雖モ第三十五條ニ示シタル徵兵各自屆出期限即チ四月十六日以後ニ係ル者ハ徵集ヲ猶豫スルノ限ニ在ラス(全上改正)

第四章 徵兵區及ヒ抽籤

第二十四條 徵兵區ハ軍管師管及ヒ府縣ノ區域ニ從フ其軍管ニ從フモノヲ軍管徵兵區ト爲シ師管ニ從フモノヲ師管徵兵區ト爲シ府縣ニ從フモノヲ府縣徵兵區ト爲ス但シ府縣ノ管地兩師管ニ分屬スルモノハ師管毎ニ一區ヲ設ク又警備隊ヲ置キタル嶋嶼ハ各別ニ一區ト爲ス(同上ヲ以テ設ク) (下二十字ヲ加フ)

軍管及ヒ師管ノ徵兵區域ハ別表ニ掲ク

第二十五條 各鎮臺ニ屬スル歩兵ハ其師管徵兵區限リ其他ノ諸兵ハ其軍管徵兵區限リ之ヲ徵集ス但現役徵員及ヒ其補充員不足スルトキ歩兵ハ他ノ師管其他ノ諸兵ハ他ノ軍管徵兵區ヨリ之ヲ補フ

海軍及ヒ近衛ノ諸兵ハ各軍管徵兵區ニ配當シテ全國ヨリ之ヲ徵集ス
第二十六條 抽籤ハ各府縣徵兵區限リ之ヲ行フモノトス

府縣徵兵區ニ於テハ其區壯丁ノ身體檢査終リタル後兵役ニ適ス可キ人員ノ身材職業ニ從ヒ兵種ヲ區別シ番號ヲ定メ抽籤セシム

第二十七條 籤ハ一郡區毎ニ籤丁ノ人撰ヲ以テ一名乃至三名ノ總代人ヲ出シテ之ヲ抽カシム

第二十八條 抽籤ノ法ハ籤丁ノ數ニ應シ籤札ニ兵種番號ヲ記シ籤箱ニ納レ籤簿掛ノ面前ニ置キ籤丁名簿ノ順序ニ從ヒ其氏名ヲ呼ビ總代人ニ之ヲ抽カシメ籤簿掛ハ抽籤ノ正否ヲ監シ抽キ舉グル所ノ番號ヲ高聲ニ呼ハシメ其籤札ヲ受取り籤簿ニ氏名番號ヲ記シ籤札ハ總代人ニ交付ス

第二十九條 籤ハ其番號現役徵員ノ數ニ充ル迄ヲ以テ現役籤トシ其餘ヲ以テ補充籤トス

第五章 補充員及ヒ豫備徵員

第三十條 補充員ハ補充籤ヲ抽キタル者ヲ以テ一箇年間之ニ充ツ其期限内現役兵欠員スルトキ又ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキ其番號ノ順序ニ從ヒ之ヲ徵集ス補充員ノ數ハ概テ現役徵員五分ノ二ヨリ少カラサルモノトス

第三十一條 補充員ニシテ其期限内徵集ノ命ナキ者及ヒ第十八條第三項ノ生徒ニシテ二箇年以上ノ課程ヲ卒リタル者ハ年齡滿二十七歲迄之ヲ第一豫備徵員トス

第三十二條 第十七條ニ當ル者ニシテ其年徵集ノ命ナキ者第十八條第二十一條ニ當ル者ニシテ七箇年間其事故ノ存スル者及ヒ第一豫備徵員ヲ終リタル者年齡滿三十二歲迄ハ

兵事

之ヲ第二豫備徵員トス但第十七條ニ當ル者第二豫備徵員ト爲リタル後六箇年間ニ該條ニ掲クル資格ヲ失ヒタルトキハ現役ニ徵集ス

第三十三條 豫備徵員ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキ之ヲ徵集ス但第二豫備徵員ヲ徵集スルハ後備兵ヲ召集スルトキニ限ル

第六章 雜則

第三十四條 毎年一月ヨリ十二月迄ニ年滿十七歳ト爲ル者ハ其年ノ四月一日ヨリ同月十五日迄ニ戸主本人戸主ナレハ自身以下ヨリ本人ノ氏名族籍住所誕生ノ年月日及ヒ職業ヲ記載シ本籍ノ戸長ニ届出可シ(全上改正)

第三十五條 毎年一月ヨリ十二月迄ニ年滿二十歳ト爲ル者ハ其年ノ四月一日ヨリ同月十五日迄ニ書面ヲ以テ戸主ヨリ本籍ノ戸長ニ届出ヘシ若シ届出ノ後翌年十一月二十日迄ニ異動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ詳記シ三日以内ニ本籍ノ戸長ニ届出可シ但二十歳未滿ニシテ現ニ服役スル者ハ届出ルニ及ハス(全上)

第三十六條 第十七條ニ當ル者其資格ヲ失ヒ第十八條第十九條第二十一條ニ當ル者其事致止ミ及ヒ第三十二條但書ニ當ル異動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ詳記シ其年十一月二十一日以後十二月三十一日迄ニ係ル者ハ翌年四月一日ヨリ同月十五日迄ニ戸主ヨリ本籍ノ戸長ニ届出可シ但四月十六日以後十一月二十日以前本條ニ當ル者ハ三日以内ニ本籍ノ戸長ニ届出可シ(全上)

第三十七條 他ノ府縣ニ寄留スル者其地ニ於テ徵集ニ應セント欲スルトキハ其地ニ居住

スル者戸主ヲ以テ証人ト爲シ三月十五日迄ニ戸主ヨリ其旨ヲ本管廳ニ願出可シ但第三十五條ノ届書ハ寄留地ノ戸長ニ差出ス可シ(同上)

第三十八條 現役兵在營在艦中ハ定額ノ日給ヲ與ヘ服食等ヲ給ス

第三十九條 疾病或ハ犯罪等ニテ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ其事由ヲ詳記シ其疾病ニ罹ル者ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ即日戸長ニ届出可シ其事故止ムトキ亦同シ

第四十條 第三十九條ニ掲クル者翌月四月一日ニ至ルモ事故猶止マサルトキハ之ヲ翌年廻シノ者ト爲シ翌年更ニ検査ヲ遂ケ他ノ徵員ニ先チ徵集ス可シ但戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキハ翌年徵集ノ期ヲ待タズ徵集ス

第四十一條 兵役ヲ免レンカ爲メ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヒ又ハ逃亡若クハ潜匿シタル者又ハ正當ノ故ナク検査所ニ參會セヌ又ハ第三十五條第三十六條ノ届出ヲ怠リタル者ハ抽籤ノ法ヲ用ヒ直ニ現役ニ徵集シ又ハ翌年検査ヲ遂ケ第四十條ニ掲クル者ニ先チ抽籤ノ法ヲ用ヒス徵集ス

第四十二條 常備現役年ノ計算ハ總テ其入營年ノ十二月一日ニシテ其入營ノ當日ヨリ起算シ豫備役及ヒ後備役年ノ計算ハ其定例編入ス可キ年ノ四月二十日ヨリ起算ス但禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレ又ハ逃亡シタル者其刑期中ノ日數及ヒ逃亡中ノ日數ハ服役年算入セス(全上)

第四十三條 第三十四條第三十五條第三十六條第三十九條ノ届出ヲ爲ザル者及ヒ検査時日ノ指定ヲ受ケ正當ノ故ナク其場所ニ參會セサル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ

處ス
 第四十四條 兵役ヲ免レンカ爲メ逃亡シ又ハ潜匿シ若クハ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其
 他詐僞ノ所爲アル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ
 附加ス
 第四十五條 本令施行ノ爲メニ要スル規則ハ別ニ布達ヲ以テ之ヲ定ム

軍管師管	國名	第一	武藏ノ内 麴町區 神田區 日本橋區 京橋區 芝區 麻布區 赤坂區 四谷區 北豐島郡 南足立郡 北足立郡 東多摩郡 西多摩郡 南多摩郡 北多摩郡 久良岐郡 橋本郡 都筑郡 新坐郡 入間郡 高麗郡 比企郡 橫見郡 秩父郡 兒玉郡 那珂郡 賀美郡 大里郡 相模 甲斐 伊豆 上野 信濃ノ内 南佐久郡 旣羅郡 榛澤郡 男衾郡 小縣郡 埴科郡 更級郡 上高井郡 下高井郡 上水内郡 下水内郡
		第二	武藏ノ内 本所區 深川區 南葛飾郡 北葛飾郡 南葛飾郡 北葛飾郡 安房 上総 下総 常陸 下野
		第三	陸前ノ内 仙臺區 名取郡 磐城 岩代 羽前 越後 佐渡

第二	陸前ノ内 宮城郡 黒川郡 加美郡 志田郡 玉造郡 遠田郡 陸中 陸奥 羽後 栗原郡 登米郡 本吉郡 桃生郡 牡鹿郡 氣仙郡
第三	尾張ノ内 名古屋區 愛知郡 葉栗郡 中嶋郡 信濃ノ内 東筑摩郡 西筑摩郡 海東郡 海西郡 知多郡 上伊那郡 下伊那郡 三河 遠江 駿河 伊勢 志摩 紀伊ノ内 南牟婁郡 諏訪郡 北牟婁郡
第四	尾張ノ内 東春日井郡 西春日井郡 美濃 加賀 能登 越中 飛驒 越前 丹羽郡
第五	攝津ノ内 東區 西區 南區 紀伊ノ内 和歌山區 名草郡 海部郡 那賀郡 北區 東成郡 住吉郡 伊都郡 有田郡 日高郡 東牟婁郡 西牟婁郡 山城 大和 河内 和泉 近江 伊賀
第六	攝津ノ内 神戶區 西成郡 島上郡 嶋下郡 豐嶋郡 能勢郡 播磨 淡路 若狹 八郡 丹波 但馬 美作 備前 因幡 伯耆
第七	安藝 備後 備中 出雲 石見 隱岐 周防 長門
第八	阿波 讚岐 伊豫 土佐

兵事

第七第	第十第	肥後 日向 大隅 薩摩 沖繩
	第二十第	豐前 豐後 筑前 筑後 肥前 壹岐 對馬
渡嶋	後志	石狩
天鹽	北見	膽振
日高	十勝	釧路
根室	千島	

軍管ハ軍團ノ諸兵師管ハ師團ノ諸兵ヲ徵集ス

徵兵ハ現今沖繩縣ニ之ヲ行ハス北海道ニ於テハ第七軍管ノ鎮臺ヲ設クル迄函館縣管下函館江差福山三箇所ヲ限リ之ヲ行ヒ第二軍管ノ管轄ニ屬セシム

●徵兵事務條例 明治十七年八月 太政官第十八號布達

第一章 徵兵事務官及ヒ其職掌

- 第一條 徵兵事務官ハ左ノ如シ
 - 一 鎮臺後備軍司令官
 - 二 營所後備軍司令官
 - 三 府縣駐在官
 - 四 郡區駐在官

五 醫官

六 府知事縣令

七 府縣兵事課長

八 郡區長

第二條 鎮臺後備軍司令官ハ其軍管內徵兵ノ事ヲ掌ル

第三條 營所後備軍司令官ハ其師管內徵兵ノ事ヲ掌リ又毎年新兵徵集ノ際府縣徵兵署ヲ巡行シ兵種ノ撰定簿冊ノ審査兵役免除ノ處分ヲ爲シ徵集猶豫ニ係ル者ハ府知事縣令ト商議シ之ヲ裁決ス但鎮臺所在地ニハ營所後備軍司令官ヲ置カサルヲ以テ鎮臺後備軍司令官其職掌ヲ兼攝スルモノトス

第四條 府縣駐在官ハ其府縣內徵兵ノ事ヲ掌リ又毎年新兵徵集ノ際醫官及ヒ府縣兵事課長ト共ニ徵兵検査所ヲ巡行シ壯丁検査ノ事ヲ掌ル

第五條 郡區駐在官ハ其郡區內徵兵ノ事ヲ掌リ又毎年新兵徵集ノ際名簿調査ノ事ヲ掌ル

第六條 醫官ハ毎年新兵徵集ノ際一等軍醫以下軍醫試補以上ヲ以テ之ニ充ツ

一等軍醫ハ後備軍司令官ニ從ヒ府縣徵兵署ヲ巡行シ壯丁ノ身材骨格兵役ニ適スルヤ否ヲ検査スルコトヲ掌ル

二等軍醫以下軍醫試補以上ハ府縣駐在官ト共ニ徵兵検査所ヲ巡行ス其職掌一等軍醫ニ同シ

兵事

ムルコトアル可シ

第八條 府知事縣令ハ管内徵兵ノ事ヲ掌リ又毎年新兵徵集ノ際府縣徵兵署ニ於テ後備軍司令官ト商議シ徵集猶豫ノ裁決ヲ掌ル

第九條 府縣兵事課長ハ其府縣内徵兵ノ事務ヲ整理シ又毎年新兵徵集ノ際府縣駐在官ト共ニ徵兵檢査所ヲ巡行シ檢査ノ事務ヲ補助ス

第十條 郡區長ハ郡區内徵兵ノ事ヲ掌リ又毎年新兵徵集ノ際名簿調製ノ事ヲ掌ル

第十一條 毎年新兵徵集ノ際師管徵兵區ノ書記録ハ後備軍司令官部書記ヲシテ之ヲ掌ラシム
檢査及ヒ抽籤ノ筆記ハ筆生ヲシテ之ヲ掌ラシメ身體檢査ノ記録ハ地方醫員ヲシテ之ヲ掌ラシメ又身體檢査ノ補助ヲ爲サシムルコトアル可シ
醫員筆生ハ府知事縣令ノ撰ヲ以テ命スルモノトス

第十二條 徵兵猶豫ノ事ニ係リ後備軍司令官ト府知事縣令ト商議整ハサルトキハ各其事由ヲ具シ陸軍卿ニ伺出可シ但後備軍司令官ハ其所管長官ヲ經由ス可シ

第二章

徵兵檢査所及ヒ徵兵署

第十三條 壯丁ノ檢査ヲ施行スル爲メ府縣管地ノ廣狹及ヒ壯丁ノ多寡ニ應シ集合便宜ノ地ヲ撰ミ若干ノ徵兵檢査所ヲ設ク可シ

第十四條 各府縣徵兵區ニ於テ其事務ヲ整理スル爲メ毎年新兵徵集ノ期ニ先チ府縣廳所
在ノ地又ハ管内便宜ノ地ニ一ノ徵兵署ヲ設ク可シ但一府縣ノ管地兩師管ニ分屬スルモ

ノハ毎師管ニ一ノ徵兵署ヲ設ク可シ

第十五條 徵兵檢査所及ヒ徵兵署ハ毎年新兵徵集中開クモノニシテ該事務竣レハ之ヲ閉ツ可シ

第三章

各自届出

第十六條 徵兵令第三十四條ノ届書ハ第一書式第三十五條ノ届書ハ第二書式第三十六條ノ届書ハ第三書式ニ據リ之ヲ認メ戶長ニ差出ス可シ但第三十五條ノ届書ニハ左ノ書類ヲ添フ可シ

一 徵兵令第七條ニ當ル者ハ刑名宣告書寫

二 徵兵令第十七條第一項第二項ニ當ル者ハ事由ヲ記シタル詳細書第三項第五項ニ當ル者ハ第四書式ノ事由書及ヒ戶籍寫第四項并ニ同令第二十二條ノ諸項ニ當ル廢疾不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサル爲メ徵集猶豫ニ關スル者ハ事由ヲ記シタル詳細書及ヒ第五書式ノ醫師診斷書并ニ同郡區内現役兵ノ戶主タル者二人以上ノ保證書及ヒ戶籍寫重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ刑名宣告書寫

三 徵兵令第十八條第一項ニ當ル者ハ辭令書寫第二項ニ當ル者ハ卒業證書寫及ヒ辭令書寫第三項第四項ニ當ル者ハ學校長若シハ所屬長ノ證明書第七項ニ當ル者ハ地名校名及ヒ修業ノ學科并ニ入校ノ年月日等記載ノ書及ヒ公使又ハ領事ノ證明書第八項ニ當ル者ハ檢察官ノ證明書第九項ニ當ル者ハ刑名宣告書寫

四 徵兵令第十九條ニ當ル者ハ學科并ニ等級ヲ記シタル學校長又ハ所屬長ノ證明書

五 徵兵令第二十一條ニ當ル者ハ決裁書ノ寫
第十七條 各自届出ヲ爲スニ當リ戸主旅行又ハ外國寄留等ニテ届出ヲ爲ス能ハサルトキ
ハ本人又ハ親族ノ者ヨリ届出可シ

第十八條 各自届出ヲ終ルノ後抽籤ノ前他ノ府縣ニ轉籍スル者ハ三日以内ニ舊住地新住
地雙方ノ戸長ニ届出可シ

第四章 下調

第十九條 毎年四月一日以前戸長ハ各自届出ヲ爲ス可キ者ヲシテ徵兵令第三十四條第三
十五條第三十六條ノ届出ヲ怠ラシメサル様注意ス可シ(二十年三月開令第三
三號ヲ以テ改正)

第二十條 戸長届書ヲ領收セハ其町村ノ戸籍ニ照シ届出ノ者ナキヤ否ヲ調査シ國民兵入
籍者ト徵兵相當者トヲ分チ徵兵相當者ノ各自姓名ノ頭ニ記載シタル簡條并ニ事由書或
ハ証書等相違ナキヤ否ヲ審査シ其届書ニ署名押印シ更ニ徵兵令第七條第十七條第十八
條第十九條第二十一條ニ當ル者ト檢査ヲ受ク可キ者トヲ區別シ國民兵入籍者ノ届書ト
共ニ書類目錄ヲ添ヘ毎年五月五日迄ニ郡區長ニ差出ス可シ但徵兵令第三十五條但書ニ
當ル者ハ戸長之ヲ調査シ其族職業氏名住所誕生年月日及ヒ隊號ヲ記シ本條ノ書類ト共
ニ郡區長ニ差出ス可シ(同)

第二十一條 戸長ハ檢査ヲ受ク可キ者ノ戸籍ニ基キ人別表第六
書式ニ葉ヲ製シ各自届書ト共
ニ郡區長ニ差出ス可シ但人別表用紙ハ各自届出ノ季節ニ先チ府縣廳ヨリ之ヲ下付ス可
シ

第二十二條 各自届出ノ後身上ノ異動ヲ届出ルトキハ戸長之ヲ調査シ三日以内ニ郡區長
ニ差出ス可シ

第二十三條 郡區長ハ戸長ヨリ差出ス所ノ各自届書人別表其他諸書類ノ成規ニ適スルヤ
否ヤヲ點檢シ然ル後壯丁名簿第七
書式及ヒ壯丁異動名簿第八
書式ヲ製シ卷末ニ署名押印シ各自
届書人別表其他諸書類ト共ニ五月二十五日迄ニ之ヲ郡區駐在官ニ送致ス可シ(同)

第二十四條 郡區駐在官ハ郡區長ヨリ送致スル所ノ名簿并ニ諸書類ヲ點檢シ其郡區内ノ
壯丁中遺漏或ハ差違ナキヤ否ヲ調査シ又人別表備考區畫ニ記載スル件々ノ適否ヲ覈査
シ訂正加書シ然ル後名簿ノ卷末ニ署名押印シ諸書類ト共ニ郡區長ニ返付ス可シ

第二十五條 郡區長ハ郡區駐在官ヨリ返付スル所ノ名簿ニ各自届書人別表其他諸書類ヲ
添ヘ六月五日迄ニ之ヲ府縣廳ニ差出ス可シ(同)

第二十六條 壯丁名簿調製ノ際郡區長ハ人別表備考區畫ニ記載スル件々ノ適否ヲ覈査シ
訂正加書ス可シ

第二十七條 寄留地ニ於テ徵集ニ應シ又ハ檢査ヲ受ケント欲スル者ハ該部内ノ者ト混セ
サル爲メ他府縣ヨリ寄留ノ部ト題シ本籍地ニ於テハ他府縣ニ寄留ノ部ト題シ之ヲ別簿
ニ作ル可シ

第二十八條 郡區長ハ壯丁名簿壯丁異動名簿整頓前第二十二條ニ據リ身上ノ異動届書ヲ
戸長ヨリ差出ストキハ之ヲ調査シ名簿ヲ訂正ス可シ若シ名簿整頓後ニ係ルトキハ府縣
廳又ハ徵兵器或ハ檢査所ニ送ル可シ但徵兵令第三十四條ノ各自届出後身上異動ノ届書

兵事

ハ三日以内ニ府縣廳ニ差出ス可シ

第二十九條 他府縣ニ籍ヲ轉スルノ異動屆書ハ郡區長ヨリ府縣廳ニ差出シ該廳ヨリ新任地府縣廳ニ通牒スヘシ

第三十條 郡區長ハ壯丁名簿壯丁異動名簿等ヲ府縣廳ニ差出シタル後國民兵入籍者ノ屆書ニ據リ國民兵名簿第九ヲ調製シ卷末ニ署名押印シ各自屆書ト共ニ六月十日迄ニ之ヲ郡區駐在官ニ送致ス可シ(同)

第三十一條 郡區駐在官ニ郡區長ヨリ送致スル所ノ名簿ヲ點檢シ其郡區内ノ國民兵入籍者ノ遺漏或ハ差違ナキヤ否ヲ調査シ然ル後卷末ニ署名押印シ郡區長ニ返付シ郡區長ハ各自屆書ト共ニ六月十日迄ニ之ヲ府縣廳ニ差出ス可シ(同)

第五章 徵員配當

第三十二條 毎年徵集ス可キ陸軍新兵ノ員數ハ陸軍卿之ヲ告示シ海軍新兵ノ員數ハ海軍卿之ヲ告示ス可シ

第三十三條 鎮臺司令官ハ其告示ニ基キ後備軍司令官ヨリ差出ス所ノ人員ヲ率トシ軍管徵集人員配當表第十ヲ作り之ヲ陸軍省ニ關中シ又管内府縣廳及ヒ府縣駐在官ニ通牒ス可シ府縣廳ニ於テハ之ヲ管内ニ告示ス可シ

第六章 檢査準備

第三十四條 府縣廳ニ於テハ毎年六月十日ヨリ徵兵署ヲ開設シ府縣駐在官醫官府縣兵事課長地方醫員及ヒ筆生出頭シ徵兵檢査ノ準備ヲ爲ス可シ(同)

第三十五條 府縣廳ニ於テハ各自屆書人別表其他諸書類ノ成規ニ適スルヤ否ヲ審查シ戶籍帳ト照較シ遺漏又ハ差違ナキヤ否ヲ調査シ然ル後徵兵署ニ送致ス可シ

第三十六條 府縣駐在官ハ府縣廳ヨリ徵兵署ニ送ル所ノ諸書類ノ成規ニ適スルヤ否ヲ調査シ又壯丁名簿壯丁異動名簿中徵集ニ應ス可キ者ノ總人員ヲ營所後備軍司令官ニ差出ス可シ但營所後備軍司令官ハ之ヲ一師官ニ取纏メ鎮臺後備軍司令官ヲ經テ鎮臺司令官ニ呈ス可シ

第三十七條 府縣駐在官ハ前條書類調査ノ後府縣兵事課長ト商議シ管地ノ廣狹及ヒ壯丁ノ多寡ニ應シ檢査所并ニ巡回日割ヲ定メ其表面第十一ヲ製シ後備軍司令官ヲ經テ鎮臺司令官ニ府縣兵事課長ハ府知事縣令ニ之ヲ開申ス可シ

第三十八條 檢査所并ニ巡回ノ日割已ニ定マルトキハ府縣廳ヨリ郡區長及ヒ戶長ニ達シ戶長ハ之ヲ其町村内檢査ヲ受ク可キ者ニ達シ置キ徵集ノ日時ニ至レハ壯丁ヲ引纏メ指定ノ場所ニ出頭ス可シ

第三十九條 府縣兵事課長ハ徵兵署ニ於テ筆生ヲシテ人別表ニ基キ檢査表第十二ヲ製セシメ檢査ノ席ニ備ヘ置ク可シ但檢査表用紙ハ檢査ノ季節ニ先チ府縣廳ヨリ之ヲ徵兵署ニ送ル可シ

第四十條 壯丁中疾病處刑又ハ逃亡失踪等ニテ檢査所ニ出頭セサル者アルトキハ戶主或ハ親族ノ者ヨリ逃亡失踪等ノ者ハ其事由書ニ戶長ノ與書證印憲兵部若クハ警察署ノ證認ヲ受テ疾病ノ者ハ醫師ノ診斷書第五處刑中ノ者ハ刑名宣告書寫ヲ以テ郡區長ヲ經テ

兵事

徴兵検査所ニ届出可シ但起居自在ナラサル疾患ニシテ車駕等ヲ用フルモ出頭スル能ハサル者ハ其家ニ就キ之ヲ検査シ若クハ他ノ検査所ニ出頭セシムル等府縣駐在官府縣兵事課長商議シテ之ヲ處分ス可シ

第四十一條 徴兵検査所ニ於テ領收スル所ノ諸願届書ハ府縣駐在官府縣兵事課長ト商議シ之ヲ處分シ壯丁名簿壯丁異動名簿ニ訂正ヲ加ヘ若シ處分スルコト能ハサルモノ或ハ成規外ニ係ルモノハ意見書ヲ添ヘ之ヲ巡行ノ後備軍司令官ニ差出ス可シ

第七章 検査

第四十二條 検査ハ概テ六月二十日ヨリ始メ第三十四條ニ掲クル所ノ諸員徴兵検査所ヲ巡行シ其事務ヲ調理ス(同)

第四十三條 戸長ヨリ検査ノ達ヲ受ケタル者ハ戸長ニ從ヒ指定ノ日時ニ其場所ニ出頭シ府縣駐在官府縣兵事課長ノ面前ニ於テ身體ノ検査ヲ受ク可シ

第四十四條 身體検査ヲ爲ストキハ郡區駐在官郡區長列席シ郡區駐在官ハ壯丁名簿壯丁異動名簿中徴集ノ部ニ記載シタル順序ニ壯丁ヲ呼出シ醫官ハ徴兵検査規則ニ據リ體格ヲ検査シ合格ノ者ハ更ニ其體格ノ等位ヲ區別ス不合格ノ者及ヒ身幹四尺九寸未滿ノ者ハ地方醫官ヲシテ之ヲ検査表ニ記註セシメ醫官之ニ捺印シテ府縣駐在官ニ差出ス可シ但四尺九寸未滿ノ者及ヒ不合格者ノ骨相ハ検査表ニ記註スルヲ要セス唯其尺度并ニ骨相ノ部ニ主任ノ醫官捺印ス可シ

第四十五條 壯丁ノ身體検査終ル毎ニ府縣駐在官ハ府縣兵事課長ト共ニ人別表ニ據リ本

人ニ姓名住所族職業父兄ノ姓名等相違ナキヤ否ヲ尋問ス可シ

第四十六條 人別表調査ノ後府縣駐在官ハ検査表ニ據リ筆生ヲシテ人別表中身幹尺度ノ區畫ニ各自ノ寸尺ヲ記註セシメ又疾病缺損又ハ身幹四尺九寸未滿ノ者ノ備考區畫ニハ何ノ事故ニ付徴集猶豫疾病缺損ニ付除役等其要領ヲ記註セシム可シ

第四十七條 壯丁中癩癩、狂病、白癩、夜盲、聾、啞、遺尿、等ノ如キ疾病アリ其狀ヲ申告セントスル者ハ平素其病狀ヲ熟知スル近隣ノ戸主二人以上ノ証書ヲ添テ検査所ニ申出ス可シ醫官ニ於テ相違ナシト認定スルトキハ之ニ與書證印ス可シ若シ認定スルコト能ハサルトキハ府縣駐在官ニ致ス可シ駐在官ハ之ヲ徴集ノ部ニ加フ可シ

第四十八條 壯丁ノ身體検査終ル毎ニ府縣駐在官ハ府縣兵事課長ト共ニ合格又ハ不合格或ハ徴集猶豫ノ要領ヲ壯丁名簿壯丁異動名簿中ノ各自姓名ノ頭ニ記註ス可シ

第四十九條 身體検査終リタル後郡區長ハ合格者ヲシテ抽籤總代人ヲ撰ハシメ其姓名住所ヲ府縣兵事課長ニ通牒ス可シ

第五十條 府縣駐在官ハ人別表備考區畫ヲ案シ訂正ヲ加フ可キモノハ之ヲ加ヘ醫官ニ謀リ身體最モ健全ニシテ近衛兵ニ適當スト思考スルモノハ人別表備考區畫ニ近衛何兵適當ノ文字ヲ記註ス可シ

第五十一條 府縣駐在官ハ壯丁ノ職業ニ注意シ海軍兵ニ適當スト思考スルモノハ人別表備考區畫ニ海軍何兵適當ノ文字ヲ記註ス可シ

第五十二條 府縣駐在官ハ合格者ノ人別表及ヒ検査表ニ照シ各自ノ身材藝能職業ニ應シ

兵事

豫ノ兵種ヲ區別ス可シ

- 第五十三條 近衛諸兵ハ總テ品行方正ニシテ且體格最健全ナル者ヨリ之ヲ撰フ可シ其身
幹砲兵ハ五尺五寸以上歩兵騎兵ハ五尺三寸以上ノ者タル可シ
- 第五十四條 鎮臺ニ屬スル諸兵ノ身幹砲兵ハ五尺五寸以上歩兵騎兵工兵輜重兵ハ五尺三
寸以上ノ者タル可シ若シ不足スルトキハ砲兵ハ五尺四寸以上歩兵騎兵工兵輜重兵ハ五
尺二寸以上ノ者ヲ以テ之ニ充テ仍ホ不足スルトキハ臨時其定尺ヲ減スルコトアル可シ
- 第五十五條 陸軍雜卒又ハ職工トシテ徵集スル者ハ身幹五尺以上ニシテ雜卒又ハ職工ノ
勤務ニ適當ノ者ヨリ之ヲ撰フ可シト雖モ若シ所要ノ人員不足スルトキハ其體格五種兵
ニ亞ク者又ハ身幹四尺九寸以上ニシテ各其勤務ニ堪フ可キ者ヨリ之ヲ撰フ可シ
- 第五十六條 海軍兵ハ左ニ掲クル項目ノ順序ニ從ヒ之ヲ撰フ可シ其身幹水兵火夫ハ五尺
以上ヲ定尺トス
- 第一項 航海學又ハ機關學卒業ノ者
- 第二項 西洋形船舶ニ乗組ノ者
- 第三項 瀛車或ハ諸製造所等ニ於テ機關手又ハ火夫ノ業ニ從事スル者
- 第四項 現ニ前諸項ノ職業ニ從事セスト雖モ一箇年以上當テ之ニ從事セシ者
- 第五項 日本形五百石以上ノ船舶ニ乗組ノ者
- 第六項 日本形五百石未満ノ船舶ニ乗組ノ者
- 第五十七條 海軍職工トシテ徵集スル者ハ身幹四尺九寸以上ニシテ其勤務ニ適當ノ者ヨ

リ之ヲ撰フ可シ

第五十八條 兵種ノ區別已ニ竣レハ府縣駐在官ハ府縣兵事課長ト共ニ壯丁名簿壯丁異動
名簿人別表檢査表其他一切ノ書類ヲ取纏メ巡行ノ後備軍司令官ニ差出ス可シ

第八章 抽籤準備

- 第五十九條 營所後備軍司令官ハ府縣駐在官ノ報告ニ據リ一府縣ノ徵兵檢査事務完了ノ
日時ヲ量リ巡回日割表第十三式ヲ作り鎮臺後備軍司令官ヲ經テ之ヲ鎮臺司令官ニ開申シ
又其巡行ス可キ府縣廳及ヒ駐在官ニ通牒ス可シ
- 第六十條 府縣廳ニ於テハ後備軍司令官ノ通牒ニ據リ其日時場所ヲ抽籤總代人ニ達シ出
頭セシム可シ
- 第六十一條 抽籤施行ニ先チ府縣兵事課長ハ徵兵器ニ於テ筆生ヲシテ籤丁名簿及ヒ籤札
ヲ調製セシメ抽籤ノ席ニ備ヘ置キ又其府縣籤丁ノ總員及ヒ各兵種現役補充ノ徵員ヲ記
載セシメ之ヲ抽籤場所ニ揭示ス可シ
- 第六十二條 籤丁名簿ハ籤丁ノ姓名住所ヲ記シ又籤札ハ左式ノ如ク厚紙ヲ凡ソ方三寸ニ
切り之ヲ四ツ折ニシテ中分ヲ拈リ合格者ノ數ニ應シ調製ス可シ

近衛(鎮臺)

籤札

(海軍)

何兵第何番

第六十三條 後備軍司令官ハ府縣巡行期日ニ至レハ徵兵署ヲ巡行シ壯丁名簿壯丁異動名簿其他諸書類ノ成規ニ適スルヤ否ヲ審査ノ上檢印シ又徵集猶豫ニ關スル書類ハ府知事縣令ト商議シ成規ニ照シテ之ヲ處分ス可シ

第六十四條 後備軍司令官ハ抽籤施行ニ先チ徵兵令第四十一條ニ當ル先入兵同令第四十條ニ當ル入營延期ノ者及ヒ同令第十條ニ當ル志願兵ヲ調査シ現役兵編入ノ順序ニ從ヒ現役番號ヲ附ス可シ

第九章 抽籤

第六十五條 抽籤ハ後備軍司令官府知事縣令府縣駐在官府縣兵事課長郡區長及ヒ郡區駐在官列席シ徵集人員配當表ニ基キ近衛諸兵鎮營諸兵及ヒ海軍諸兵ヲ區別シ雜卒職工亦其種類ヲ分テ之ヲ行フ可シ

第六十六條 抽籤總代人ノ抽キタル籤ヲ確証スル爲メ籤簿掛ハ其籤ヲ總代人ヨリ領收シ籤丁名簿姓名ノ頭ニ貼付シ徵兵署ノ割印ヲ押シ然ル後總代人ニ返付ス可シ

第六十七條 抽籤施行ノ際後備軍司令官ハ書記ヲシテ人別表ニ番號ヲ記入シ又籤簿第四式ヲ調製セシム可シ

籤簿ハ兵種ヲ分テ當籤番號ノ順序ヲ以テ登記シ卷末ニ籤簿掛署名押印ス可シ但籤簿ハ別ニ一部ヲ作り府縣廳ニ備ヘ置ク可シ

第六十八條 抽籤施行ノ後徵兵署ニ於テハ人別表ニ據リ番號割符^{第十五書式}ヲ作り籤簿ニ引合セ徵兵署ノ割印ヲ押シ籤札ニ照シ抽籤總代人ニ交付ス可シ但抽籤總代人ハ受領證書

第十六 差出ス可シ 書式

第十章 簿冊表面調製

第六十九條 抽籤竣ルノ後徵兵署ニ於テ左ノ名簿ヲ作ル可シ

一 除役名簿

徵兵令第七條及ヒ第十六條ニ當ル者ノ部類ヲ分チ第十七書式ニ據リ登記ス

二 徵集猶豫名簿

徵兵令第十七條第十八條第十九條及ヒ第二十一條ニ當ル者ノ部類并ニ條目ヲ分チ第十八書式ニ據リ登記ス但同令第十八條第五項及ヒ第六項ニ當ル者ハ年度ヲ分チ別冊ニ登記ス

三 先入兵不參名簿

徵兵令第四十一條ニ當ル者ニシテ其年檢査ヲ受ケサル者ヲ第十九書式ニ據リ登記ス

四 入營延期不參名簿

徵兵令第四十條ニ當ル者ニシテ其年檢査ヲ受ケサル者ヲ第二十書式ニ據リ登記ス

五 一年志願兵名簿

六 近衛現役兵名簿

七 鐵臺現役兵名簿

- 八 海軍現役兵名簿
- 九 近衛補充員名簿
- 十 鎮臺補充員名簿
- 十一 海軍補充員名簿
- 十二 現役兵検査名簿
- 十三 補充員検査名簿

右九名簿ハ番號ノ順序ニ從ヒ兵種及ヒ部類ヲ分チ人別表及ヒ検査表ヲ以テ編製ス

第七十條 前條ニ掲クル名簿ハ各二部検査名簿ハ一部検査名簿ヲ作り卷末ニ後備軍司令官府知事縣令署名押印シ一部ハ府縣廳ノ原簿トシ一部ハ府縣徵兵表ト共ニ後備軍司令官之ヲ領收ス可シ

第七十一條 抽籤竣ルノ後徵兵署ニ於テハ府縣徵兵表第二十ヲ作り又師管內徵兵事務全ク竣レハ後備軍司令部ニ於テ府縣徵兵表ヲ以テ師管徵兵表ヲ編製シ第六十九條ニ掲クル所ノ諸名簿并ニ一師管ノ徵兵景況書及ヒ書類目錄ヲ添ヘ營所後備軍司令官ハ鎮臺後備軍司令官ヲ經テ鎮臺司令官ニ差出ス可シ

第七十二條 鎮臺司令官ハ前條ノ名簿諸書類領收ノ後師管徵兵表ヲ以テ軍管徵兵表ヲ編製シ徵兵景況書ヲ添ヘ十二月廿日迄ニ之ヲ陸軍省ニ送致シ近衛兵名簿海軍兵名簿ハ十月十日迄ニ直ニ近衛局或ハ海軍省ニ送致ス可シ(同)

第七十三條 國民兵名簿ハ壯丁名簿調査ノ原簿メルヲ以テ之ヲ府縣廳ヘ備ヘ置キ二十歳以下ノ者ノ年齢二十歳ニ至ル迄ハ身上ノ異動アル毎ニ訂正ヲ加フヘシ府縣廳ハ國民兵名簿ニ從ヒ毎年十二月一日調ヲ以シ國民兵人員表第二十ヲ製シ翌年一月三十一日迄ニ之ヲ陸軍省及ヒ鎮臺ニ差出ス可シ

第十一章 現役兵編入順序

第七十四條 現役兵ニ編入ノ順序左ノ如シ

- 一 徵兵令第四十一條ニ當ル者
- 二 年齢ノ順序又同年齡ノ者ハ誕生日日ノ順序ニ從フ
- 三 徵兵令第四十條ニ當ル者
- 四 第一項ノ者ニ亞キ年齢ノ順序又同年齡ノ者ハ誕生日日ノ順序ニ從フ
- 五 徵兵令第十條ニ當ル者
- 六 第二項ノ者ニ亞キ年齢ノ順序又同年齡ノ者ハ誕生日日ノ順序ニ從フ
- 七 現役當籤ノ者
- 八 第三項ノ者ニ亞キ當籤番號ノ順序ニ從フ
- 九 補充當籤ノ者
- 十 歩兵ニ在テハ師管徵兵區内其他ハ軍管徵兵區内ニ平均シ當籤番號ノ順序ニ從フ

第七十五條 歩兵ノ補充員不足シ師管徵兵區内ニ於テ現役兵ヲ充實スル能ハサルトキハ

營所後備軍司令官ハ鎮臺後備軍司令官ヲ經テ鎮臺司令官ニ上申シ鎮臺司令官ハ他ノ師管ヨリ之ヲ充實シ又他兵ノ補充員不足シ軍管內ニ於テ現役兵ヲ充實スル能ハサルトキハ鎮臺司令官ヨリ之ヲ陸軍省ニ開申ス可シ

第十二章 新兵入營前ノ扱

第七十六條 現役籤ニ當リタル者ハ入營ノ命ヲ待ツモノナルカ故五日間ニ往復スル能ハサル地ニ出ルヲ許サス

第七十七條 新兵ハ概テ毎年十二月一日ヨリ全月十日迄ニ入營セシム可シ(全)

第七十八條 新兵入營ノ日時及ヒ場所ハ毎年近衛局鎮臺又ハ鎮守府ヨリ府縣廳ニ通牒シ府縣廳ハ速ニ其旨ヲ入營ス可キ者ニ達セシメ左ノ手續ヲ爲ス可シ

- 一 鎮臺兵ハ其員數及ヒ入營地ニ應シ最寄ヲ分テ所要ノ附添人ヲ附シ入營地ノ後備軍司令部ニ出頭セシム可シ
- 二 近衛兵及ヒ海軍兵ハ一府縣ニ一人若クハ二人ノ附添人ヲ附シ近衛局或ハ鎮守府ニ出頭セシム可シ

第七十九條 新兵入營地迄ノ旅費并ニ附添人ノ旅費ハ定則ニ照準シ大藏省ヨリ支給ス可シ

第八十條 新兵入營ノ期ニ臨ミ父母ノ重病或ハ死没等ノ故ヲ以テ入營延期ヲ願フ者ハ戶主又ハ親族ノ者ヨリ事實ヲ詳記シ(其重病ハ醫師ノ診斷書第五書式ヲ添ヘ)戶長郡區長與書証印シ郡區駐在官ヲ經テ府縣駐在官ニ願出ルニ於テハ詮議ノ上十四日以内ノ延期ヲ許

ス可シ

第八十一條 前條ノ延期ヲ許可セシトキハ府縣駐在官ハ其旨ヲ近衛局鎮守府又ハ入營地ノ後備軍司令部ニ通牒ス可シ

第八十二條 入營延期ノ許可ヲ得タル者期滿ツレハ即日戶長ニ届出戶長ハ直ニ出發セシメ其旨ヲ近衛局鎮守府又ハ入營地ノ後備軍司令部ニ届出ヘシ

第八十三條 新兵入營ノ期ニ臨ミ其身疾病犯罪等ニテ入營シ難キ旨戶長ニ届出ルトキハ戶長與書証印シ郡區長ヲ經テ近衛局鎮守府又ハ入營地ノ後備軍司令部ニ届出ヘシ其事故止ムトキ亦同シ尤モ疾病延ヒテ十五日以上ニ及フ者ハ最初届出ノ日ヨリ三十日毎ニ届出翌年四月一日ニ至ルモ事故尙止マサル者ハ本人所持ノ番號割符ヲ添ヘ同月十五日限リ郡區長ヲ經テ府縣廳ニ差出シ府縣廳ヨリ之ヲ徵兵器ニ送ル可シ(同)

第八十四條 新兵入營前甲府縣ヨリ乙府縣ニ轉籍又ハ全戶寄留スル者ハ即日戶主ヨリ甲府縣戶長ニ届出戶長ハ郡區長ヲ經テ府縣廳ニ届出可シ又乙府縣ニ到着スルトキハ前同様ノ手續ヲ以テ番號割符ヲ添ヘ届出可シ然ルトキハ甲府縣ノ當籤番號ヲ存シ他日入營ノ時ニ至リ乙府縣同番號ノ者ニ次テ入營セシム可シ但本人ヨリ轉籍又ハ全戶寄留ノ旨ヲ甲乙府縣ノ郡區駐在官ニ届出可シ

第十三章 歸休歸省

第八十五條 徵兵令第十七條ニ照シテ徵集ヲ猶豫スルハ抽籤以前該條項ニ當ル者ニ限ル但戶主若クハ父兄等死没シ又ハ重罪ノ刑ニ處セラレ或ハ癡疾不具等トナリ本人ヲ要ス

兵事

ルニアラサレハ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルトキハ詮議ノ上郷里ニ歸休セシメ又ハ第一豫備徵員ニ編入ス

抽籤後養子又ハ他家ノ相續人トナリ前項ノ事故ヲ生スルモ詮議ニ及ハス

第八十六條 前條但書ニ當ル者ハ戸主又ハ親族ノ者ヨリ其事由ヲ詳記シ戸籍寫若クハ刑名宣告書寫若クハ醫師診斷書第五書式并ニ同郡區内現役兵ノ戸主タル者二人以上チシテ事實ヲ証セシメ戸長郡區長與書証印ノ上郡區駐在官ヲ經テ府縣駐在官ニ差出シ該官ハ後備軍司令官ヲ經テ近衛局鎮臺或ハ鎮守府ニ申牒(近衛局鎮臺ハ陸軍省ニ鎮守府ハ海軍省ニ開申)ス可シ但癩疾不具等ノ者ハ陸海軍醫官チシテ地方醫師診斷書ノ當否ヲ判定セシメ又ハ府縣駐在官及ヒ其地陸海軍醫官チシテ其家ニ就キ檢査セシムルコトアル可シ(全削除)

第八十七條 前條ノ者生兵或ハ二等若水兵若クハ二等若火夫ノ卒業後ナレハ郷里ニ歸休セシメ又卒業以前ナレハ之ヲ第一豫備徵員ニ編入ス

第八十八條 近衛兵ニシテ前條ニ據リ歸休セシメ又ハ第一豫備徵員ニ編入スル者ハ近衛局ヨリ本籍所管ノ鎮臺ニ通牒シ該鎮臺ノ管理ニ屬ス可シ

第八十九條 現役兵在營在艦中父母ノ重病或ハ死亡等ニテ歸省ヲ願フトキハ其戸主又ハ親族ノ者ヨリ事實ヲ詳記シ(其重病ハ醫師ノ診斷書第五書式ヲ添ヘ)戸長ノ與書証印ヲ以テ直ニ本人所屬ノ隊或ハ鎮守府ニ願出ルニ於テハ詮議ノ上往復ヲ除キ十四日以内ノ歸省ヲ許ス可シ尤モ旅費ハ自辨タル可シ但生兵二等若水兵二等若火夫ノ卒業ニ至ラス或ハ

臨時ニ演習觀兵ノ譽アルキ又ハ航海中ハ本條ノ限ニ在ラス(十八年第十號布達ヲ以テ)長ノ下郡區長ノ三字削除

第十四章

補充員及ヒ豫備徵員

第九十條 補充員ハ臨時補缺ヲ除クノ外鎮臺ニ於テ毎年四月一日ノ現役兵缺員ニ應シ概

テ六月一日ヨリ同月十日迄ニ入營スルモノトス但近衛兵海軍兵ニ在テハ近衛局海軍省ヨリ所要ノ人員ヲ九月廿日迄ニ陸軍省ニ通牒シ陸軍省ハ之ヲ各軍管ニ賦課ス可シ(同)

第九十一條 補充員入營ノ期ニ臨ミ疾病又ハ犯罪等ニテ入營スル能ハサル者ハ其實事ヲ詳記シ本人所持ノ番號割符ヲ添ヘ(疾病ハ醫師ノ診斷書第五書式ヲ添ヘ)速ニ戸長ニ届出可シ戸長ハ與書証印シ郡區長ヲ經テ府縣廳ニ差出ス可シ該廳ニ於テハ其次番號ノ者ヨリ

順次ニ線上ケ徵集人員ヲ充實シ入營セシメ其旨ヲ府縣駐在官ニ通牒ス可シ

第九十二條 前條ノ事故ニ據リ入營セサル者(翌年徵集ノ期ニ當リ)郡區長ニ於テ其名簿ヲ作り府縣廳ニ差出シ府縣廳ヨリ之ヲ徵兵署ニ送ル可シ(同削除)

第九十三條 補充員ニシテ入營ヲ命セラレタル者其入營迄ノ扱ハ總テ現役當籤者入營前ノ扱ト異ナルコトナシ

第九十四條 補充員ハ十日間ニ往復スルコト能ハサル地ニ出ルヲ許サス然レトモ己ムチ得サル事故ヲ生シ其日限ヲ越ユル地ニ出テントクテ欲スル者ハ事實并ニ往先ヲ詳記シ

戸長郡區長ノ與書証印ヲ受ケ郡區駐在官ニ出願ス可シ

第九十五條 補充員ニシテ現役ヲ志願スル者ハ本人ノ願書ニ親族連署シ戸長郡區長ノ與書証印ヲ受ケ郡區駐在官ニ願出ルトキハ詮議ノ上當籤番號ノ順序ニ拘ハラズ補充員徵

集同時之ヲ入營セシム可シ

第九十六條 補充員身上ニ異動ヲ生スルトキハ戶主又ハ親族ノ者ヨリ三日以内ニ戶長ニ届出戶長郡區長與書證印ヲ郡區駐在官ヲ經テ之ヲ府縣駐在官ニ届出ヘシ

第九十七條 補充員ニシテ甲府縣ヨリ乙府縣ニ轉籍又ハ全戶寄留スル者ハ第八十四條ノ例ニ據ル可シ

第九十八條 補充員ニシテ第八十五條組書ニ當ル事故ヲ生シ徵集猶豫ヲ出願スル者ハ第八十六條ノ手續ニ據ルヘシ(同改正)

第九十九條 第一豫備徵員身上ニ異動ヲ生スルトキハ戶主又ハ親族ノ者ヨリ三日以内ニ戶長ニ届出戶長ハ第九十六條ノ例ニ據リ之ヲ處分スヘシ

第一百條 第一豫備徵員ニシテ十五日間ニ往復スルコト能ハサル地ニ旅行セント欲スル者ハ其往先ヲ詳記シ戶長郡區長ヲ經テ郡區駐在官ニ届出テ然ル後旅行ス可シ但其屆書ニハ旅行中徵集ノ命アルトキハ直ニ之ヲ通牒ス可キ者ノ姓名住所ヲ記入ス可シ

第一百一條 徵兵令第三十二條ニ據リ第二豫備徵員トナル者ハ其年十二月一日ニ至レハ別ニ命ナクシテ第二豫備徵員ニ編入セラレタル者ト心得可シ(同)

第一百二條 補充員服役年期ノ計算ハ現役兵ト同シ十二月一日ヨリ起算シ第一豫備徵員服役年期ノ計算ハ其編入ス可キ年ノ十二月一日ヨリ起算ス可シ但第八十七條ニ當リ第

一豫備員トナル者ハ其入營年ノ四月二十日ヨリ起算ス(同)

第十五章 一年志願兵

第一百三條 徵兵令第十一條ニ據リ一個年間現役ニ服セシコトヲ志願スル者ハ毎年四月一日ヨリ同月十五日迄ニ其願書^{第三十二條}ヲ戶長ニ差出ス可シ戶長ハ之ニ與書證印ヲ郡區長ヲ經テ五月一日限り府縣廳ニ差出シ府縣廳ヨリ之ヲ徵兵署ニ送ル可シ(同)

第一百四條 志願者ハ當分ノ内各自ノ志望ニ由リ步兵看護卒及ヒ看馬卒ノ内ニ就キ其種類ヲ撰ヒ出願スルコトヲ得

第一百五條 食料被服等ノ自辨金ハ一名金壹百圓ニシテ其現品ハ官ヨリ之ヲ支給ス但自辨金ハ九月一日迄ニ府縣廳ヲ經テ領臺ニ納ム可シ(同)

第十六條 志願兵入營前ノ扱ハ總テ現役當籤者ト異ナルコトナシ

第十七條 志願兵入營前ノ扱ハ總テ現役當籤者ト異ナルコトナシ

第十八條 志願兵入營前ノ扱ハ總テ現役當籤者ト異ナルコトナシ

第十九條 志願兵中品行方正勤務勉勵ニシテ技藝ニ熟達シ下士ノ任ニ堪フ可キ者ニハ其適任證書ヲ付與ス可シ

兵事

又教育上拔群ノ結果ヲ得タル者ハ豫備役下士ニ任シ士官適任證書ヲ付與ス可シ
第一百十條 志願兵検査所往復及ヒ入營歸郷ノ旅費ハ總テ自辨トス

第十六章 臨時徵兵事務

第一百十一條 戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキハ左ニ掲クル項目ノ順序ニ從ヒ徵集スヘシ

- 一 徵兵令第四十條ノ事故止ミタル者
- 二 補充員
- 三 第一豫備徵員

四 徵兵令第十七條ニ當リ徵集ヲ猶豫セシ者

五 第二豫備徵員

第一百十二條 豫備徵員ハ年次ヲ逐ヒ服役日尙淺キ者ヨリ當籤番號ノ順序ニ從ヒ之ヲ徵集シ又徵兵令第十七條ニ當リ徵集ヲ猶豫セシ者ハ項目及ヒ當籤番號ノ順序ニ從ヒ之ヲ徵集ス

第一百十三條 第一百十一條第二項第三項ニ掲クル者ヲ徵集スルノ手續ハ平常補充員ヲ徵集スルニ同シ

第一百十四條 第一百十一條第四項第五項ニ掲クル者ヲ徵集スルトキハ府縣廳ニ於テ臨時徵兵署ヲ設ケ徵集ノ準備ヲ爲ス可シ

第一百十五條 臨時徵兵所ニ於テハ検査所并ニ巡回日割ヲ定メ後備軍司令官及ヒ府知事縣

令ニ開申ス可シ但府縣廳ニ於テハ戶長ヲシテ壯丁ヲ引繼メ指定ノ日時場所ニ出頭セシム可シ

第一百十六條 検査所巡行ノ諸員ハ府縣駐在官醫官府縣兵事課長地方醫員及ヒ筆生トス但郡區長郡區駐在官ハ検査所ニ出頭シ同所ノ事務ヲ補助ス可シ

第一百十七條 身體検査竣ルノ後府縣駐在官ハ臨時徵兵署ニ於テ府知事縣令ト商議シ徵兵令第十七條ニ當ル者ハ各項目ニ番號ヲ分チ第二豫備徵員ハ各年度ニ番號ヲ分チ抽籤ヲ施行ス可シ

第一百十八條 一府縣ノ臨時徵兵事務全ク竣ルノ後府縣駐在官ハ人別表検査表ヲ點檢シ兵種及ヒ部類ヲ分チ人別表ハ臨時徵員明細名簿トシ検査表ハ臨時徵員検査名簿トシ籤簿ト共ニ營所後備軍司令官ニ差出シ該官ハ之ヲ一師管ニ取繼メ兵種ヲ分チ人員表ヲ製シ名簿ト共ニ鎮臺後備軍司令官ヲ經テ鎮臺司令官ニ差出シ鎮臺司令官ハ其軍管人員表ヲ製シ之ヲ陸軍省ニ開申ス可シ

第一百十九條 臨時徵兵事務ハ本章ニ掲クル諸條ヲ除クノ外定期徵兵事務ニ準シ便宜處分ス可シ

第一百二十條 國民兵ヲ徵集スルノ方法ハ別ニ之ヲ定ム

第十七章 雜則

第一百二十一條 徵兵令第十條ニ據リ現役志願ノ者ハ其願書第二十ニ戶長郡區長ノ與書証印ヲ受ケ徵兵検査所ニ出頭ス可シ但検査所ニ往復ノ旅費ハ合格者ニ限り官給ス

第二百二十二條 徵兵令第十七條第十八條第一項乃至第三項及第十九條ニ當ル者年齢滿二十七歳以下ニシテ現役ヲ志願スルトキハ前條ノ手續ヲ以テ徵兵検査所ニ出願ス可シ但旅費ハ前條ニ同シ

第二百二十三條 徵兵令第十一條及ヒ第十八條第二項ノ卒業証書ハ學期二個年以上ノ學校ニ於テ二個年以上ノ課程ヲ卒リタル証書ニ限ル

第二百二十四條 徵兵令第十七條ニ當ル者ヲ徵集スルトキハ其項目ノ順序ニ從フ可シ

第二百二十五條 徵兵令第十七條第一項及ヒ第二項ノ兄弟ハ同戶籍中ノ實兄弟ニ限ル

第二百二十六條 徵兵令第十七條第一項ノ兄弟同時徵集ニ當リ検査ノ上共ニ合格スルトキハ情願ニ據リ一人ヲ猶豫ス可シ

前項ノ者他府縣ニ寄留シ該地ニ於テ検査ヲ受ケント欲スルトキハ各自届出ヲ爲ス年ノ三月十五日迄ニ其旨ヲ寄留地戶長ニ願出本籍戶長ニ届出可シ(同)

第二百二十七條 武官并ニ陸海軍生徒ノ兄弟ハ徵兵令第十七條第一項第二項ニ據ルノ限ニ在ラス

第二百二十八條 豫備兵後備兵召集中死没又ハ公務ノ爲メ負傷若クハ疾病ニ罹リ免役シタル者ノ兄弟徵集ニ當ルトキハ徵兵令第十七條第二項ニ據リ徵集猶豫ニ屬ス可シ

第二百二十九條 徵兵令第十七條第一項ノ現役兵ノ兄或ハ弟一人ハ徵集ヲ猶豫スヘント雖モ現役中ノ者其年(四月)現役滿期或ハ脱走中又ハ歸營償勸中ナルトキハ徵集ニ應ス可シ(同削除)

第三百十條 徵兵令第十七條第十八條第十九條及ヒ第二十一條ニ當リタル者七個年間に其資格ヲ失ヒタルトキハ徵集スト雖モ更ニ徵兵令第十七條及ヒ第十八條第七項ニ當ル者并ニ陸海軍生徒トナル者ハ徵集猶豫ニ屬ス可シ

第三百十一條 各自届出後即チ四月十六日以後ニ於テ徵兵令第十八條第一項第二項第三項第四項陸海軍生徒ヲ除ク第十九條及ヒ第二十一條ニ當ルモ徵集猶豫ノ限ニ在ラスト雖トモ其年十一月二十一日以後四月十五日迄ニ該條項ノ名稱ヲ得タル者ハ徵集猶豫ニ屬ス可シ(同上改正)

第三百十二條 徵兵令第十八條第三項ノ生徒コシテ二箇年以上ノ課程ヲ卒リタル者ハ同令第三十一條ニ據リ第一豫備徵員ニ編入ス可キヲ以テ徵兵検査時限ニ至レハ補區長ヨリ其學校ニ通牒シ最寄ノ徵兵検査所ニ出頭セシメ身體ノ検査ヲ受ケシム可シ

第三百十三條 徵兵令第十八條第三項ニ掲ケタル官立大學校ニ準スル官立學校ハ左ノ如シ

- 一 高等師範學校(同)
- 二 東京農林學校(同)
- 三 札幌農學校(同)

第三百十四條 徵兵令第十八條第一項第二項第三項第四項第十九條第二十條第五項及ヒ第二十一條ニ當ル者其事故止ミタルトキハ學校長若クハ所屬長ヨリ本人所管ノ府縣廳ニ通牒ス可シ

兵事

第三百三十五條 徵兵令第十九條ニ掲クル修業一箇年以上ノ課程ヲ卒リタル生徒トハ該校ニ於テ其課程ヲ卒リタル者ノミニ限ラス他ノ學校ヨリ入學シ一箇年以上ノ課程ヲ卒リタル生徒ニ編入セラレタル者亦該條ニ據リ徵集猶豫ニ屬ス可シ

第三百三十六條 官吏以上及ヒ戸長ハ徵兵令第二十條第一項ニ據リ召集ヲ猶豫スト雖モ准官吏ハ該條項ニ據リ召集ヲ猶豫スルノ限ニ在ラス

第三百三十七條 附籍戸主及ヒ其嗣子或ハ承祖ノ孫ハ徵兵令第二十二條第一項ニ據リ徵集スト雖モ其戸主徵兵各自届出期限即チ四月十五日以前ニ一戸ヲ設立スルトキハ徵兵令第十七條第三項及ヒ第五項ニ據リ徵集猶豫ニ屬ス可シ但分家シ又ハ絶家若クハ廢家ヲ再興シタル戸主ニシテ更ニ附籍シタル後別ニ一戸ヲ設立スルモ本條ノ限ニ在ラス(同)

第三百三十八條 徵兵令第二十二條第四項ノ嗣子或ハ承祖ノ孫ハ徵集スト雖モ其戸主分家又ハ絶家廢家再興後廢疾不具等トナリ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルトキ又ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ徵集刑ニ處セラレタルトキハ徵集猶豫ニ屬ス可シ

第三百三十九條 徵兵令第二十二條第二項ノ嗣子或ハ承祖ノ孫ハ徵集スト雖モ各自届出チ爲ス年ノ四月十五日迄ニ前嗣子承祖ノ孫若クハ相續人同戸籍中ノ者廢疾又ハ不具等トナリ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサル者ニ齊シキトキ又ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ徵集猶豫ニ屬ス可シ(同)

第四百十條 徵兵令第二十二條第二項ニ當ル嗣子或ハ承祖ノ孫ニシテ其第六項ニ據リ戸主トナリタル者及ヒ其第七項ノ戸主ハ徵集スト雖モ其徵集ニ應ス可キ年ノ十二月迄ニ

前戸主同戸籍中ノ者已ニ六十歳ニ至ルカ又各自届出チ爲ス年ノ四月十五日迄ニ廢疾又ハ不具等トナリ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサル者ニ齊シキトキ又ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ徵集猶豫ニ屬ス可シ(同)

第四百一十條 徵兵令第十七條第三項第二十二條第三項及ヒ第七項ニ掲クル六十歳又同令第二十二條第五項及ヒ第九項ニ掲クル五箇年ハ徵集ニ應ス可キ年ノ十二月ヲ以テ分界ト爲ス可シ(同)

第四百十二條 徵兵令第十八條第五項第六項ニ當ル者ハ事故ノ存スル間徵集猶豫ニ屬スト雖モ毎年検査所ニ出頭シ身體ノ検査ヲ受ク可シ

第四百十三條 徵兵検査呼出又ハ入營ニ際スルトキハ民事訴訟ノ爲メ裁判所ノ召喚アリト雖モ検査又ハ入營日時ヲ延期セズ

第四百十四條 戰時若クハ事變ニ際シテハ第八十條第八十五條但書及ヒ第八十九條ニ當ル事故生スト雖モ詮議ニ及ハス

第四百十五條 徵兵令第十七條第四項及ヒ同令第二十二條ノ諸項ニ當ル廢疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサル者ハ徵兵検査所ニ呼出シ検査ス可シ但起居自在ナラサル疾患ニシテ車駕等ヲ用フルモ出頭スル能ハサル者ハ府縣駐在官醫官及ヒ府縣兵事課長其家ニ就キ検査スルコトアル可シ

第四百十六條 前條ノ者他府縣ニ寄留シ該地ニ於テ検査ヲ受ケント欲スルキハ適齡者ノ各自届出チ爲ス年ノ四月十五日迄ニ其官ヲ寄留地戸長ニ願出本籍戸長ニ届出可シ(同)

兵事

第四百十七條 徵兵署閉鎖後徵兵令第三十六條ニ當ル者ハ翌年之ヲ徵集ス可シ
第四百十八條 徵兵令第四十一條ニ當ル者其年疾病或ハ犯罪等ニテ期限ニ際シ入營スル
コト能ハスシテ翌年四月一日ニ至ルモ事故尙止マサルモノハ更ニ檢査ヲ遂ケ仍ホ先入
兵トシテ徵集ス可シ(同)

第四百十九條 徵兵令第四十一條ニ當ル者ニシテ爾後同令第十七條第十八條 第四項第五
項第九及ヒ第十九條ニ該當スト雖モ徵集猶豫ノ限ニ在ラス

第五百十條 徵兵既行ノ地在籍ノ者ニシテ沖繩縣及北海道ノ内徵兵未行ノ地ニ轉籍シ更
ニ他ノ府縣ニ寄留スル者ハ寄留地ニ於テ各自届出ヲ爲シ其本籍ノ者ト同シク徵集ニ應
ス可シ

徵兵未行ノ地ニ單身寄留ノ者ハ本籍地ニ歸リ徵集ニ應ス可シト雖モ全戸寄留ノ者ハ徵
集猶豫ニ屬ス可シ

第五百十一條 徵兵令第三十四條第三十五條第三十六條第三十九條ノ届出ヲ怠リ又ハ兵
役ヲ免レンカ爲メ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヒ又ハ逃亡潛匿シタ
ル者又ハ正當ノ故ナク檢査所ニ參會セサル者アルトキハ普通治罪法ノ手續ニ據リ之ヲ
告發ス可シ

第五百十二條 徵兵器又ハ徵兵檢査所ニ差出ス可キ願書ハ三通届書ハ二通兵徵署宛ニテ差
出ス可シ

第十八章

附則

第五百十三條 明治十四年一月ヨリ明治十六年十二月迄ニ滿二十歳トナリタル者ニシテ
舊徵兵令第二十八條ニ當リ國民軍ノ外免役ニ屬スル者新徵兵令ニ照シ常備年期ノ第七
年檢査時限内ニ在テ名稱ヲ罷メタルトキハ更ニ徵集ニ應セシメ其第七年檢査時限ヲ經
過スル者ハ舊徵兵令ニテ處分セシ儘之ヲ名簿ニ据ヘ置ク可シ

第五百十四條 明治十四年一月ヨリ明治十六年十二月迄ニ滿二十歳トナリタル者ニシテ
舊徵兵令第二十九條第三十條第三十一條及ヒ第三十四條ニ當リ平時免役又ハ徵集猶豫
ニ屬スル者新徵兵令ニ照シ常備年期ノ第七年檢査時限内ニ在テ名稱ヲ罷メタルトキハ
更ニ徵集ニ應セシメ其第七年檢査時限ヲ經過スル者ハ新徵兵令第三十二條ニ據リ第二
豫備徵員ト爲ス可シ

第五百十五條 現今豫備兵服役中ノ者ハ最初豫備軍ニ編入セシ年ノ四月二十日ヨリ起算
シ四箇年ノ役ニ服セシメ滿期ノ後後備兵役ニ服セシム但定期ニ在ラスシテ臨時豫備軍
ニ編入セシ者ハ其編入セシ日ヨリ起算シ四箇年ノ役ニ服セシメ滿期ノ後後備兵役ニ服
セシム

第五百十六條 現今後備兵服役中ノ者ハ最初後備軍ニ編入セシ年ノ四月二十日ヨリ起算
シ五箇年ノ役ニ服セシメ滿期ノ後國民兵役ニ服セシム但定期ニ在ラスシテ臨時後備軍
ニ編入セシ者ハ其編入セシ日ヨリ起算シ五箇年ノ役ニ服セシメ滿期ノ後國民兵役ニ服
セシム

第五百十七條 舊徵兵令第三十六條ニ據リ第一豫備徵兵服役中ニシテ年齢二十七歳ヲ經

兵事

過セシ者及ヒ現ニ第二豫備徵兵服役中ノ者ハ新徵兵令第三十二條ニ據リ第二豫備徵員ト爲ス可シ

第百五十八條 新徵兵令第二十二條ノ諸項ニ當ル者ト雖モ其事柄ノ明治六年一月十日即チ徵兵令制定以前ニ係ル者ハ該條項ヲ以テ處分スルノ限ニ在ラス

第百五十九條 明治十六年十二月迄ニ年齡滿二十歳トナリタル者ニシテ新徵兵令施行以前徵集洩ノ者ハ抽籤ノ法ヲ用ヒス直ニ現役ニ徵集スヘシ(同)
(舊式畧之)

○嗣子承祖ノ孫徵兵猶豫ニ屬シ常備年期間ニ戸主ノ死亡若クハ退隱跡ヲ繼
キ戸主トナル者取扱方 明治二十年四月 陸軍省訓令甲第三號 府縣(沖繩縣) 北海道廳

徵兵令第十七條第三項第四項ニ當ル嗣子承祖ノ孫ニシテ徵兵猶豫ニ屬シ常備年期間ニ戸主ノ死亡跡若クハ退隱跡ヲ繼キ戸主トナル者ハ同令第三十六條ニ掲クル異動ノ外トシ取扱フヘシ

但舊徵兵令第二十八條第二項第三項第四項第五項及ヒ第二十九條第一項ニ當ル嗣子承祖ノ孫若クハ相續人ニシテ免役ニ屬シ常備年期間ニ戸主ノ死亡跡ヲ繼キ又ハ年齡六十歳以上若クハ癱疾不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレ戸主ヲ罷メタル跡ヲ繼キタル者亦本文ニ同シ

○徵兵令第廿一條ニ適當ノ者徵集猶豫伺出方 明治十七年十月 第八十四號公達

官省院廳府縣

明治十六年^{十二月}第四十六號布告徵兵令第二十一條ニ依リ徵集猶豫伺出ノ節ハ本人履歷并其技術ニ係ル明細書ヲ添フヘシ此旨相違候事

○士官學校教導團生徒檢査合格者ニシテ未ダ入校入團ヲ命セサル以前ニアリテ徵兵檢査又ハ入營ニ際スルトキ取扱方 明治十七年十一月 陸軍省甲第四十六號 府縣(沖繩札幌根室ノ三縣ヲ除ク)

士官學校若クハ教導團生徒檢査合格者ニシテ未ダ入校入團ヲ命セサル以前ニアリテ徵兵檢査又ハ入營ニ際スルトキ尋常徵集者同様可取扱此旨相違候事

但入營以前入校入團ヲ命スルモノハ其校團ヨリ府縣廳ニ照會シ入營迄ニ入校入團ヲ命セサルモノハ其府縣ヨリ其旨ヲ近衛局鎮臺士官學校若クハ教導團ニ通牒シ退テ入校入團之儀其校團ヨリ近衛局鎮臺ニ照會スヘキ儀ト心得ヘシ

○正當ノ事故ナク徵集ニ應セズ若クハ徵集ニ洩レタル者徵集方 明治十八年九月 陸軍省達甲第四十二號 府縣(沖繩札幌根室ノ三縣ヲ除ク)

正當ノ故ナク徵集ニ應セズ若クハ徵集ニ洩レ年齡三十二歳ヲ超過シ發覺ノ者ハ其時々當省ニ經伺ノ上處分致シ來リ候處自今年齡滿四十歳迄ハ經伺ヲ要セズ徵収スヘキ儀ト心得ヘシ此旨相違候事

○徵兵ニ相當ナル者賭博犯ニヨリ處分中ノ者徵兵猶豫方

兵事

明治十七年五月
陸海軍兩省達甲第廿三號 府縣(札幌根室沖繩)三縣ヲ除ク
徵兵ニ相當スル者賭博犯ニ依リ懲罰ヲ受ケ右處分中ハ徵集ヲ猶豫シ又其處分中常備年期ヲ經過スル者ハ年齡滿三十二歳迄第二豫備徵員トスヘキ儀ト可心得此旨相達候事

○郡區長ヨリ名簿送致方 明治十七年九月
陸軍省達甲第三十九號 府縣(沖繩根室札幌ノ三縣ヲ除ク)

徵兵事務條例第二十三條及第三十條ニ據リ郡區長ハ壯丁名簿及壯丁異動名簿ヲ製シ各自届人別表其他書類ト共ニ郡區駐在官ニ送付可致儀ニ候處當分ノ内壯丁名簿壯丁異動名簿ノミ駐在官ニ送致シ該官ニ於テハ其名簿ノ卷末ニ署名押印シ郡區長ニ返付スヘキ儀ト可心得此旨相達候事

●陸軍召集條例 明治十九年十月
陸軍省令甲第三十九號

第一章 總則

- 第一條 陸軍召集條例ハ平戰兩時ノ緩急ニ應シ歸休兵並ニ豫備役後備軍艦員兵員ヲ召集スルノ手續ヲ示スモノナリ
- 第二條 凡ソ召集ハ之ヲ別チテ左ノ六種トス
 - 一 充員召集
 - 二 後備軍召集
 - 三 近衛充員召集
 - 四 近衛後備軍召集

五 演習召集

六 點呼召集

第三條 充員召集ハ戰時若クハ事變ノ緩急ニ應シ一部若クハ全國ノ歸休兵並ニ豫備役艦員兵員ヲ召集スルモノトス

第四條 充員召集ヲ別チテ二種トス戰時若クハ事變ニ際シ團隊ヲ戰時定員ニ充足シ補充隊ヲ編成スルモノヲ第一充員召集トシ戰時若クハ事變ニ際スルモ其方面未ダ戰爭ヲ期セス單ニ警戒ニ止マリ又ハ臨機分遣駐屯等ノ爲メ團隊ヲ戰時定員ニ充足シ補充隊ヲ編成セサルモノヲ第二充員召集トス

第五條 凡ソ充員召集ニ當リ歩兵科ノ歸休兵並ニ豫備役艦員兵員ハ各隊所在地ニ其他ノ歸休兵並ニ豫備役艦員兵員ハ鎮臺下(ハ大坂鎮臺ニ限リ)工兵科ノ歸休兵並ニ豫備役艦員兵員ハ本隊所在地)ニ召集スルモノトス然レトモ左ニ掲グルモノハ本營各部及ヒ各隊所在地ニ召集スヘシ

- 一 本營各部ノ行李及ヒ縱列等ニ要スル輜重兵科ノ歸休兵並ニ豫備役艦員兵員
 - 二 各隊ニ要スル輜重兵科ノ歸休兵並ニ豫備役艦員兵員
 - 三 本營各部及ヒ各隊ニ要スル歸休兵並ニ豫備役ノ看護卒及ヒ醫職工
- 第六條 後備軍召集ハ戰時若クハ事變ノ緩急ニ應シ充員召集ニ次キ一部若クハ全國ノ後備軍艦員兵員ヲ召集ス但驅員ノ召集ハ兵員ノ召集ニ先ツモノトス
- 第七條 凡ソ後備軍召集ニ當リ歩兵科ノ後備軍艦員兵員ハ鎮臺下若クハ營所所在地ニ其

他ノ後備軍艦員兵員ハ總テ鎮臺下ニ召集スルモノトス然レトモ輜重兵科ノ後備軍艦員兵員ハ時宜ニ由リ營所所在地又ハ其他ノ地ニ召集スルコトアルヘシ

第八條 近衛充員召集ハ戰時若クハ事變ノ緩急ニ應シ一部若クハ全國ノ近衛休歸兵並ニ豫備役艦員兵員ヲ召集スルモノトス

第九條 近衛充員召集ハ戰時若クハ事變ニ際シ團隊ヲ戰時定員ニ充足シ補充隊ヲ編成スルモノトス

第十條 凡ソ近衛充員召集ニ當リ近衛歸休兵並ニ豫備役艦員兵員ハ總テ東京若クハ臨時指定ノ地ニ召集スルモノトス但一旦軍管内近衛兵集合地ニ召集シ同地ヨリ東京若クハ臨時指定ノ地ニ引率セシム

第十一條 東京若クハ臨時指定ノ地ニ於テ一部ノ近衛充員ヲ行フトキハ諸隊本屬ノ如何ヲ問ハス該地最寄軍管ヨリ召集シテ之ニ充ツルモノトス但本條一部ノ充員ヲ行フトキハ補充隊ヲ他ノ地ニ於テ編成スルコトアルヘシ

第十二條 近衛後備軍召集ハ戰時若クハ事變ノ緩急ニ應シ近衛充員召集ニ次キ一部若クハ全國ノ近衛後備軍艦員兵員ヲ召集スルモノトス

第十三條 凡ソ近衛後備軍召集ニ當リ近衛後備軍艦員兵員ハ總テ東京ニ召集スルモノトス但一旦軍管内近衛兵集合地ニ召集シ同地ヨリ東京ニ引率セシム

第十四條 演習召集ハ臨時若クハ定時ニ於テ歸休兵並ニ豫備役後備軍艦員兵員ヲ召集スルモノトス

第十五條 臨時演習召集ハ戰時若シクハ事變ニ際シ行フヘキ充員召集又ハ後備軍召集ノ手續ヲ演習スルモノニシテ豫メ時期ヲ定メ之ヲ行ヘ定時演習召集ハ豫メ時期ヲ定メ之ヲ行フモノトス

第十六條 臨時演習召集ハ第二章第三章第四章及ヒ第五章ヲ適用スルモノトス

第十七條 定時演習召集ハ之ヲ別テ豫備役艦員兵員演習召集後備軍演習召集ノ二種トス

第十八條 豫備役艦員兵員定時演習召集ハ歸休兵並ニ豫備役艦員兵員ヲ召集シ團隊ヲ戰時定員ニ充足シ殘餘ノ者ハ召集セサルモノトス但豫備役兵員ハ服役日淺キ者ヨリ番號ノ順序ニ召集スヘシ

第十九條 近衛豫備役艦員兵員定時演習召集ハ東京若クハ臨時指定ノ地ニ於テ之ヲ行フモノトス但一旦軍管内近衛兵集合地ニ召集シ同地ヨリ東京若クハ臨時指定ノ地ニ引率セシム

近衛兵員ハ時宜ニ由リ本人原籍地所管ノ鎮臺ニ於テ鎮臺兵員ト合シ演習召集ヲ行フコトアルヘシ然ルトキハ其召集法歩兵砲兵ニ在テハ各隊充足要員ノ九分一騎工兵ニ在テハ同六分一ノ比ヲ以テ之ヲ召集スヘシ其他ノ扱ハ鎮臺兵員ト異ナルコトナシ但鎮臺兵員ト合シ演習召集ヲ行フトキハ近衛豫備役艦員兵員ハ召集セサルモノトス

第二十條 後備軍定時演習召集ハ後備軍艦員兵員ヲ召集シ聯隊若クハ大隊(常備軍戰時定員)ニ編成シ殘餘ノモノハ召集セサルモノトス但兵員ハ服役日淺キ者ヨリ番號ノ順序ニ召集スヘシ

第二十一條 近衛後備軍定時演習召集ハ本人原籍地所管ノ鎮臺ニ於テ鎮臺後備軍ト合シ

之ヲ行フ者トス其方法ハ第十九條第二項本文ノ例ニ準ス
第二十二條 點呼召集ハ近衛鎮臺ノ豫備役後備役兵員實査ノ爲メ時期ヲ定メ之ヲ召集スルモノトス

第二十三條 點呼召集ハ郡區駐在官其管轄郡區ヲ巡回シ兵員ノ概チ一日間ニ往復ヲ爲シ得ヘキ里程内ニ於テ之ヲ行フモノトス

第二十四條 凡ソ召集ハ定時演習及ヒ點呼召集ヲ除クノ外發令後決シテ訓示ヲ仰クヘカラス故ニ陸軍諸官廳ハ勿論地方廳ニ於テ豫メ諸官ノ擔任スヘキ細務ヲ規定シ置クヘシ

第二章 充員召集

一 第一充員召集

第二十五條 鎮臺司令官ハ第一充員召集ノ令アルトキハ之ヲ營所司令官鎮臺後備軍司令官衛戍司令官其他直屬ノ各團隊各部長ニ達シ又同時ニ憲兵本部長(憲兵分遣隊ニ在テハ分遣隊長以下憲兵本部長トアル者皆同シ)北海道廳長官府縣知事並ニ警視總官及ヒ大審院長控訴院長檢察長始審裁判所長檢察長(上席ノ者)ニ通知スヘシ但營所司令官所在ノ師管ニ在テハ同司令官本條ノ取扱ヲ爲スヘシ

第二十六條 鎮臺營所後備軍司令官ハ第一充員召集ノ令ニ從ヒ之ヲ府縣駐在官ニ達シ同官ハ郡區駐在官ニ達スヘシ

第二十七條 郡區駐在官ハ前條ノ達ニ從ヒ召集ニ應スヘキ豫備役兵員ノ召集令狀(第一様式)中ニ年月日ヲ記シ飛信若クハ豫定ノ脚夫ヲ以テ郡區長ニ送付スヘシ

第二十八條 憲兵本部長ハ第二十五條ノ通知ニ從ヒ憲兵ヲシテ左ノ件々ヲ執行セシムヘシ但憲兵部ノ設ケナキ地ハ警察官吏專ラ之ヲ擔任シ憲兵部ノ設ケアル地ノ警察官吏ハ

憲兵部ノ職務ヲ補助スヘキ者トス

- 一 郡區駐在所郡區役所若クハ戶長役場ニ就キ召集ニ應スヘキ者ノ人名ヲ承知シ各自ノ家ニ到リ遲滞ナク發程セシヤ否ヲ調査シ若シ故ナク猶豫スル者アルトキハ速ニ發途ヲ督促スヘシ
- 二 召集ニ應スヘキ驅員兵員通行ノ沿道宿驛ニ在テハ其宿泊スヘキ軍用旅舎ヲ定メ晝間ハ標旗(第二様式)夜間ハ標燈(第二様式)ヲ掲ケシムヘシ
- 三 河川港灣停車場等ノ要地ニハ出張シテ其通行ヲ容易ナラシムヘシ
- 四 其筋ノ通知ニ從ヒ失踪逃亡者ヲ搜索シ或ハ違令者ヲ拘留シ口供ヲ作り之ヲ召集地ニ引致シ若クハ遞送スヘシ

第二十九條 警視總監ハ第二十五條ノ通知ニ從ヒ之ヲ警察署長ニ達シ又北海道廳長官府

縣知事ハ同條ノ通知ニ從ヒ之ヲ郡區長及ヒ警察署長ニ達スヘシ

第三十條 郡區長ハ前條ノ達ニ從ヒ飛信若クハ豫定ノ脚夫ヲ以テ之ヲ戶長ニ達シ併セテ驅員兵員ノ召集旅費ヲ下付シ又第二十七條ノ郡區駐在官ヨリ送付スル豫備役驅員ノ召集令狀ハ豫定ノ脚夫ヲ以テ之ヲ各自ニ配達スヘシ但本條ノ旅費ハ召集發令ノ際直ニ郡區署ノ金庫國庫金取扱所或ハ同出張場又ハ現金支拂所ヨリ郡區役所ニ送付スルヲ以テ領收証ト引換現金ヲ受領スヘシ

第三十一條 戶長ハ前條ノ達ニ從ヒ召集ニ應スヘキ歸休兵並ニ豫備役兵員ノ召集令狀中ニ年月日ヲ記シ豫定ノ脚夫ヲ以テ各自ニ配達スヘシ

第三十二條 歸休兵並ニ豫備役兵員既ニ召集令狀ヲ領收スルトキハ二十四時以內ニ戶長役場ニ到リ旅費ヲ受領シ而シテ一日行程十里詰(十里詰ハ最下限ヲ示ス以下十里詰トアルモノ皆同シ)ヲ以テ旅行シ又瀛車瀛船等ノ便アルモノハ里數ニ拘ハラズ之ニ依リ速ニ召集地ニ參着シ參着ノ上ハ鎮臺又ハ營所後備軍司令官若クハ分營所在地ノ府縣駐在官ニ届出ヘシ

第三十三條 鎮臺營所後備軍司令官並ニ分營所在地ノ府縣駐在官ハ第一充員召集ノ發令後速ニ本營各部及ヒ各隊ヨリ充足要員票(第三樣式)ヲ受領スヘシ

第三十四條 府縣駐在官ハ第一充員召集ノ發令後充員名簿ヲ携ヘ速ニ召集地ニ出張スヘシ

第三十五條 各隊長ハ第一充員召集ノ發令後隊中ニ生兵病者犯罪者等アルキハ戰時名簿ヲ添ヘ之ヲ補充隊ニ移スヘシ

第三十六條 各隊長ハ第一充員召集ノ發令後直ニ兵器彈藥被服ヲ各中隊ニ配當シ且補充隊ニ交付スヘシ

第三十七條 豫備役兵員既ニ召集地ニ參着スルトキハ鎮臺營所後備軍司令官ハ各自ノ召集令狀ヲ引揚ケ其人名簿ヲ鎮臺後備軍司令官ハ鎮臺司令官ニ營所後備軍司令官ハ營所司令官ニ申告スヘシ但分營所在地ニ參着スルモノハ同地ノ府縣駐在官各自ノ召集令狀ヲ引揚ケ其人名簿ヲ聯隊長ニ申告スヘシ

第二十八條 歸休兵並ニ豫備役兵員既ニ召集地ニ參着スルトキハ鎮臺營所後備軍司令官ハ府縣駐在官ヲシテ各自ノ召集令狀ヲ引揚ケ手帖ヲ點檢シ歸休兵ハ直チニ本隊ニ歸ラシメ其他ノ兵員ハ充足要員票ニ照シ本營各部及各隊ニ交付シ殘餘ノ人員ハ補充隊ニ交付スヘシ但分營所在地ニ參着スルモノハ同地ノ府縣駐在官本條ノ事務ヲ處辨スヘシ

第二十九條 本營各部及各隊長ハ前條ノ兵員受領ノ後之ニ武器被服ヲ給シ私服ハ各自ノ姓名牌ヲ付シ之ヲ格納スヘシ但本營各部ニ於テハ豫メ武器被服ヲ武庫主管及各隊ヨリ受領シ置ク者トス

第四十條 鎮臺營所後備軍司令官並ニ分營所在地ノ府縣駐在官ハ召集ニ應シタル者ノ戰時名簿ヲ取繼メ之ヲ其所屬ノ本營各部及各隊ニ送付スヘシ

第四十一條 本營各部及各隊ニ於テハ兵員受領ノ後醫官ヲシテ各自ノ身體檢査ヲ爲サシメ現時戰役ニ堪ヘサルモノハ戰時名簿ヲ添ヘ補充隊ニ交付シ又全ク兵役ニ堪ヘサル者ハ同名簿ヲ添ヘ鎮臺又ハ營所後備軍司令官若クハ分營所在地ノ府縣駐在官ニ交付スヘシ但本條ノ兵役ニ堪ヘサル者ハ鎮臺營所後備軍司令官若クハ分營所在地ノ府縣駐在官ヨリ旅費ヲ給シテ歸郷セシムヘシ

第四十二條 召集ニ應スヘキ豫備役兵員疫病其他ノ事故ニテ召集ニ難キトキハ本人又ハ親族ヨリ其實情ヲ詳記シ疾病ノ者ハ陸軍醫官(陸軍醫官不在ノ地ハ最寄地方醫師以下陸軍醫官トアルモノ皆同シ)ノ診斷書ヲ添ヘ準士官以上ハ郡區駐在官及ヒ府縣駐在官ヲ經テ分營所在地ニ參着スヘギモノハ尙ホ同地ノ府縣駐在官ヲ經テ鎮臺又ハ營所

後備軍司令官ニ下士ハ郡區駐在官ヲ經テ府縣駐在官ニ届出ヘシ

第四十三條 召集ニ應スヘキ歸休兵並ニ豫備役兵員疾病犯罪又ハ未踪逃亡等ニテ召集ニ應シ難キ者ハ本人又ハ親族ヨリ疾病ノ者ハ陸軍醫官ノ診斷書ヲ添ヘ其他ノ事故ハ其事由書ニ憲兵部(憲兵部ノ設ケナキ地ハ最寄警察署若クハ巡查派出所以下憲兵部トアルハ皆同シ)ノ証認ヲ受ケ局長ノ與書証印ヲ以テ郡區駐在官ニ届出ヘシ但召集令狀ハ本人又ハ親族ヨリ直ニ局長ニ返付スヘシ

第四十四條 召集ニ應スヘキ豫備役驅馬疾病快癒又ハ事故止ミタルトキハ其旨ヲ第四十二條ノ手續ニ依リ准士官以上ハ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ下士ハ府縣駐在官ニ届出テ然ル後局長役場ニ致リ旅費ヲ受領シ直チニ召集地ニ向ケ發程シ參着ノ上ハ鎮臺又ハ營所後備軍司令官若クハ分營所在地ノ府縣駐在官ニ届出ツヘシ

第四十五條 召集ニ應スヘキ歸休兵並ニ豫備役兵員疾病快癒又ハ事故止ミタルトキハ其旨ヲ第四十三條ノ手續ニ依リ郡區駐在官ニ届出テ然ル後局長役場ニ到リ召集令狀並ニ旅費ヲ受領シ直チニ召集地ニ向ケ發程シ參着ノ上ハ鎮臺又ハ營所後備軍司令官若クハ分營所在地ノ府縣駐在官ニ届出ツヘシ

第四十六條 召集ノ期ニ後ル、モノアルトキハ鎮臺營所後備軍司令官若クハ府縣駐在官ハ其事實ヲ取糺シ懲罰ニ該ルヘキモノハ直チニ之ヲ處分シ其罰文ト共ニ本營各部若クハ各隊長ニ交付シ刑法ニ該ルヘキモノハ陸軍治罪法ニ從ヒ其處分ヲ爲スヘシ但身分ニ依リ懲罰若クハ檢察ノ處分ヲナスコトヲ得サルトキ其懲罰處分ニ係ルモノハ鎮臺後備

軍司令官ハ鎮臺司令官ニ營所後備軍司令官ハ營所司令官ニ府縣駐在官ハ鎮臺又ハ營所

後備軍司令官ニ具狀シ其檢察處分ニ係ルモノハ陸軍治罪法ニ從ヒ處分スヘシ

第四十七條 第四十二條ノ準士官以上ノ届書ハ鎮臺營所後備軍司令官之ヲ審査シ不參人名書ヲ作リ各自姓名ノ頭ニ事由ヲ摘載シ鎮臺後備軍司令官ハ鎮臺司令官ニ營所後備軍

司令官ハ營所司令官ニ差出スヘシ

第四十八條 第四十二條ノ下士ノ届書ハ府縣駐在官之ヲ審査シ不參人名書ヲ作リ各自姓名ノ頭ニ事由ヲ摘載シ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ差出シ又第四十三條ノ兵員ノ届書ハ郡區駐在官之ヲ審査シ不參人名書ヲ作リ府縣駐在官ヲ經テ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ差出スヘシ

第四十九條 第一充員召集ノ發令アルトキハ左ニ掲クル官衙公署等ニ於テ速ニ警報(第四十條式)ヲ揭示場(揭示場ナキ箇所ハ公衆ノ最モ注目スヘキ場所)ニ公示スヘシ

- 一 憲兵屯所同分屯所
- 一 警察署同分署巡查派出所
- 一 郡區役所
- 一 局長役場

第五十條 第一充員召集竣ルノ後郡區長ハ召集旅費計算書ニ原證書ヲ添ヘ(殘金アレハ金庫國庫金取扱所或ハ同出張場又ハ現金支拂所ニ返付シ其受領證書ヲ添ヘ)地方廳ヲ經テ鎮臺監督部ニ送付スヘシ

第五十一條 第一充員ノ爲メ召集シタル歸休兵並ニ豫備役驅員兵員ヲ解散セシムルノ手續ハ概テ第六章演習濟解散ノ例ニ準シ之ヲ行ヘシ

二 第二充員召集

第五十二條 第二充員召集ノトキハ第二十五條ヨリ第三十四條ニ至ル諸條及ヒ第三十六條ヨリ第五十一條ニ至ル諸條(此諸條中補充隊ニ係ル事項ヲ除ク)ヲ適用スヘシ

第三章 後備軍召集

第五十三條 後備軍驅員兵員既ニ召集令狀ヲ領收スルキハ廿四時以內ニ兵長役場ニ至リ旅費ヲ受領シ而シテ一日行程十里詰ヲ以テ旅行シ又瀛車瀛船等ノ便アルモノハ里數ニ拘ラス之ニ依リ速ニ召集地ニ參着シ參着ノ上ハ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ届出ヘシ

第五十四條 府縣駐在官ハ後備役兵召集ノ發令後召集名簿ヲ携ヘ速ニ召集地ニ出張スヘシ

第五十五條 後備軍各隊長ハ後備役兵召集ノ發令後武庫主管及ヒ鎮臺又ハ營所後備軍司令部ヨリ兵器彈藥被服ヲ受領シ之ヲ各中隊ニ配當スヘシ

第五十六條 後備役兵員既ニ召集地ニ參着スルトキハ鎮臺營所後備軍司令官ハ府縣駐在官ヲシテ各自ノ召集令狀ヲ引揚ケ手帖ヲ點檢セシメ其兵員ヲ各部各隊ニ交付スヘシ

第五十七條 各部各隊長ハ前條ノ兵員受領ノ後之ニ武器被服ヲ給シ私服ハ各自ノ姓名牌ヲ付シ之ヲ鎮臺又ハ營所後備軍司令部ニ送付スヘシ但各部ニ於テハ豫メ武器ヲ武庫主管ヨリ受領シ置クモノトス

第五十八條 召集ニ應スヘキ後備軍驅員疾病其他ノ事故ニテ召集ニ應シ難キトキハ本人

又ハ親族ヨリ其事實ヲ詳記シ疾病ノ者ハ陸軍醫官ノ診斷書ヲ添ヘ準士官以上ハ郡區駐在官及ヒ府縣駐在官ヲ經テ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ下士ハ郡區駐在官ヲ經テ府縣駐在官ニ届出ヘシ

第五十九條 召集ニ應スヘキ後備役兵員疾病犯罪又ハ失踪逃亡等ニテ召集ニ應シ難キトキハ本人又ハ親族ヨリ疾病ノ者ハ陸軍醫官ノ診斷書ヲ添ヘ其他ノ事故ハ其事由書ニ憲兵部ノ証認ヲ受ケ兵長ノ與書證印ヲ以テ郡區駐在官ニ届出スヘシ但召集令狀ハ本人又ハ親族ヨリ直チニ兵長ニ返付スヘシ

第六十條 召集ニ應スヘキ後備軍驅員疾病快癒又ハ事故止ミタルトキハ其旨ヲ第五十八條ノ手續ニヨリ準士官以上ハ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ下士ハ府縣駐在官ニ届出テ然ル後兵長役場ニ到リ旅費ヲ受領シ直ニ召集地ニ向ケ發程シ參着ノ上ハ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ届出ヘシ

第六十一條 召集ニ應スヘキ後備役兵員疾病快癒又ハ事故止ミタルトキハ其旨ヲ第五十九條ノ手續ニヨリ郡區駐在官ニ届出テ然ル後兵長役場ニ到リ召集令狀並ニ旅費ヲ受領シ直ニ召集地ニ向ケ發程シ參着ノ上ハ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ届出ヘシ

第六十二條 後備軍召集ノトキハ第廿五條ヨリ第卅一條ニ至ル諸條第卅七條第四十條第四十一條(補充隊ニ係ル事故ヲ除ク)及第四十六條ヨリ第五十一條ニ至ル諸條ヲ適用スヘシ

第四章 近衛充員召集

第六十三條 近衛歸休兵並ニ豫備役驅員兵員既ニ召集令狀ヲ領收スルトキハ兵長役場ニ

兵事

到リ旅費ヲ受領シ其令狀ニ記載スル參集期日ニ其場所ニ參着シ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ届出ヘシ

第六十四條 近衛充員召集ノ發令アルトキハ近衛ニ於テハ近衛歸休兵並ニ豫備役兵員ヲ引率ノ爲メ士官下士若干名ヲ各軍管近衛兵集合地ニ出張セシムヘシ但時宜ニ由リ近衛豫備役驅員ヲ引率セシムルコトアルヘシ

近衛兵集合地ヨリ東京若クハ臨時指定ノ地ニ至ル驅員兵員ノ旅費金ハ近衛ニ於テ出張ノ士官下士若クハ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ交付スヘシ

第六十五條 近衛豫備役驅員既ニ近衛兵集合地ニ參着スルトキハ鎮臺營所後備軍司令官ハ各自ノ召集令狀ヲ點檢シ然ル後東京若クハ臨時指定ノ地ニ向ケ發程セシメ戰時名簿ハ之ヲ近衛副官(臨時指定ノ地ニ在テハ出張ノ近衛副官部官員以下近衛副官トアルモノ皆同シ)ニ送付スヘシ

第六十六條 近衛歸休兵並ニ豫備役兵員既ニ近衛兵集合地ニ參着スルトキハ鎮臺營所後備軍司令官ハ後備軍副官若クハ其地ノ府縣駐在官ヲシテ各自ノ召集令狀及ヒ手帖ヲ點檢セシメ然ル後戰時名簿ト共ニ之ヲ出張ノ近衛士官又ハ下士若クハ引率ノ近衛豫備役驅員ニ交付スヘシ

第六十七條 近衛副官ハ近衛充員召集ノ發令後速ニ本營各部及ヒ各隊ヨリ充足要員票ヲ受領スヘシ

第六十八條 近衛各隊長ハ近衛充員召集ノ發令後隊中生兵病者犯罪者等アルトキハ戰時

名簿ヲ添ヘ速ニ之ヲ補充隊ニ移スヘシ但補充隊編成ノ地本隊所在地ト異ナルトキハ先ツ近衛副官部ニ交付シ同部ヨリ補充隊ニ交付スヘシ

第六十九條 近衛各隊長ハ近衛充員召集ノ發令後直ニ兵器彈藥被服ヲ各中隊ニ配當シ且補充隊ニ交付シ又東京外ノ地ニ於テ充員ヲ行フトキハ之ヲ該地ニ輸送シ其手續ヲ爲スヘシ但補充隊編成ノ地本隊所在地ト異ナルトキ其補充隊ニ交付スヘキ武器被服等ハ近衛副官部ニ交付シ同部ヨリ補充隊ニ交付スヘシ

第七十條 近衛歸休兵並ニ豫備役驅員兵員既ニ近衛兵集合地ヨリ東京若クハ臨時指定ノ地ニ參着スルトキハ近衛副官ハ各自ノ召集令狀ヲ引揚ケ驅員ハ其人名ヲ都督若クハ部隊ヲ統轄スル長官ニ申告シ兵員ハ其手帖ヲ點檢シ充足要員票ニ照シ本營各部及各隊ニ交付シ殘餘ノ人員ハ補充隊ニ交付スヘシ但補充隊編成ノ地本隊所在地ト異ナル場合ニ在テ殘餘ノ兵員アルトキハ出張ノ近衛副官部官員其旨ヲ部隊ヲ統轄スル長官ニ申告スヘシ

第七十一條 本營各部及各隊長ハ前條ノ兵員受領ノ後之ニ武器被服ヲ給シ私服ハ各自ノ姓名牌ヲ付シ之ヲ格納シ又東京外ノ地ニ於テ充員ヲ行フトキハ私服ハ出張ノ近衛副官部官員ニ交付スヘシ但本營各部ニ於テハ豫メ武器被服ヲ近衛武庫主管及ヒ近衛各隊ヨリ受領シ置ク者トス

第七十二條 近衛副官ハ召集ニ應シタル者ノ戰時名簿ヲ取纏メ之ヲ其所屬ノ本營各部及各隊ニ送付スヘシ

第七十三條 本營各部及各隊ニ於テハ兵員受領ノ後醫官ヲシテ各自ノ身體検査ヲ爲サシメ現時戰役ニ堪ヘサル者ハ戰時名簿ヲ添ヘ補充隊ニ交付シ又全ク兵役ニ堪ヘサル者ハ同名簿ヲ添ヘ近衛副官ニ交付シ同官ハ之ニ旅費ヲ給シテ歸郷セシムヘシ但補充隊編成ノ地本隊所在地ト異ナル場合ニ在テ本場ノ現時戰役ニ堪ヘサル者ハ先ツ出張ノ近衛副官部官員ニ交付シ同官員ヨリ補充隊ニ交付スヘシ

第七十四條 召集ニ應スヘキ近衛豫備役驅員疾病其他ノ事故ニテ召集ニ應シ難キ時ハ本人又ハ親族ヨリ其實ヲ詳記シ疾病ノ者ハ陸軍醫官ノ診斷書ヲ添ヘ準士官以上ハ郡區駐在官及府縣駐在官ヲ經テ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ下士ハ郡區駐在官ヲ經テ府縣駐在官ニ届出ヘシ

第七十五條 召集ニ應スヘキ近衛歸休兵並ニ豫備役兵員疾病犯罪又ハ失踪逃亡等ニテ召集ニ應シ難キ時ハ本人又ハ親族ヨリ疾病ノ者ハ陸軍醫官ノ診斷書ヲ添ヘ其他ノ事故ハ其事由書ニ憲兵部ノ確認ヲ受ケ兵長ノ與書証印ヲ以テ郡區駐在官ニ届出ヘシ但召集令狀ハ本人又ハ親族ヨリ直ニ兵長ニ返付スヘシ

第七十六條 召集ニ應スヘキ近衛豫備役驅員疾病快癒又ハ事故止ミタルトキハ其旨ヲ第七十四條ノ手續ニ據リ準士官以上ハ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ下士ハ府縣駐在官ニ届出テ然ル後兵長役場ニ到リ旅費ヲ受領シ直ニ近衛兵集合地ニ向ケ發程シ參着ノ上ハ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ届出ヘシ

第七十七條 召集ニ應スヘキ近衛歸休兵並ニ豫備役兵員疾病快癒又ハ事故止ミタルトキ

ハ其旨ヲ第七十五條ノ手續ニ據リ郡區駐在官ニ届出テ然ル後兵長役場ニ到リ召集令狀並ニ旅費ヲ受領シ直ニ近衛兵集合地ニ向ケ發程シ參着ノ上ハ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ届出ヘシ

第七十八條 第七十六條及ヒ第七十七條ニ當ル者既ニ近衛兵集合地ニ參着スルトキハ鎮臺營所後備軍司令官ハ第六十五條及ヒ第六十六條ノ例ニ準シ取扱フヘシ但本條ノ場合ニ在テハ兵員ト雖モ單行セシムルヲ得

第七十九條 召集ノ期ニ後ル、者アルトキハ鎮臺營所後備軍司令官ハ第四十六條ノ例ニ準シ之ヲ處分スヘシ但懲罰處分ノ者ハ其罰文ヲ近衛副官ニ送付スヘシ

第八十條 第七十四條ノ準士官以上ノ届書ハ鎮臺營所後備軍司令官之ヲ審査シ不參人名書ヲ作り各自姓名ノ頭ニ事由ヲ摘載シ近衛副官ニ送付シ同官ハ之ヲ都督ニ差出スヘシ

第八十一條 第七十四條ノ下士ノ届書ハ府縣駐在官之ヲ審査シ不參人名書ヲ作り各自姓名ノ頭ニ事由ヲ摘載シ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ヲ經テ近衛副官ニ送付シ又第七十五條兵員ノ届書ハ郡區駐在官之ヲ審査シ不參人名書ヲ作り府縣駐在官ヲ經テ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ差出スヘシ但兵員不參ノ人員ハ鎮臺營所後備軍司令官ヨリ近衛副官ニ通知スヘシ

第八十二條 近衛充員召集竣ルノ後郡區長ハ召集旅費計算書ニ原証書ヲ添ヘ(殘金アレハ金庫國庫金取扱所或ハ同出張場又ハ現金支拂所ニ返付シ其受領証書ヲ添ヘ)地方廳ヲ經テ近衛監督部ニ返付スヘシ

第八十三條 近衛充員召集ノトキハ第二十五條ヨリ第三十一條ニ至ル諸條第四十九條及
ヒ第五十一條ヲ適用スヘシ

第五章 近衛後備軍召集

第八十四條 近衛後備軍驅員兵員既ニ召集令狀ヲ領收スルトキハ戸長役場ニ到リ旅費ヲ
受領シ其令狀ニ記載スル參集期日ニ其場所ニ參着シ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ届出
ヘシ

第八十五條 近衛後備各隊長ハ近衛後備役兵召集ノ發令後近衛武庫主管及ヒ同副官部ヨ
リ兵器彈藥被服ヲ受領シ之ヲ各中隊ニ配當スヘシ

第八十六條 近衛後備軍驅員兵員既ニ近衛兵集合地ヨリ東京ニ參着スルトキハ近衛副官
ハ各自ノ召集令狀ヲ引揚ケ驅員ハ其人名ヲ都督ニ申告シ兵員ハ其手帖ヲ點檢シ各部
隊ニ交付スヘシ

第八十七條 各部各隊長ハ前條ノ兵員受領ノ後之ニ武器被服ヲ給シ私服ハ各自ノ姓名牌
ヲ付シ之ヲ近衛副官部ニ送付スヘシ但各部ニ於テハ豫メ武器ヲ近衛武庫主管ヨリ受領
シ置クモノトス

第八十八條 召集ニ應スヘキ近衛後備軍驅員疾病其他ノ事故ニテ召集ニ應シ難キトキハ
本人又ハ親族ヨリ其實情ヲ詳記シ疾病ノ者ハ陸軍醫官ノ診斷書ヲ添ヘ準士官以上ハ郡
區駐在官及ヒ府縣駐在官ヲ經テ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ下士ハ郡區駐在官ヲ經テ
府縣駐在官ニ届出ヘシ

第八十九條 召集ニ應スヘキ近衛後備役兵員疾病犯罪又ハ失踪逃亡等ニテ召集ニ應シ難

キトキハ本人又ハ親族ヨリ疾病ノ者ハ陸軍醫官ノ診斷書ヲ添ヘ其他ノ事故ハ其事由書
ニ憲兵部ノ證認ヲ受ケ戸長ノ與書証印ヲ以テ郡區駐在官ニ届出ヘシ但召集令狀ハ本人
又ハ親族ヨリ直ニ戸長ニ返付スヘシ

第九十條 召集ニ應スヘキ近衛後備軍驅員疾病快癒又ハ事故止ミタルトキハ其旨ヲ第八
十八條ノ手續ニ據リ準士官以上ハ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ下士ハ府縣駐在官ニ届
出テ然ル後戸長役場ニ到リ旅費ヲ受領シ直ニ近衛兵集合地ニ向ケ發程シ參着ノ上ハ鎮
臺又ハ營所後備軍司令官ニ届出ヘシ

第九十一條 召集ニ應スヘキ近衛後備役兵員疾病快癒又ハ事故止ミタルトキハ其旨ヲ第
八十九條ノ手續ニ據リ郡區駐在官ニ届出テ然ル後戸長役場ニ到リ召集令狀並ニ旅費ヲ
受領シ直ニ近衛兵集合地ニ向ケ發程シ參着ノ上ハ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ届出ヘ
シ

第九十二條 近衛後備軍召集ノトキハ第二十五條ヨリ第三十一條ニ至ル諸條第四十九條
第五十一條第六十四條ヨリ第六十六條ニ至ル諸條第七十二條第七十三條(補充隊ニ係
ル事項ヲ除ク)及ヒ第七十八條ヨリ第八十二條ニ至ル諸條ヲ適用スヘシ

第六章 演習召集

一 豫備役驅員兵員演習召集

第九十三條 鎮臺司令官ハ演習召集ヲ行フトキハ之ヲ營所司令官鎮臺後備軍司令官衛戍
司令官其他直屬ノ各團隊長部長ニ達シ又同時ニ憲兵本部長北海道廳長官府縣知事並ニ

警視總監ニ通知スヘシ但營所司令官所在ノ主管ニ在テハ同司令官其取扱ヲ爲スヘシ
 演習召集旅費ハ鎮臺監督部ヨリ地方廳ニ送付スヘシ
 第九十四條 近衛豫備役艦員兵員演習召集ヲ行フトキハ近衛都督ヨリ之レヲ鎮臺司令官ニ通牒シ同官ハ第九十三條ノ例ニ準シ其取扱ヲ爲スヘシ
 第九十五條 鎮臺營所後備軍司令官ハ第九十三條第九十四條ノ達ニ從ヒ之レヲ府縣駐在官ニ達シ同官ハ郡區駐在官ニ達スヘシ
 第九十六條 郡區駐在官ハ前條ノ達ニ從ヒ速カニ召集スヘキ歸休兵並ニ豫備役艦員兵員ノ演習令狀(第五様式)中ニ演習ノ日數參集ノ期日及ヒ場所等ヲ記シ之レヲ郡區長ニ送付スヘシ
 第九十七條 警視總監ハ第九十三條第九十四條ノ通知ニ從ヒ之レヲ警察署長ニ達ス又北海道廳長官府縣知事ハ同條ノ通知ニ從ヒ之レヲ郡區長及ヒ警察署長ニ達スヘシ但シ北海道廳長官府縣知事ハ本條ノ達ト共ニ召集旅費ヲ郡區長ニ送付スヘシ
 第九十八條 郡區長ハ前條ノ達ニ從ヒ之ヲ戶長ニ達シ併セテ艦員兵員ノ召集旅費並ニ兵員ノ令狀ヲ送付シ又艦員ノ令狀ハ之ヲ各自ニ配達スヘシ
 第九十九條 戶長ハ演習召集ノ達ニ從ヒ召集ニ應スヘキ歸休兵豫備役兵員ノ演習令狀ヲ各自ニ配達スヘシ
 第一百條 歸休兵並ニ豫備役艦員兵員既ニ演習令狀ヲ領收スル時ハ戶長役場ニ到リ旅費ヲ受領シ其令狀ニ記載スル參集期日ニ其場所ニ參着シ鎮臺又ハ營所後備軍司令官若クハ

分營所在地ノ府縣駐在官ニ届出ヘシ但近衛歸休兵並ニ豫備役艦員兵員ニシテ東京若クハ臨時指定ノ地ニ召集ノトキハ近衛兵集合地ニ參着シ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ届出ヘシ
 第一百一條 鎮臺營所後備軍司令官若クハ分營所在地ノ府縣駐在官ハ艦員兵員召集地ニ參着前召集ニ應スヘキ歸休兵並ニ豫備役艦員兵員ノ召集人名書ヲ作り之ヲ各部各隊長ニ交付スヘシ但近衛艦員兵員ヲ東京若クハ臨時指定ノ地ニ召集スルトキハ近衛副官ハ豫メ召集要員(艦員ヲ除ク)ヲ算定シ其人員ヲ各鎮臺後備軍司令官ニ通知シ同官ヨリ其人名書ノ送致ヲ受ケ艦員ノ人名書ト共ニ之ヲ近衛各部各隊長ニ交付スヘシ
 第一百二條 府縣駐在官ハ艦員兵員召集地ニ參着前召集名簿ヲ携ヘ同地ニ出張スヘシ但近衛艦員兵員召集ノトキハ此限ニアラス
 第一百三條 豫備役艦員既ニ召集地ニ參着スルトキハ鎮臺營所後備軍司令官若クハ分營所在地ノ府縣駐在官ハ各自ノ演習令狀ヲ引揚ケ其人名ヲ鎮臺後備軍司令官ハ鎮臺司令官ニ營所後備軍司令官ハ營所司令官ニ分營所在地ノ府縣駐在官ハ聯隊長ニ申告スヘシ但近衛艦員ヲ東京若クハ臨時指定ノ地ニ召集スルトキハ近衛兵集合地ニ於テ各自ノ演習令狀ヲ點檢シ然ル后該地ニ向ケ發程セシムヘシ
 第一百四條 歸休兵並ニ豫備役兵員既ニ召集地ニ參着スルトキハ鎮臺營所後備軍司令官(分營所在地ニ在テハ同地ノ府縣駐在官)ハ府縣駐在官ヲシテ各自ノ演習令狀ヲ引揚ケ手帖ヲ點檢シ歸休兵ハ本隊ニ歸ラシメ豫備役兵員ハ之ヲ各部各隊長ニ交付スヘシ但近衛兵

員ヲ東京若クハ臨時指定ノ地ニ召集スルトキハ近衛兵集合地ニ於テ後備軍副官若クハ其地ノ府縣駐在官ヲシテ各自ノ演習令狀及ヒ手帖ヲ點檢セシメ然ル後近衛隊備役驅員若クハ上等兵ヲシテ該地ニ引率セシムヘシ

第百五條 召集ニ應スヘキ豫備役驅員疾病其他ノ事故ニテ召集ニ應シ難キトキハ本人又ハ親族ヨリ其實ヲ詳記シ疾病ノ者ハ陸軍醫官ノ診斷書ヲ添ヘ準士官以上ハ郡區駐在官及ヒ府縣駐在官ヲ經(分營所在地ニ參着スヘキモノハ尙ホ同地ノ府縣駐在官ヲ經)テ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ下士ハ郡區駐在官ヲ經テ府縣駐在官ニ届出ヘシ但近衛隊備役驅員ハ本條ニ準シ鎮臺又ハ營所後備軍司令官若クハ府縣駐在官ニ届出ヘシ

第百六條 召集ニ應スヘキ歸休兵並ニ豫備役兵員疾病犯罪又ハ失踪逃亡等ニテ召集ニ應シ難キトキハ本人又ハ親族ヨリ疾病ノ者ハ陸軍醫官ノ診斷書ヲ添ヘ其他ノ事故ハ其事由書ニ憲兵部ノ証認ヲ受ケ戶長ノ與書証印ヲ以テ郡區駐在官ニ届出ヘシ

第百七條 召集ニ應スヘキ豫備役驅員疾病快癒又ハ事故止ミタルトキハ直ニ戶長役場ニ到リ旅費ヲ受領シ召集地(近衛隊備役驅員ハ近衛兵集合地)ニ向ケ發程スヘシ若シ演習半迄ニ召集地(近衛隊備役驅員ハ東京若クハ臨時指定ノ地)ニ參着シ難キトキハ速ニ其旨ヲ第百五條ノ手續ニ據リ届出テ命ヲ待ツヘシ但出頭ニ及ハサル達ヲ受ケタルトキハ演習令狀ヲ郡區長ニ返付スヘシ

第百八條 召集ニ應スヘキ歸休兵並ニ豫備役兵員疾病快癒又ハ事故止ミタルトキハ直ニ戶長役場ニ到リ旅費ヲ受領シ召集地(近衛隊備役兵員ニシテ東京若クハ臨時指

定ノ地ニ召集スル時ハ近衛兵集合地)ニ向ケ發程スルシ若シ戶長ニ於テ役場ヨリ召集地(近衛隊備役兵員ニシテ東京若クハ臨時指定ノ地ニ召集ノトキハ該地)ノ里程日數ヲ算シ演習半迄ニ參着シ難キ見認ノモノハ發程ヲ差留メ速ニ其旨ヲ郡區駐在官ニ通知シ命ヲ待タシムヘシ但出張ニ及ハサル達ヲ受ケタルトキハ演習令狀ヲ戶長ニ返付スヘシ

第百九條 演習ノ爲メ召集ニ應シタル者ノ旅費ハ地方廳ニ於テ明細決算帳ヲ製シ府縣駐在官ニ移シ同官之ヲ點檢シ冊尾ニ署名押印シ然ル後更ニ地方廳ヨリ鎮臺監督部ニ送付スヘシ但近衛驅員兵員ニ係ル決算帳ハ鎮臺監督部ヨリ近衛監督部ニ送付スヘシ

第百十條 召集ノ驅員兵員解散前ニ方リ鎮臺營所後備軍司令官若クハ分營所在地ノ府縣駐在官ハ各自ノ歸郷旅費ヲ計算スル爲メ解散地ヨリ本人郷里迄ノ里程ヲ調ヘ驅員兵員解散人名簿(第六様式)ヲ作り之ヲ鎮臺監督部ニ移シ監督部ニ於テハ司契部ニ旅費支出ノ命ヲ下シ之ヲ各隊金櫃委員ニ送付セシムヘシ但近衛驅員兵員ヲ東京若クハ臨時指定ノ地ニ召集シタルトキハ近衛副官部及ヒ同監督部並ニ中央司契部ニ於テ本條ニ準シ其取扱ヲ爲スヘシ

第百十一條 各部各隊長ハ兵員解散前ニ於テ武器被服ヲ檢査シ畢テ武器ヲ引揚ケ旅費ヲ給シ歸休兵ハ直ニ歸郷セシメ其他ノ兵員ハ被服ヲ私服ト交換シ解散歸郷セシムヘシ但驅員(下士)解散ノ手續モ概テ本條ニ準シ取扱フモノトス

第百十二條 各部各隊長ハ驅員兵員解散ノ後召集人名簿ニ召集中ノ缺勤罰科等ヲ記シ之

兵事

ヲ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ノ分營所在地ノ府縣駐在官ニ交付スヘシ但近衛驅員兵員ヲ東京若クハ臨時指定ノ地ニ送付スルモハ近衛各部各隊長ヨリ其人名書ヲ近衛副官ニ交付シ同官ヨリ更ニ之ヲ各鎮臺後備軍司令官ニ送付スヘシ

第百十三條 驅員(下士)兵員ノ手帖ニハ各部各隊長ニ於テ其部隊ニ編入セシ年月日缺勤罰科其他給與シタル日給又ハ歸郷ノ旅費金等總テ附録中ニ係ル事件ヲ記入スヘシ

第百十四條 驅員兵員解散ノ際疾病其他ノ事故ニテ同時解散スルコト能ハサル者ハ其人名書ニ私服ヲ添ヘ之ヲ鎮臺又ハ營所後備軍司令官若クハ分營所在地ノ府縣駐在官ニ交付スヘシ但近衛驅員兵員ヲ東京若クハ臨時指定ノ地ニ召集シタルトキハ近衛各部各隊長ヨリ其人名書ニ私服ヲ添ヘ近衛副官ニ交付シ同官ヨリ更ニ其人名ノミ各鎮臺後備軍司令官ニ通知スヘシ

第百十五條 驅員兵員解散ノトキ輕重營倉罰期中ノ者ニシテ監獄ノ監倉ニ錮スヘキ者ハ罰文ト共ニ之ヲ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ交付シ又分營ニ在テハ其地ノ營倉ニ錮シ置キ其人ノ名ヲ同地ノ府縣駐在官ニ通知シ滿罰ノ上同官ニ交付スヘシ其禁足ニ換ヘタル者ハ本人ヲ歸郷セシメ罰文ヲ鎮臺又ハ營所後備軍司令官若クハ分營所在地ノ府縣駐在官ニ送付スヘシ但近衛驅員兵員ヲ東京若クハ臨時指定ノ地ニ召集シタルトキハ近衛各部各隊長ハ本條ノ手續ニ準シ罰人又ハ罰文ヲ近衛副官ニ交付スヘシ

第百十六條 鎮臺營所後備軍司令官ハ前條ノ監倉ニ錮スヘキモノハ之ヲ監獄長ニ交付シ又禁足ニ換ヘタルモノハ其罰文ヲ府縣駐在官ニ送付シ郡區駐在官ニ達シ同官ヨリ更ニ驅

員ハ郡區長兵員ハ戶長ヲ經テ其親族ニ達セシムヘシ又分營ニ在テ禁足ニ換ヘタルモノハ同地ノ府縣駐在官ヨリ本人所屬ノ府縣駐在官ニ通知シ且其旨ヲ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ申告スヘシ但近衛驅員兵員ヲ東京若クハ臨時指定ノ地ニ召集シタルトキハ近衛副官本條ノ手續ニ準シ罰人ヲ其地ノ陸軍監獄長ニ交付シ罰文ハ各鎮臺後備軍司令官ニ送付スヘシ

第百十七條 第百十四條ニ當ル者ノ私服ハ鎮臺營所後備軍司令官若クハ分營所在地ノ府縣駐在官ニ預リ居キ疾病快癒又ハ事故止ミタルトキ本人ニ付與シ且旅費ヲ監督部ニ請求シテ本人ニ支給シ然ル後歸郷セシムヘシ但東京若クハ臨時指定ノ地ニ召集シタル近衛驅員兵員ニシテ第百十四條ニ當ル者ハ近衛副官部ニ於テ本條ニ準シ取扱ヒ尙ホ其歸郷セシメタル者ノ人名ヲ各鎮臺後備軍司令官ニ通知スヘシ

第百十八條 解散ノトキ驅員(下士)兵員ニシテ疾病ニ罹リ發程スルコト能ハサル者アルトキハ全快ヲ待テ歸郷セシムヘシト雖モ陸軍醫官ノ診斷書ニ據リ車駕料ヲ給シ歸郷セシムルコトアルヘシ

第百十九條 解散ヲ命セラレタル驅員兵員既ニ歸郷シタルトキハ其旨ヲ着後三日以内ニ第百五條第百六條ノ手續ニ由リ届出ヘシ

第百二十條 鎮臺營所後備軍司令官府縣駐在官及ヒ郡區駐在官ハ各所ノ通報ニ據リ召集中ニ係ル驅員兵員ノ缺勤罰科等ヲ其名簿ニ記注スヘシ其近衛驅員ノ缺勤罰科等ハ近衛副官ニ於テ其名簿ニ記注スヘシ但疾病又ハ其他ノ事故ニテ召集ニ應セサル者ハ郡區駐

在官ニ於テ各自ノ手帖ニ其事由ヲ記注スヘシ

第二百一十一條 鎮臺營所後備軍司令官并ニ分營所在地ノ府縣駐在官ハ演習召集人員表(第七機式)ヲ作り驅員兵員解散後十日以内ニ鎮臺ニ差出シ鎮臺ニ於テハ一軍管ニ取纏メ之ヲ陸軍省ニ差出スヘシ但近衛驅員兵員ニシテ東京若クハ臨時指定ノ地ニ召集シタル者ノ演習召集人員表ハ近衛副官ニ於テ作り近衛ヨリ陸軍省ニ差出スヘシ

第二百二十二條 豫備役驅員兵員演習召集ノキハ第二十八條(第二項第三項ヲ除ク)第三十六條(補充隊ニ係ル事故ヲ除ク)第三十九條第四十六條ヨリ第四十八條ニ至ル諸條第六十九條第七十條(ニケ條其補充隊ニ係ル事項ヲ除ク)第七十一條及ヒ第七十八條ヨリ第八十一條ニ至ル諸條ヲ適用スヘシ

二 後備軍演習召集

第二百二十三條 後備軍驅員兵員既ニ演習令狀ヲ領收スルキハ戶長役場ニ到リ旅費ヲ受領シ其令狀ニ記載スル參集ノ期日ニ其場所ニ參着シ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ届出ヘシ
第二百二十四條 召集ニ應スヘキ後備軍驅員疾病其他ノ事故ニテ召集ニ應シ難キキハ本人又ハ親族ヨリ其事實ヲ詳記シ疾病ノ者ハ陸軍醫官ノ診斷書ヲ添ヘ準士官以上ハ郡區駐在官及ヒ府縣駐在官ヲ經テ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ下士ハ郡區駐在官ヲ經テ府縣駐在官ニ届出ヘシ

第二百二十五條 召集ニ應スヘキ後備役兵員疾病犯罪又ハ失踪逃亡等ニテ召集ニ應シ難キトキハ本人又ハ親族ヨリ疾病ノ者ハ陸軍醫官ノ診斷書ヲ添ヘ其他ノ事故ハ其事由書ニ

憲兵部ノ證認ヲ受ケ戶長ノ與書證印ヲ以テ郡區駐在官ニ届出ヘシ

第二百二十六條 召集ニ應スヘキ後備軍驅員疾病快癒又ハ事故止ミタルトキハ直ニ戶長役場ニ到リ旅費ヲ受領シ召集地ニ向ケ發程スヘシ若シ戶長ニ於テ役場ヨリ召集地迄ノ里程ハ數ヲ算シ演習半迄ニ參着シ難キ見認ノ者ハ發程ヲ差留メ速ニ其旨ヲ郡區駐在官ニ通知シ命ヲ待タシムヘシ但出頭ニ及ハサル達ヲ受ケタルキハ演習令狀ヲ戶長ニ返付スヘシ

第二百二十七條 召集ニ應スヘキ後備役兵員疾病快癒又ハ事故止マルキハ直ニ戶長役場ニ到リ旅費ヲ受領シ召集地ニ向ケ發程スヘシ若シ戶長ニ於テ役場ヨリ召集地迄ノ里程ハ數ヲ算シ演習半迄ニ參着シ難キ見認ノ者ハ發程ヲ差留メ速ニ其旨ヲ郡區駐在官ニ通知シ命ヲ待タシムヘシ但出頭ニ及ハサル達ヲ受ケタルキハ演習令狀ヲ戶長ニ返付スヘシ

第二百二十八條 後備軍演習召集ノキハ第二十八條(第二項第三項ヲ除ク)第四十六條ヨリ第四十八條ニ至ル諸條第五十五條第五十七條第九十三條第九十五條ヨリ第九十九條ニ至ル諸條第一百一條ヨリ第三百三條(ニケ條トモ但書ヲ除ク)ニ至ル諸條第四百條(分注及ヒ但書ヲ除ク)及ヒ第九條ヲ適用シ又其召集シタル驅員兵員ヲ解散セシムルノ手續ハ概テ第一百十條以下諸條ノ例ニ準シ之ヲ行フヘシ

第七章 點呼召集

第二百二十九條 點呼召集ハ鎮臺司令官ニ於テ其期日ヲ定メ鎮臺營所後備軍司令官ニ達シ(營所後備軍司令官ニハ營所司令官ヲ經テ)又陸軍省ニ上申スヘシ

第三百十條 鎮臺營所後備軍司令官ハ前條ノ達ニ從ヒ府縣駐在官ヲ經テ之ヲ郡區駐在官

達シ又同時ニ北海道長官府縣知事ニ通知スヘシ

第三百一十一條 郡區駐在官ハ前條ノ達ニ從ヒ點呼巡迴日割表(第八樣式)ヲ作り府縣駐在官ヲ經テ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ差出シ同官ノ許可ヲ得テ點呼令狀(第九樣式)中ニ點呼ノ日時及ヒ場所等ヲ記シ之ヲ郡區長ニ送付スヘシ

第三百一十二條 郡區長ハ前條ノ令狀ヲ戶長ニ送付シ戶長ハ之ヲ各自ニ配達シ指定ノ場所ニ參會セシムヘシ但點呼ノ場所ニ往復ノ旅費日當ハ官ヨリ之ヲ給セサルモノトス

第三百一十三條 點呼ヲ受クヘキ豫備役後備役兵員既ニ指定ノ場所ニ參着スルトキハ各自手帖ニ點呼令狀ヲ添ヘ郡區駐在官ニ差出ヘシ

第三百一十四條 郡區駐在官ハ便宜ノ地ヲ撰ミ兵種ヲ區別シ一列若クハ二列ニ整列セシメ點呼名簿ノ順序ニ各自ノ姓名ヲ呼ビ終テ團列ヲ作り明治十五年一月四日ノ勅諭並ニ讀法ヲ讀示シ又服役上ノ規則等ヲ試問スヘシ

第三百一十五條 郡區駐在官ハ前條ノ點呼竣ルノ後各自ノ手帖ニ年月日點呼濟ノ印ヲ捺シ之ヲ本人ニ返付シ然後解散セシムヘシ

第三百一十六條 點呼召集ノ期ニ臨ミ疾病犯罪又ハ失踪逃亡等ニテ其場所ニ參會スルコト能サルキハ本人又ハ親族ヨリ疾病ノ者ハ陸軍醫官ノ診斷書ヲ添ヘ其他ノ事故ハ其事由書ニ憲兵部ノ証認ヲ受ケ戶長ノ與書証印ヲ以テ郡區駐在官ニ届出ヘシ但點呼ニ參會セサル者ノ手帖ハ本條ノ届書ト共ニ郡區駐在官ニ差出シ同官之ニ不參ノ事由ヲ記シ更ニ本人又ハ親族ニ返付スヘシ

第三百一十七條 點呼全ク竣レハ郡區駐在官ハ左ノ項目ヲ別チ點呼人員表(第十樣式)ヲ作り點呼景況書ヲ添ヘ之ヲ府縣駐在官ニ差出ヘシ

一 召集ニ應シタル者

二 寄留旅行ノ者

三 疾病傷痍ノ者

四 失踪逃亡若クハ犯罪ノ者

五 徵兵令第二十條各項ニ當ル者

第三百一十八條 府縣駐在官ハ前條ノ報告ヲ一府縣ニ取纏メ之ヲ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ差出シ同官ハ一師管ニ取纏メ之ヲ鎮臺ニ差出シ鎮臺ニ於テハ一軍管ニ取纏メ之ヲ陸軍省ニ差出ヘシ

第三百一十九條 郡區駐在官ハ點呼巡迴ノ際戶長役場ニ備フル所ノ兵員名簿ヲ點檢シ又召集ニ關スル要件ハ詳細之ヲ戶長ニ示シ置クヘシ

第八章 召集準備

第四百十條 平戰兩時ノ召集ヲ容易ナラシムル爲メ準備ノ事項ヲ別チ名簿令狀調査及ヒ雜例ノ四種トス

一 名簿

第四百一十一條 充員召集ニ要スヘキ名簿ハ左ノ如シ

一 豫備役編員充員名簿

- 二 歸休兵充員名簿
 - 三 豫備役兵卒充員名簿
 - 四 豫備役雜卒充員名簿
 - 五 豫備役職工充員名簿
- 第四百四十二條 後備軍召集ニ要スヘキ名簿ハ左ノ如シ

- 一 後備軍驅員召集名簿
- 二 後備役兵卒召集名簿
- 三 後備役雜卒召集名簿
- 四 後備役職工召集名簿

第四百四十三條 定時演習召集ニ要スヘキ名簿ハ後備軍司令部條例ニ掲クル驅員兵員ノ名簿ヲ用フルモノトス但近衛驅員兵員ニ在テハ充員名簿及ヒ後備軍召集名簿ヲ用フヘシ

第四百四十四條 豫備役驅員充員名簿(第十一様式)ハ各兵科各部及ヒ準士官以上ト下士トニ別チ之ヲ調製スヘシ

第四百四十五條 歸休兵豫備役兵員充員名簿(第十一様式)ハ各兵種ニ區別シ種類(歩兵ニ在テハ上等兵銃卒銃卒喇叭卒他兵之ニ準ス以下種類トアルモノ皆同シ)ヲ別チ之ヲ調製スヘシ

第四百四十六條 後備軍驅員兵員ノ召集名簿ハ第四百四十四條第四百四十五條ノ例ニ依リ之ヲ別チ調製スヘシ

第四百四十七條 第四百四十一條第四百四十二條ノ名簿ハ鎮臺下ニ召集スヘキモノハ鎮臺後備軍司令部ニ營所所在地ニ召集スヘキモノハ營所後備軍司令部ニ分營所在地ニ召集スヘキモノハ同地ノ府縣駐在所ニ備置クヘシ但近衛驅員兵員ノ名簿ハ鎮臺營所後備軍司令部ニ備置クヘシ

第四百四十八條 府縣駐在所郡區駐在所郡區役所及ヒ戶長役場ニハ各其管轄内驅員兵員ノ名簿ヲ備置クヘシ但本條ノ名簿ハ各召集地(近衛驅員兵員ハ近衛兵集合地)ニ區別シ調製スヘシ

第四百四十九條 凡ソ名簿ハ各自身上ノ異動アル毎ニ必ス筆削テ加ヘ常ニ明瞭ナラシムヘシ

第四百五十條 前諸條名簿ノ外鎮臺營所後備軍司令部並ニ分營所在地ノ府縣駐在所ニ於テハ戰時名簿ヲ備置クヘシ

二 令狀

第四百五十一條 豫備役及ヒ後備軍驅員ノ召集令狀及ヒ演習令狀ハ鎮臺ニ於テ調製シ郡區駐在所ニ渡シ置ク可シ但近衛驅員ノ令狀ハ近衛ニ於テ調製シ鎮臺ニ送付シ鎮臺ヨリ郡區駐在所ニ渡シ置ク可シ

第四百五十二條 歸休兵並ニ豫備役後備役兵員ノ召集令狀及ヒ演習令狀ハ鎮臺ニ於テ調製シ演習令狀ハ郡區駐在所ニ渡シ置キ召集令狀ハ同官ヲ經テ戶長ニ渡シ置クヘシ但近衛兵員ノ令狀ハ近衛ニ於テ調製シ鎮臺ニ送付シ鎮臺ニ於テハ本條ノ例ニ據リ郡區駐在所

又ハ戸長ニ渡シ置ク可シ

第百五十三條 郡區駐在官ハ豫備役及ヒ後備軍驅員ノ召集令狀ヲ充員名簿及ヒ後備軍召集名簿ニ照較シテ之ヲ其駐在所ニ備置クヘシ

第百五十四條 戸長ハ兵員ノ召集令狀ヲ充員名簿及ヒ後備軍召集名簿ニ照較シ之ヲ其役場ニ備置クヘシ但本條ノ令狀ハ各自身上ノ異動ヲ生スル時ハ書換ヲ要スルモノヲ除クノ外速ニ朱字ニテ之ヲ訂正スヘシ

三 調査

第百五十五條 近衛鎮臺各隊長ハ毎年四月二十日ニ現在スヘキ人員ニ據リ左ノ諸項ニ當ル者ヲ除キ充員所要人員ヲ豫算シ一月二十五日迄ニ又十一月二十日ニ現在スヘキ人員ニ據リ該所要人員ヲ豫算シ八月二十五日迄ニ之ヲ近衛都督若クハ鎮臺司令官(歩兵ハ旅團長ヲ經テ)ニ報告スヘシ

- 一 生兵
 - 二 病者
 - 三 犯罪者
 - 四 逃亡中ノ者
 - 五 前諸項ニ該ル者ノ外戰列ニ加フ可ラサル見認ノ者
- 第百五十六條 近衛都督ハ本營各部並ニ後備諸隊ノ人員ヲ算定シ近衛各隊長ノ報告ヲ合セ之ヲ近衛副官ニ下付スヘシ

第百五十七條 鎮臺司令官ハ本營各部並ニ後備諸隊ノ人員ヲ算定シ各隊長ノ報告ヲ合セ之ヲ鎮臺營所後備軍司令官(營所後備軍司令官ニハ營所司令官ヲ經テ)ニ下付シ又分營ニ召集スヘキ人員ハ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ヨリ同地ノ府縣駐在官ニ下付スヘシ但豫備役及ヒ後備軍驅員人名ハ召集スヘキ鎮臺營所及ヒ分營ニ別チ之ヲ下付スルコト本條ニ同シ

第百五十八條 鎮臺營所後備軍司令官ハ本營各部並ニ各隊所要ノ人員ニ基キ充員名簿先着ノ順序ニ從ヒ戰時定員ニ充足スヘキモノト補充隊ニ充ツヘキモノトヲ明瞭ニ區別シ置キ若シ補充隊人員平時(砲兵ハ戰時)ノ定員ヨリ寡少ナル時ハ入營延期ノ者又ハ補充員若クハ第一豫備隊員ヲ以テ之ヲ填補シ置クヘシ但分營所在地ニ在テハ同地ノ府縣駐在官本條ノ事務ヲ處辨スヘシ

第百五十九條 前條ノ所要ニ充ツヘキ人員ハ別ニ規定スル所ノ豫備役兵不應徵員見込ノ計算ニ基キ豫備役兵員ノ種類毎ニ其所要人員ノ幾分ヲ加ヘ置クヘシ

第百六十條 鎮臺後備軍司令官ハ毎年四月二十日ニ現在スヘキ近衛歸休兵並ニ豫備役後備役兵人員ヲ豫算シ兵種及ヒ種類ヲ分チ二月十三日迄ニ又十一月二十日ニ現在スヘキ該人員ヲ豫算シ兵種及ヒ種類ヲ分チ九月十五日迄ニ近衛副官ニ通知スヘシ

第百六十一條 鎮臺營所後備軍司令官並ニ分營所在地ノ府縣駐在官ハ第百五十八條ノ事務處辨ノ後充員及ヒ後備軍所要人員豫定表(第十二樣式)ヲ作り二月十三日及ヒ九月十五日迄ニ之ヲ鎮臺ニ差出シ鎮臺ニ於テハ初度ノ分ニ限リ分營ニ取纏メ三月十日迄ニ之

陸軍省ニ差出スヘシ

近衛副官ハ前項ニ準シ近衛所要人員豫定表(第十二様式)ヲ作り初度ノ分ニ限リ近衛ヨリ之ヲ陸軍省ニ差出スヘシ但充隊人員平時(砲兵ハ戰時)ノ定員ヨリ寡多ナルトキハ入營延期ノ者又ハ補充員若クハ第一豫備徵員ヲ以テ之ヲ填補シ置クヘシ

四 雜例

第六十二條 鎮臺ニ於テハ豫メ鎮臺下營所及ヒ分營所在地若クハ近衛兵集合地ニ兵員ヲ召集スヘキ場所ヲ定メ置クヘシ但近衛兵集合地ハ別ニ之ヲ指示ス

第六十三條 鎮臺營所後備軍司令部及ヒ分營所在地ノ府縣駐在所ニ於テハ豫備役後備軍員兵員召集ノ發令後其召集地ニ參着迄ノ日數ヲ豫定スル爲メ召集布達兵員到着日數表(第十三様式)ヲ作り之ヲ備置クヘシ

第六十四條 郡區役所ニ於テハ充員若クハ後備軍召集ノ令ヲ戶長ニ送スル爲メ又豫備役員若クハ後備軍員召集ノ令狀ヲ配達スル爲メ豫テ所要ノ脚夫ヲ定メ置クヘシ

第六十五條 郡役所ニ於テハ毎年五月十日十一月十日訓ヲ以テ其管轄内歸休兵並ニ豫備役後備軍員兵員ニ要スル召集旅費ヲ計算シ召集旅費概算表(第十四様式)二通ヲ作り同月三十日迄ニ一通ハ地方廳ニ差出シ一通ハ金庫國庫金取扱所或ハ同出張場又ハ現金支拂所ニ送付スヘシ

第六十六條 地方廳ニ於テハ前條ノ召集旅費概算表ヲ取纏メ各郡區分ケニシテ之ヲ一表ニ作り毎年六月二十日及ヒ十二月二十日迄ニ陸軍省ニ差出スヘシ

第六十七條 戶長役場ニ於テハ充員若クハ後備軍召集ニ當リ歸休兵並ニ豫備役後備軍員兵員ニ召集令狀ヲ配達スル爲メ豫テ所要ノ脚夫ヲ定メ置クヘシ(諸様式畧之)

○陸軍召集條例ニヨリ召集細務ヲ規定シ届出方 明治二十年四月 陸軍省訓令甲第五號 北海道廳府縣(沖繩縣ヲ除ク)

陸軍召集條例第二十四條ニ據リ陸軍歸休兵及常備役後備軍員兵員臨時召集ノ細務規定ノ上ハ其原本ヲ添ヘ直ニ當省ヘ届出ヘシ爾後増減變更シタルトキ亦同シ

○歸休兵豫備役後備軍員定時演習召集ニ際シ延期出願準則 明治二十年六月 陸軍省訓令甲第七號 北海道廳府縣(沖繩縣ヲ除ク)

陸軍歸休兵並ニ豫備役後備軍員兵員ニシテ定時演習召集ニ際シ父母ノ重病或ハ死亡等ノ故ヲ以テ召集ノ延期ヲ願フ者ハ二週日以内延期スルコトヲ得其準則ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 一 豫備役後備軍員ハ後備軍司令官ニ願出テ許可ヲ受ケシムヘシ
 - 一 歸休兵並ニ豫備役後備役兵員ハ戶長ノ與書証印ヲ以テ府縣駐在官ニ願出テ許可ヲ受ケシムヘシ
 - 一 診斷書又ハ証明書ヲ願書ニ添ヘ差出サシムヘシ
 - 一 前諸項ニ掲クルモノ、外實際ノ取扱ハ鎮臺廳府縣ニ於テ適宜之ヲ定ム可シ
- 陸軍召集條例第十四様式ニヨリ召集旅費概算表調査方 明治十九年十二月 陸軍省訓令第三號

本年省令甲第三十九號陸軍召集條例第十四樣式召集旅費概算表ハ現員ノ十分ノ三ヲ加ヘ調査ス可シ

但本文十分ノ三ニ當ル人員ノ旅費金ハ現員中最遠隔ノ者ニ均シキ額ヲ以テ算ス可シ

●徵發令 明治十五年八月 第四十三號布告

第一條 徵發令ハ戰時若クハ事變ニ際シ陸軍或ハ海軍ノ全部又ハ一部ヲ動かスニ方リ其所要ノ軍需ヲ地方ノ人民ニ賦課シテ徵發スルノ法トス

但平時ト雖モ演習及ヒ行軍ノ際ハ本條ニ准ス

第二條 徵發ハ陸軍若クハ海軍官憲ノ徵發書ヲ以テ之ヲ行フ

第三條 左ニ列記スル官憲ハ徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス

一 陸軍卿海軍卿鎮臺司令官及ヒ鎮守府長官

二 陸軍ニ於テハ特命司令官軍團長師團長旅團長分遣隊長若クハ演習及ヒ行軍ノ軍隊長

三 海軍ニ於テハ特命司令官艦隊司令官官艦隊司令官分遣艦長若クハ操練及ヒ航海ノ艦隊司令官又ハ艦長

第四條 徵發ス可キモノ、種類ニ依リ徵發區ニ會社モ之ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 第十二條第一項ハ

府縣

二 第十二條第二項及ヒ第三項ハ

郡區

三 第十二條第四項以下各項及ヒ第十三條各項ハ

町村

四 船舶會社所有ノ船舶及ヒ鐵道會社所有ノ機車ハ

會社

第五條 徵發スヘキモノハ徵發區内ニ現在スルモノニ限ル

第六條 徵發書ハ徵發區ニ從ヒ府知事縣令郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ付ス可シ

第七條 徵發書ヲ受ケタル府知事縣令郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ハ時期ヲ誤ルコトナク其供給ヲ完全セシムルノ責アルモノトス

第八條 各徵發區ニ於テハ臨時徵發ニ應ス可キ便宜ノ方法ヲ豫定ス可キモノトス

第九條 徵發ヲ課セラレタルモノハ時期ニ違フコトナク之ヲ供給スルノ義務アルモノトス若シ其時期ニ違フトキハ府知事縣令郡區長戶長他ノ方法ヲ以テ調達シ爲メニ生シタル費用ハ本人ヲシテ之ヲ辨償セシム但會社ニ係ルモノハ陸海軍官憲直ニ其處分ヲ爲ス可シ

第十條 徵發ヲ課セラレタルモノノ商用其他ノ事故ヲ以テ供給ヲ拒ミ又ハ供給スヘキモノヲ藏匿シタルトキハ直ニ之ヲ使用スルコトヲ得

第十一條 供給ヲ受ケタル陸海軍官憲ハ其受領證書ヲ府知事縣令郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ交付スヘシ

第十二條 徵發ス可キモノ左ノ如シ

- 一 米麥秣藪鹽味噌醬油漬物梅干及ヒ薪炭

兵事

- 二 乘馬 馱馬 駕馬 車輛 其他 運搬ニ供スル 獸類及ヒ器具
 - 三 人夫
 - 四 宿舍 廐園及ヒ倉庫
 - 五 飲水 石炭
 - 六 船舶
 - 七 鑛道 瀛車
 - 八 演習ニ要スル地所
 - 九 演習ニ要スル材料器具
- 第十三條 戰時若クハ事變ニ際シテハ第十二條ノ諸項ニ掲グルモノ、外徵發ス可キモノ左ノ如シ但平時ノ演習及ヒ行軍ニハ徵發スルコトヲ得ス
- 一 造船所 工作所及ヒ軍事ノ工作ニ要スル材料器具
 - 二 職工 礦夫 洗濯人ノ類
 - 三 被服 裝具 草鞋 兵器 彈藥 船具 寢具 藥劑 治療器械及ヒ綑帶具
 - 四 水車 搗杵ノ類
 - 五 病院
- 第十四條 第十二條第二項中徵發ノ免除ヲ受ク可キモノ左ノ如シ
- 一 皇族所用ノ車馬
 - 二 外國公使館并ニ領事館ニ屬スル車馬

- 三 乘馬 本分タル職務ニ要スル馬匹
 - 四 郵便用ノ車馬
 - 五 公認セラレタル種牛種馬
- 第十五條 第十二條第四項中徵發ノ免除ヲ受ク可キモノ左ノ如シ
- 一 公務ニ屬スル麻署
 - 二 皇族ノ邸宅
 - 三 外國公使館領事館及ヒ其所屬館
 - 四 鐵道電信郵便用ノ建造物
 - 五 陸海軍將校并ニ同等官現住ノ家屋
 - 六 博物館書齋館
 - 七 病院盲啞院養兒院
 - 八 學校但臨戰合圍地境內ニ在リテハ此限ニ在ラス
 - 九 製造場内機械室
- 第十六條 第十二條第二項ニ掲グルモノ、使用ハ其原用ヲ轉シテ他用ニ供スルヲ許サス但戰時若クハ事變ニ際シテハ此限ニ在ラス
- 第十七條 第十二條第二項ニ掲グルモノハ其差出場所ヨリ六里未滿ノ地ニ於テ使用スルヲ例トシ一日ノ使用ハ六里ニ越ユルコトヲ得ス但戰時若クハ事變ニ際シテハ六里以外ノ地ニ使用スルコトヲ得

第十八條 第十二條第四項ニ掲グルモノハ合圍地境内ヲ除クノ外居住者ノ起臥及ヒ營業ニ必要ナル場所ヲ徵用スルコトヲ得ス但營業ニ必要ナルモ旅店等ハ此限ニ在ラス

第十九條 宿舍ノ廣狹ハ其地家屋ノ數ト隊伍ノ編制トニ從ヒ一定シ難シ故ニ臨時適宜ニ之ヲ定ム

第二十條 第十二條第四項ニ掲グルモノハ陸軍若クハ海軍ノ都合ニ依リ特ニ其場所ヲ指定スルコトアル可シ

第二十一條 宿舍ヲ定メタルノ後ハ區町村ノ便宜ヲ以テ他ニ移轉セシムルコトヲ許サス廐園倉庫亦同シ

第二十二條 宿舍廐園ノ徵發ヲ課セラレタルモノハ併セテ人馬ノ食飼ヲ供給ス可シ但駐軍三日以上ニ至ルトキハ第四日ヨリ食飼ハ陸軍若クハ海軍ノ自辨トス

第二十三條 第十二條第六項ノ徵發ニ係リ其乘載人馬ノ食飼ヲ要スルモノハ併セテ供給セシム

第二十四條 第十二條第六項及ヒ第七項ニ掲グルモノハ戰時若クハ事變ニ際シ借切トシテ之ヲ徵用スルコトアル可シ

第二十五條 第十二條第二項第六項及ヒ第七項ニ掲グルモノハ其操業者ヲ併セテ徵用スルヲ例トス但時宜ニ依リ各個ニ分別シテ徵用スルコトヲ得

第二十六條 第十二條第六項ニ掲グルモノヲ操業者ト各個ニ分別シテ徵用スルハ戰時若クハ事變ノ際ニ限ル但船橋及ヒ舢舨ニ充ツルモノハ此限ニ在ラス

第二十七條 第十二條第七項ニ屬スル瀛車其屬具鐵道建築所用ノ材料器具及ヒ操業者ヲ各個ニ分別シテ徵用スルハ戰時若クハ事變ノ際ニ限ル

第二十八條 第十三條第五項ニ掲グルモノハ陸海軍病院ノ補助トシテ徵用スルヲ例トス但合圍地境内ニ在リテハ全ク明渡サシムルコトヲ得

第二十九條 徵發ニ係ルモノハ第三十一條乃至第五十條ニ定ムル所ノ方法ニ從ヒ賠償ス

第三十條 徵發物件ヲ差出場所ニ輸送スルハ徵發區ノ義務トシ其輸送費ヲ支辨セス

第三十一條 賠償ハ平時ト戰時トヲ論セス其時々之ヲ支辨スルモノトス但戰時若クハ事變ニ際シ紛擾ノ爲メ延滞シテ三ヶ月ヲ越ユルトキハ年六分ノ割ヲ以テ其利子ヲ付ス

第三十二條 賠償ハ徵發區毎ニ一括シテ府知事縣令郡區長戸長停車場長船舶會社ノ店長ヨリ之ヲ請求ス可シ

第三十三條 徵發物件ノ其使用ノ爲メニ毀損シタルモノハ賠償ス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

其毀損ハ持主若クハ操業者ヨリ速ニ其地ニ在ル陸海軍官憲若クハ區戸長ニ届出可シ其届出ハ徵用濟引渡ノ後左ノ期限ヲ越ユ可カラス若シ其期限ヲ越ヘ又ハ期限内持主若クハ操業者ニ於テ使用セシトキハ無効トス

- 一 西洋形船舶 七日間
- 二 地所 評價委員ノ告示スル時日間
- 三 其他ノ物件 一日間

兵事

第三十四條 第十二條第一項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其地市場ノ前三ヶ年間ノ平均價ヲ取リ之ヲ定ム其平均價ノ取リ難キモノハ評價委員ノ評定ニ任ス

第三十五條 第十二條第二項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其郡區平常ノ賃價トス但物件ト操業者トチ各個ニ分別シテ徵用シタルトキハ其郡區平常ノ雇賃及ヒ借賃ニ准シテ賠償ス

第三十六條 第十二條第二項ノ徵發ニ係ルモノヲ宿泊セシメ連日使用スルトキ及ヒ六里以外ノ地ニ於テ使用スルトキハ第三十二條ノ例ニ拘ハラズ賃價ノ半額ヲ前給シ宿泊食飼ヲ官給シ但此場合ニ於テハ賃價ノ四分ノ一ヲ減ス

第三十七條 第十二條第二項及ヒ第六項ニ掲クルモノヲ買上クルトキハ勿論其他使用ノ都合ニ依リ價格ノ豫定ヲ要スルトキハ其金額ヲ定メ置ク可シ其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

第三十八條 第十二條第三項ノ徵發ニ係ルモノハ第三十五條ニ准シテ賠償シ第三十六條ヲ適用ス

第三十九條 第十二條第四項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ陸海軍省ニ於テ之ヲ定ム

第四十條 第十二條第五項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其地平常ノ代價トス

第四十一條 第十二條第六項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ別ニ命令書アルモノ、外左ノ區別ニ從フ

一 出船ノ定時アリテ定路ヲ航スルモノハ平常ノ定賃

二 定路ヲ航スルモ特ニ出船時日ヲ命シタルトキハ其乘載量五分ノ三ニ滿テタル以

上ハ前項ノ例ニ準ス若シ之ニ滿テサルモ五分ノ三ニ値ル平常ノ定賃

三 出船及ヒ航路ノ定メナクシテ定賃ナキモノ又ハ運送ヲ以テ營業トセサルモノ等其賠償金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定額

第四十二條 第二十四條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者平常ノ給料航泊賃費及ヒ船舶ノ損料トス其損料ハ一ヶ月ニ各船舶買入代價六十四分ノ一トス

第四十三條 第二十六條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者ニハ平常ノ給料船舶ニハ第四十二條ノ損料トス但船橋及ヒ解船ニ充テタルモノ、賠償金額ハ第四十一條第三項ニ準ス

第四十四條 第十二條第七項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ別ニ命令書アルモノ、外平常ノ定賃トス

第四十五條 第二十七條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者ニハ平常ノ給料物件ニハ其地平常ノ代價若クハ損料トス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

第四十六條 第十二條第八項ノ徵發ニ係ルモノハ其植物ニ損害ヲ加ヘ又ハ地形ヲ變更シタルトキニ限り賠償ス其金額ハ評價委員ノ評定ニ任ス

第四十七條 第十二條第九項ノ徵發ニ係ルモノハ其地平常ノ代價若クハ相當ノ損料ヲ賠償ス

第四十八條 第十三條第一項第三項及ヒ第四項ノ徵發ニ係ルモノハ其地平常ノ代價若ク

ハ損料ヲ賠償ス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス
第四十九條 第十三條第二項ノ徵發ニ係ルモノハ第三十五條ニ准シテ賠償シ第三十六條
ヲ適用ス

第五十條 第十三條第五項ノ徵發ニ係ルモノハ通常患者ノ例ニ從フテ賠償ス全ク明渡サ
シムルトキハ第三十九條ノ例ニ准ス

第五十一條 徵發ヲ拒ミ或ハ規避シ或ハ漫リニ使役ヲ離レタルモノ及ヒ之ヲ教唆誘導シ
タルモノハ一年以上以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五十二條 徵發ノ命令ヲ受ケタル府知事縣令郡區長戸長停車場長船舶會社ノ店長其處
置ヲ爲サ、ルモノハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ貳拾圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附
加ス其懈怠ニ出ルモノハ貳拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十三條 徵發書ヲ出スノ權ヲ有スル官憲安ニ徵發書ヲ出シ又ハ其權ヲ有セサル官憲
徵發書ヲ出シタルトキハ一年以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

○徵發令ニ依リ負擔スヘキ費用ノ怠納者處分及右費用ニ關スル處分ニ付
出訴方 明治十六年八月
第三十一號布告

徵發令ニ依リ負擔ス可キ費用ノ怠納者ハ明治十年 十一月 第七十九號布告ニ依リ處分ス可シ
但財産公賣ノ際買受望入ナキトキハ徵發區ニ没入シ不足金アルトキハ其區ノ損失ニ歸ス
右費用ニ關スル處分ニ付不服アル者ハ明治十五年五月第貳拾貳號布告ニ依ルヘシ

●徵發事務條例 明治十五年十二月
第二十六號公達

第一條 徵發事務條例ハ徵發令ニ基キ實際取扱ノ規準ヲ定ムルモノトス

第二條 陸軍若クハ海軍官憲ハ徵發區ノ大小遠近及ヒ供給力ヲ酌量シ供給ヲ受ク可キ日
時ヲ豫定シテ徵發書ヲ出ス可シ

第三條 徵發書ノ書式ハ附錄第一號ノ例ニ準ス但戰時若クハ事變ニ際シテハ電信ヲ以テ
徵發スルコトヲ得

第四條 徵發令第三條第二項及ヒ第三項中ニ掲グル特命司令官軍團長師團長艦隊司令長
官ハ時機ニ依リ其部下ノ各團長若クハ各艦隊司令官ニ徵發書ヲ出スノ權ヲ分任スルコ
トヲ得

第五條 徵發令第三條第二項中ニ掲グル特命司令官軍團長師團長旅團長分遣隊長第三項
中ニ掲グル特命司令官艦隊司令官長官艦隊司令官分遣艦長ハ其獨立中ニ限り徵發書ヲ出
スノ權ヲ有ス故ニ師團長艦隊司令官ト雖モ軍團若クハ二艦隊以上ニ編制セラレタルト
キハ徵發書ヲ出スノ權ナシ其軍團長若クハ艦隊司令官ノミ之ヲ有ス

第六條 徵發令第三條第二項中ニ掲グル演習及ヒ行軍ノ軍隊長トハ諸團隊ヲ統フル長官
以テ言ヒ第三項中ニ掲グル操練及ヒ航海ノ艦隊司令官トハ諸艦ヲ統フル長官トシ艦長
トハ先任艦長又ハ獨立艦長ヲ言フモノニシテ其長ノミ徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス但陸軍
演習若クハ海軍操練ノ時一ノ總指揮官ヲ置クト雖トモ其部下ノ團隊若クハ各艦往返發
着ノ地ヲ異ニスルトキハ往返中ニ限り其團隊長若クハ艦長各自ニ徵發書ヲ出スノ權ヲ
有ス

第七條 徵發ニ應タル人員ハ勉メテ彈丸ノ達セサル場所ニ於テ之ヲ使用ス可シ
 第八條 徵發物件其徵發ヲ課セラレタル地ニ現在スルモ其所有者又ハ其支配人不在ナル
 其町村内ニ住スル親族又ハ預リ主又ハ同立會ノ上其物件ヲ調
 査シ供給セシム可シ
 第九條 徵發ヲ課セラレタルモノハ徵發令第十二條第六項第七項第八項第十三條第一項
 中造船所工作所第四項第五項ノ物件及ヒ第二十條ノ場合ヲ除ク外其現在ノ所有品ヲ
 供給セサルモ便宜ニ從ヒ他ノ同品種ノモノヲ以テ換給スルコトヲ得其徵發ニ應ス可キ
 人員亦同シ

第十條 徵發書ハ徵發令第六條ニ依リ府知事縣令郡區長戸長若クハ停車場長船舶會社ノ
 店長ニ付ス可シト雖モ臨戰若クハ合圍ノ地ニ在テ時器切迫シタル場合ニ於テハ府縣ニ
 付ス可キモノヲ郡區又ハ町村ニ付シ郡區ニ付ス可キモノヲ町村ニ付シ店長ニ付ス可キ
 モノヲ船長ニ付スルコトアル可シ
 右ノ手續ヲモ爲ス能ハサル場合ニ於テハ徵發書ヲ出スノ權アル官憲ヨリ直ニ人民ニ賦
 課シテ徵發スルコトアル可シ但此場合ニ於テハ徵發書ヲ用ヒス本人ニ受領証票ヲ交付
 スルニ止ル
 本條ノ場合ニ於テハ徵發ヲ行ヒタル官憲定例ノ順序ニ從ヒ府知事縣令郡區長戸長若ク
 ハ店長ニ其旨ヲ通知ス可シ

第十一條 徵發ノ命令ヲ受ケタルモノハ晝夜ヲ別タス速ニ其處置ヲ爲ス可シ

第十二條 徵發書ヲ受ケタル徵發區ニ於テ賦課ノ數ニ不足スルトキハ速ニ供給ヲ受ク可
 キ官憲ニ報告ス可シ

町村ニシテ郡區長ヨリ徵發ノ賦課ヲ受ケ郡區ニシテ府知事縣令ヨリ徵發ノ賦課ヲ受ケ
 タルトキ其賦課ノ數ニ滿ル能ハサルニ於テハ戸長ハ郡區長ニ郡區長ハ府知事縣令ニ速
 ニ其旨ヲ報告ス可シ但此場合ニ於テハ陸海軍官憲若クハ府縣廳郡區役所ヨリ吏員ヲ派
 出シ檢査セシムルコトアル可シ

郡區長府知事縣令其報告ヲ受ケタルトキハ郡區長ハ他ノ町村ニ府知事縣令ハ他ノ郡區
 ニ賦課シテ供給ヲ完全セシム可シ

第十三條 府知事縣令徵發令第十二條第一項ニ係ル徵發書ヲ受ケタルトキハ速ニ其賦課
 シタル郡區ノ名及ヒ量數ヲ陸海軍官憲ニ報告ス可シ

第十四條 府知事縣令郡區長及ヒ戸長ハ徵發令第八條ニ從ヒ徵發ニ應スル便宜ノ方法ヲ
 豫定ス可シ

第十五條 徵發ヲ課セラレタルモノノ供給ノ時期ニ違ヒタルトキハ徵發令第九條ニ照シ處
 分ス可シト雖モ正當ノ事由ヲ證明シタルトキハ辨償セシムルノ限ニアラス

第十六條 徵發令第十一條ニ掲ケル受領証票ハ附錄第二號雜形ニ依リ調製ス可シ

第十七條 受領証票ハ徵發令第十二條第一項第五項ノ物件及ヒ總テ買上ケニ屬スル物件
 ニ係ルトキハ領收ノ際直ニ之ヲ交付シ其他ハ徵用濟ノ後之ヲ交付ス可シ但徵用濟ノ後
 交付スル場合ニ於テハ同令第十二條第四項第七項第八項第十三條第一項中造船所工作

兵事

所第四項及第五項ニ掲クルモノヲ除クノ外當初領收ノ際假受領証ヲ交付ス可シ

第十八條 徵發令第十二條第二項第三項及第十三條第二項ニ掲クルモノヲ宿泊セシメテ連日使用シ若クハ六里以外ノ地ニ於テ使用スルトキ并ニ同令第十二條第六項ニ掲クルモノノ解船及ヒ船ヲ借切トシテ徵用スルトキハ特ニ本人若クハ操業者ニ受領証票ヲ交付スルコトアル可シ

第十九條 徵用十五日以上ニ及フモノハ一個月ニ一回若クハ二回期ヲ定メテ受領証票ヲ交付ス可シ

第二十條 徵發令第十二條第一項ニ掲クルモノ、徵發ヲ賦課スルハ其物品ノ營業者ヲ先トシ尙ホ完全セサルトキニ限り他ノ人民ニ賦課ス可シ其賦課ニ就テハ其地方及ヒ所有者ヲシテ困乏ニ陥ヒラサシムル爲メニ相當ノ分量ヲ各所有者ノ許ニ殘シ置ク可シ其分量ハ其地運送ノ便否及ヒ生計ノ現況ヲ酌量シテ之ヲ定ム可シト雖モ此ニ其最下限ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 一 營業者所有ノ物品ハ徵發書ノ日付ヨリ前十日間ニ其府縣内ニ賣拂ヒタル量但所有者ノ帳簿ニ基キ算定ス可シ
- 二 他ノ人民所有ノ物品ハ其一家ニ要スル十日間ノ量
- 三 秣藁ハ其家畜ニ要スル七日間ノ量

第二十一條 郡區長ハ附錄第三號雛形ニ依リ毎年一月一日調ヲ以テ徵發物件表ヲ製シ之ヲ府縣廳ニ差出シ府縣廳ハ其年三月三十一日限り之ヲ陸軍省ニ送付ス可シ

第二十二條 郡區長ハ徵發物件表ノ副本ヲ其役所ニ備ヘ戶長ハ町村ニ係ル書類ヲ其役場ニ備ヘ置キ物産ヲ除クノ外増減ヲ記シ供給ノ便宜ニ供ス可シ

第二十三條 徵發物件表ハ左ノ諸項ニ照シ調製ス可シ

- 一 馬匹車輛ハ其郡区内ニ於テ登時實用ヲ爲スモノ
- 二 人夫ハ其郡区内ニ於テ負擔ニ係ル業跡ヲ爲スモノニシテ年齢十七歳ヨリ六十歳迄ノモノ
- 三 廐園倉庫ハ貸廐貸庫ニ限ル
- 四 職工ハ總數ヲ表中ニ掲ケ備考中ニ就キ其業跡ヲ分テ記ス可シ
- 五 官廨軒寺學校屠場水車場ノ坪數ハ調査ニ及ハス
- 六 物産中米麥等ノ如キハ其高ヲ記ス可シ
- 七 郵便局アル町村ニハ〇其爲替局ハ◎電信分局ハ㊦其線路ハ㊧鐵道ハ一ノ符號ヲ附ス可シ

第二十四條 府知事縣令ハ郡區長ヨリ受ケタル徵發物件表ニ照シ附錄第四號雛形ニ依リ其管下ニ係ル徵發物件概覽表ヲ製シ各郡區徵發物件表ト共ニ陸軍省ニ送付スヘシ

第二十五條 北海道廳長官府縣知事ハ附錄第四號一三三五號一三三三號ニ依リ西洋形船舶器械製造修履場表日本式西洋式鑄造場表旋盤三臺以上裝置鐵工場表船舶表瀛船表ヲ製シ毎年三月三十一日限り海軍省ヘ送付スヘシ但其管内ニ於テ新タニ構造シ若クハ買入タル瀛船アル時ハ第五號三ノ雛形ニ依リ瀛船表ヲ製シ其時々同省ヘ送付スヘシ
年十一月閣令
第廿九號改正

第二十六條 徵發令第十二條第二項第六項第七項ニ掲クルモノハ總テ使用ノ爲メニ必用ナル屬具ヲ併セテ供給ス可キモノトス故ニ其屬具ニ對スル賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第二十七條 徵發令第十二條第六項ニ掲クル船舶中郵便船ニ限リ其通信ノ用ニ供スル間ハ之ヲ借切ルコトヲ得ス又出船ノ定期若クハ航路ヲ變シテ徵用スルコトヲ得ス

第二十八條 徵發令第十八條中居住者ノ起臥ニ必要ナル場所トハ寢所及ヒ庖廚ヲ指シ營業ニ必要ナル場所トハ商估ノ店舗農工ノ仕事場ヲ言フ又旅店等トハ料理店貸座敷貨廩等ヲ包含ス

第二十九條 宿舍ノ廣狹ハ徵發令第十九條ニ從ヒ臨時ニ定ムルモノナリト雖モ戶長ニ於テ賦課ノ際標準ト爲ス可キモノヲ概定スルコト左ノ如シ

- 一 廨署 陸海軍官憲ヨリ指示スル所ノ室若クハ家屋
- 二 將官其參謀部ト共ニ 一家屋
- 三 上長官又ハ同等軍屬一名 一室
- 四 士官又ハ同等軍屬二名 一室
- 五 下士又ハ同等軍屬一名 一疊半乃至二疊
- 六 卒又ハ同等軍屬一名 一疊乃至一疊半
- 七 徵發ニ應シタル人員三名 二疊

第三十條 戶長ハ陸海軍ノ宿割主任官ニ商議シテ適宜ニ宿舍ノ配當ヲ定ム可シ

第三十一條 徵發令第二十一條ニ從ヒ町村ノ便宜ヲ以テ他ニ轉移セシムルコトヲ許サス

ト雖モ若シ該家ニ病者死者等アルトキハ戶長他ニ相當ノ宿舍ヲ設ケテ轉移ヲ請求スルコトヲ得但之カ爲メ徵發令第二十二條ニ掲クル日限ヲ更新スルモノニアラス

第三十二條 徵發令第二十二條ニ從ヒ馬ニ供給ス可キ食飼ノ定量大率ヲ左ノ如シト雖モ陸海軍給與ノ規則ニ由リ定量以內ヲ以テ臨時ニ變換或ハ減少スルコトアル可シ

- 一 人 精米每食二合 朝夕飯一汁一菜漬物午飯 一菜漬物
- 二 馬 駐軍中 朝大麥二升秣五百目喰藁五百五十目 晝秣五百目 喰藁五百五十目 夕大麥二升秣五百目喰藁二百目
- 演習及ヒ行軍中 朝大麥二升秣五百目 晝大麥一升 夕大麥二升秣一貫目 喰藁五百目
- 小麥ヲ大麥ニ喰藁ヲ秣五百目代用スルトキ 朝小麥一升喰藁一貫目 晝小麥五合 夕小麥一升五合喰藁二貫目
- 搗麥又ハ裸麥ヲ大麥ニ喰藁ヲ秣五百目代用スルトキ 朝搗麥又ハ裸麥一升喰藁一貫目 晝搗麥又ハ裸麥一升 夕搗麥又ハ裸麥二升喰藁一貫目
- 寢蓆ハ軍馬一頭ニ付一日一貫目ヲ要スルモノトス

第三十三條 宿舍ノ徵發ヲ課セラレタルモノハ室内所要ノ燈火並ニ其地ノ慣用ニ從ヒ地爐若クハ火鉢薪炭ニ每室ニ一個ヲ給ス可シ其賠償ハ宿舍ノ賠償金額中ニ包含ス

第三十四條 寢具ノ徵發ニ係ル賠償ハ宿舍ノ賠償金額中ニ包含セズ徵發令第四十八條ニ從ヒ賠償ス

第三十五條 宿舍ノ徵發ヲ課セラレタルモノ 公有家屋社 寺亦同シ 食飼ニ供ス可キ物品又ハ手傳人 不足シ供給ヲ爲シ能ハサルノ証アルトキハ 戸長ニ於テ賄ノ受負ヲ立ツル歟若クハ物品 及ヒ手傳人ヲ其本人ニ供スル等ノ取扱ヲ爲シ其方法ハ本條例第十四條ニ准ス可シ

第三十六條 町村ヨリ供給スル所ノ船舶ニシテ其乘載人馬ニ要スル食飼ノ物品不足スル トキハ 戸長ニ於テ其物品ヲ供ス可シ但航海先ニ於テハ本條例第三十七條ニ准シテ處分 ス可シ

第三十七條 會社ヨリ供給スル所ノ船舶ニシテ其乘載人馬ノ食飼ヲ供給スルコト能ハサルヲ証明スルトキハ 現品ヲ官給シ其費用ハ賠償金ヲ以テ差引テ立ツ可シ

第三十八條 食飼ノ定賃ナキ船舶ヲ徵用シ船主船長ヲシテ其食飼ヲ供給セシムルトキハ 陸海軍官憲ニ於テ其時々賠償金額ヲ定ム可シ其借切トシテ徵用シムルトキ亦同シ

第三十九條 徵發物件ノ差出場所ハ各徵發區内ニ設クルヲ定例トス但府縣ヲ以テ徵發區ト爲スモノ、差出場所ハ賦課セラレタル郡區ニ一個所若クハ二個所ヲ設ク可シ 差出場所ハ陸海軍官憲之ヲ指定ス

第四十條 徵發區ハ徵發令第三十條ニ從ヒ徵發物件ヲ差出場所ニ輸送スルノ義務アルヲ以テ之カ爲メニ生シタル費用ハ其區ノ負擔トス可キモノトス

第四十一條 郡區長ハ徵發人馬ノ供給ヲ便宜ニセシカ爲メ豫テ鄰郡區長ト商議シ近傍町村ヲ適宜ニ割合ヒ組合町村ヲ定ムルヲ得

第四十二條 賠償金請求ノ月日及ヒ場所ハ供給ヲ受ケシ陸海軍官憲ヨリ之ヲ其府知事縣

令郡區長戸長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ指示ス可シ

第四十三條 府知事縣令郡區長戸長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ハ附錄第六號ノ例ニ准シ賠償金計算書ヲ調製シ陸海軍官憲ヨリ交付ノ受領證票ヲ添ヘ其請求ヲ爲ス可シ但 徵發令第三十六條及ヒ第三十八條ニ掲クルモノアルトキハ其計算書ニ別項ヲ設ケテ差引ヲ立ツ可シ又評價ニ屬スル件自ノ賠償ハ別途ニ支給スルヲ以テ該件目ニ就テハ評價ノ二字ヲ記載ス可シ

第四十四條 徵發令第三十一條ニ定ムル三個月ノ期限ハ受領證票ヲ交付シタル月ヨリ起算ス但陸海軍官憲ヨリ指示セシ請求ノ月日若クハ場所ヲ該請求者ニ於テ誤リタル爲メ又ハ賠償金計算書ノ違算若クハ不合式ニ依リ推問往復ノ爲メニ消費シタル時日ハ算入セズ

第四十五條 徵發令第十二條第二項及ヒ第三項ノ徵發ニ係ルモノヲ終日若クハ連日使用スルトキ及ヒ六里以外ノ地ニ使用スルトキハ日割ヲ以テ賠償シ其他ノ場合ニ於テハ里程ニ應ジテ賠償ス若シ差出場所ニ集合シタルモノ官ノ都合ニテ不用トナリタルトキハ日割ヲ以テ賠償ス可キモノハ半日分ヲ給シ里程ニ應ジテ賠償ス可キ者ハ其半額ヲ給ス

第四十六條 徵發物件ノ毀損シタルトキハ徵發令第三十三條ニ從ヒ其使用ヲ主管スル陸海軍官憲ニ届出可シ若シ引渡ヲ受ケタル後毀損ヲ發見セシトキハ其引渡ヲ爲セシ陸海軍官憲ニ届出可シ其官憲既ニ出發セシトキハ 戸長ニ届出可キモノトス

第四十七條 毀損ノ届出ヲ受ケタル陸海軍官憲ハ直ニ之ヲ調査シ其毀損果シテ使用ヨリ